岡山縣商工要覽

昭和十年刊行

K670
1
O-35

岡山縣商工要覽

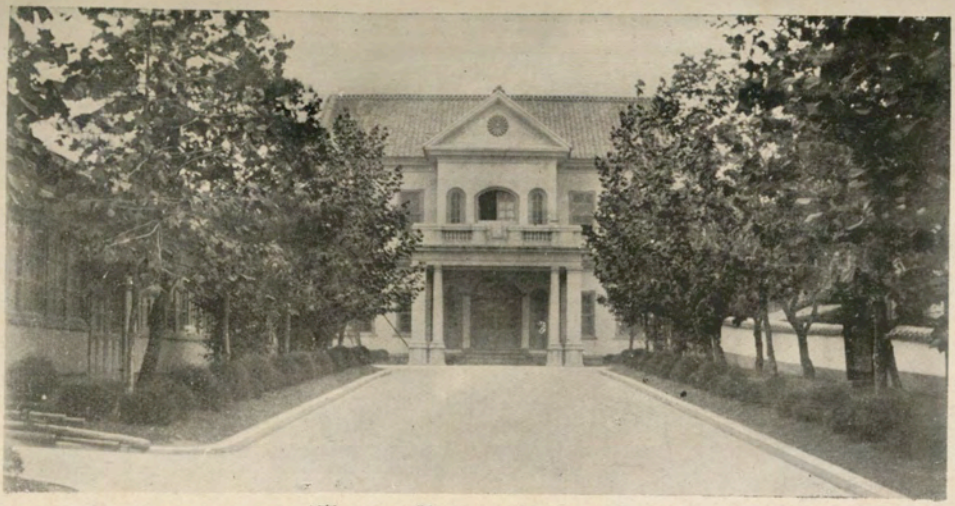
凡例

一、本書は縣下商工業の沿革現況及獎勵施設を記述し附錄として岡山縣名勝案内を輯錄したるものなり。

一、統計數字は概ね昭和八年度本縣統計書に依りて記載せるも統計書に記載なきものは特に之を調查して可及的最近のものを登載せり。

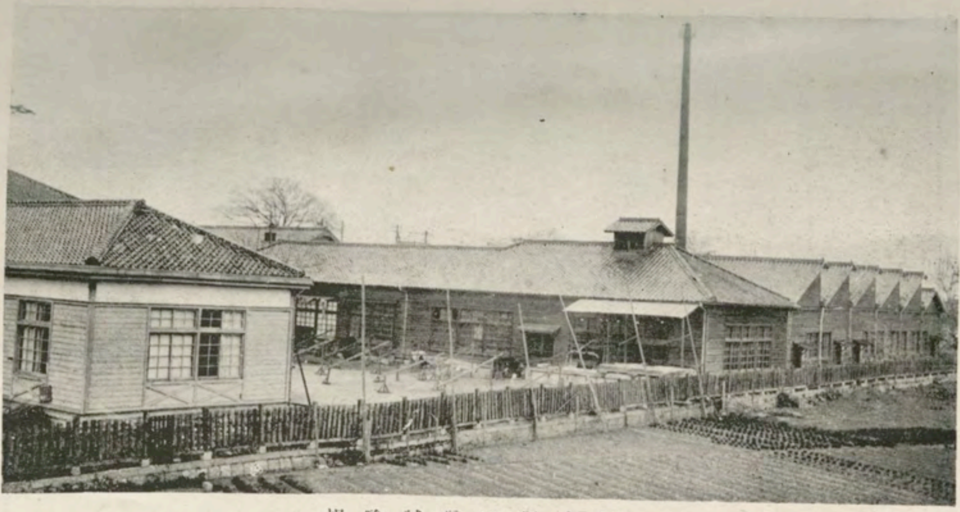
昭和十年三月

岡山縣經濟部



岡山縣廳

岡山縣立商工奬勵館



岡山縣工業試驗場

岡山縣商工要覽

目次

一 總説 …… 一

イ 地勢 …… 二

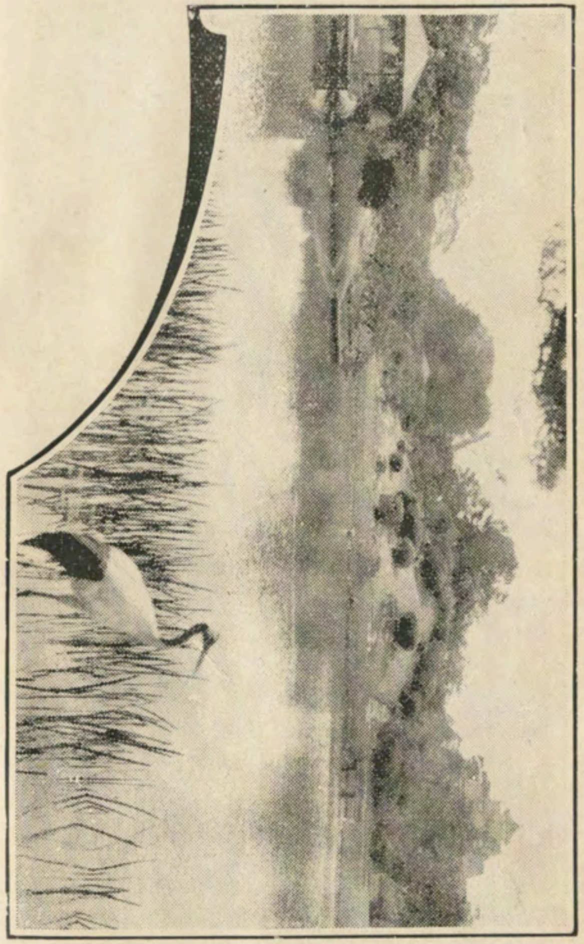
ロ 土地 …… 三

ハ 氣候 …… 四

ニ 人口 …… 四

二 縣下主要商工業地 …… 五

三 商工業に關する施設 …… 五



後樂園

イ　商工奬勵館……五
ロ　工業試驗場……六
ハ　出品協會……七
ニ　海外輸出協會……八
ホ　工藝協會……九
ヘ　日本度量衡協會岡山支部……九
ト　商工會議所……一〇
チ　工業組合及商業組合……一三
リ　重要物產同業組合、準則組合……一五
ヌ　酒造組合……二一
ル　商工會及商工團體聯合會……二三
ヲ　產業組合……二九
四　商工業……三二

A　交通運輸……三二
イ　鐵道……三三
ロ　水運……三六
B　金融……三七
イ　銀行、信託及無盡……三七
ロ　手形交換所……四一
C　取引所……四二
D　市場……四三
イ　魚市場……四三
ロ　青物市場……四六
ハ　家畜市場……四七
E　出荷團體……五一
五　工業……六六

A 生產總價額累年比較……六六

B 紡織工業……六六

イ 織物及染物……六六

ロ 生絲……七六

ハ 撚糸及絹糸紡績……七八

ニ 綿糸紡績……八〇

ホ 人造絹糸……八二

C 化學工業……八二

イ 肥料……八二

ロ 和紙……八四

ハ 板紙……八五

ニ 染料……八六

ホ 燐寸……八七

へ 賣藥……八八

ト 護謨製品……八九

チ 陶磁器……九一

リ 煉瓦……九五

ヌ 瓦……九七

ル 土管……九八

ヲ 珪藻土……九九

ワ 其他……九九

D 機械器具工業……一〇一

イ 造船……一〇一

ロ 車輛……一〇二

ハ 鐵工器具機械……一〇三

ニ 内燃機關（石油發動機）……一〇四

E 飲食工業……一〇五
イ 清酒……一〇五
ロ 醬油、酢、味醂、燒酎、味噌……一〇七
ハ 機械製麥粉……一一一
ニ 菓子類……一一三
ホ 素麵及乾饂飩……一一四
ヘ 清涼飲料水……一一五
ト 果物……一一六
チ 其他……一二〇
F 雜工業……一二二
イ 小倉學生服……一二二
ロ 足袋……一二四
ハ 紙布及同製品……一二六

ニ 藥製品……一二八
ホ 竹製品……一二八
ヘ 杞柳製品……一三〇
ト 木製品……一三一
チ 漆器……一三二
リ 帽子……一三三
ヌ 木炭……一三四
G 特産品……一三五
イ 花莚……一三五
ロ 野草莚……一三七
ハ 疊表……一三八
ニ 藺草……一四〇
ホ 麥稈眞田……一四一

ヘ 薄荷取卸油……一四三
ト 除虫菊……一四五
チ 蒟蒻粉……一四六
リ 三椏皮……一四七
ヌ 楮皮……一四八
六 商工關係豫算（昭和十年度）……一四九
「附録」
岡山縣名勝案内

岡山縣商工要覽

一 總説

本縣は山陽道の中央に位し備前、備中、美作の三國を管轄し東は兵庫縣播磨に隣し西は廣島縣備後に接し南は瀨戸内海を隔てゝ讃岐、伊豫と相對し北は因幡、伯耆に彊す、管内を岡山、倉敷、津山の三市及御津、赤磐、和氣、邑久、上道、兒島、都窪、淺口、小田、後月、吉備、上房、川上、阿哲、眞庭、苫田、勝田、英田、久米の十九郡に分ち全管の廣袤は東西二十七里、南北二十六里、周圍百六十四里にして其の面積四百五十五方里餘なり。

生業は農業を主とし北部山間の地方は伐木炭燒、養蠶業に從事し中央及南部は土壤肥沃にして田園開け蔬菜果樹を栽培するもの多し又工業は主として岡山市附近及備中南部に渉り機業、紡績、花莚、疊表、麥稈眞田紐製造に從事するもの多く就中花莚の製造は本邦に於ける嚆矢にして且産額第一位を占む、又南部沿海の地方は漁撈に從事するもの多く近年遠海漁業を企つるもの續出せり、産物の主なるものは米、麥、綿糸、織物、清酒、花莚、疊表、藺、生糸、護謨製品、小倉學生服、足袋、麥稈眞田紐、薄荷取卸油、壜、木材、木

炭等なりとす。

(イ) 地勢

地形略方形にして北方には陰陽の分水嶺たる中國山脈東西に走り那岐、泉、蒜の高山起伏し其の餘蜿蜒として南下し海に入りし所兒島半島となる、此の東西二分脈により包まれたる平地は實に本縣第一の曠野にして沃田遠く連り海に至りて盡く地勢既に北に高山を控へ其の支脈南北に至るを以て諸川も其の源を北に發し南流して海に入る、中に吉井川、旭川、高梁川の三大川あり、吉井川は源を美作の北境に發し加茂、吉野等の諸流を合せ備前の東部に出て南流して海に入る。旭川亦作北に發し新庄、備中等の諸流に合し備前の西部を南下し兒島灣に注ぐ、而して美作の市街地たる津山市は其の上流に枕し池田氏の居城地たりし岡山市は旭川の下流に跨れり、高梁川は源を備中北部に發し成羽、小田の小流を合せて後水島灘に入る、高梁町は此の中流に臨み縣下の名邑なり、岡山市は備前の南方に位し縣治機關茲に在り。本縣は南方に瀬戸内海を控へたるを以て島嶼甚多く鹿久居島外十數島あり海岸線百二十里を有す、港灣は備前に宇野、日生、片上、牛窓、小串、日比、田ノ口下津井、備中に玉島、笠岡等の諸港あり何れも瀬戸内海に面し交通運輸至便にして殊に宇

野は昭和五年二月二十八日開港となれり、兒島灣は縣下の名灣なれども水淺くて船舶の碇泊に適する良港を有せず。

(ロ) 土地

土地の總反別は五十三萬餘町にして内官有地六萬餘町、民有地四十七萬餘町歩なり而して耕地（田畑約）二割五分、山林原野五割五分、宅地其の他二割に相當す。

土質は其の大部分は石英粗面岩にして其の間に花崗岩及閃綠岩を交へ秩父古生層所々に小區域をなし露出せり中部は秩父古生層大部分を占め花崗岩及閃綠岩地域を層す、而して是等岩層間に石英斑岩、石灰岩、片層岩系等の諸岩及中生紀層、三坂層、三疊層、第三紀層、第四紀層を交錯せるを以て岩石及土壤の分布頗る複雜せり殊に備中の中部以北に最も其の甚しきを見る。

地味は概して中央部より北するに從ひ瘠土となり耕作に適せずと雖も山林繁茂し其の利に乏しからず蠶桑の業此の地方に盛なり、南部は山林の利乏しきも氣候温暖土地肥沃なるを以て農耕に適す。

(ハ) 氣候

本縣は北は山陰の國境に至り南は瀨戸內海に面するを以て氣候自ら一樣ならず、南部は概して溫暖にして嚴寒の候と雖も降雪寸餘に及ぶが如きこと極めて稀にして居住に好適なり。乍然美作及備中の北部は寒威凜烈にして積雪數尺に達する地方珍らしからず。盛夏の候に至りては岡山地方は所謂岡山の夕凪と稱し日沒より風死し蒸し暑く徹宵夢を結ぶ能はざることあり、之に反し備作の北部は降雨の度繁く朝暮の凉風肌を吹き苦熱を拂ひ三伏猶秋の感あり而して南部は晴天多く降雨量の少きこと本土中一二位に在り。

(ニ) 人口

昭和五年國勢調査による本縣現在人口は百二十八萬三千九百六十二人內男六十三萬七千九百六十五人女六十四萬五千九百九十七人にして女の男に超過すること八千三十二人にして女一〇〇に付男九八に當り全國の女一〇〇に付男九八、八に比し本縣は女の數多し蓋し紡績工業の盛なるに基因せり。

二　縣下主要商工業地

岡山市は旭河口の沖積地にして古來幾百世紀の春秋を經る間に旭川の水流に依りて流出

せし土砂の瀨戸內海面を埋塡し成れる處にして市域は直徑東西六千八百八十米南北九千八百米にして面積四萬七千四百九十平方米、人口十五萬、縣廳のある處本縣商工業の中心地にして諸物資の集散最も殷盛を極む、津山市は人口約三萬五千作備線因美線の起點にて美作國に於ける名邑にして作州一圓の物資は此處に於て集散せらる、倉敷市人口三萬餘は伯備線の分岐点にして倉敷紡績株式會社、中央病院、大原農業研究所又近郊に倉敷絹織株式會社等あり市況大に活氣を呈す。此他玉島、笠岡、琴浦、高屋、井原、宇野、高梁、西大寺、總社、新見町等は縣下主要商工業地にして宇野港は昭和四年十二月第二種港灣に指定せられ昭和五年二月廿八日開港場となり昭和七年五月より岡山縣は原田汽船株式會社と契約して大連、宇野間に定期航路を開設し又之が修築を計畫する等將來の活躍大に囑目せらる。

三　商工業に關する施設

(イ) 商工奬勵館

本縣の物產を廣く社會に紹介せしむる爲め物產陳列場設立の必要を認め後樂園構內に地

を卜し明治二十七年工を起し翌二十八年四月竣工岡山縣物産陳列場と稱し同年五月一日より公開し一般の縱覽に供したり、次で明治三十年四月委託販賣の制を設け專ら物産紹介、販路擴張を圖れり、大正八年四月弓之町に移轉し岡山縣物産館と改稱し更に大正十年二月岡山縣商品陳列所に、昭和八年四月岡山縣立商工奬勵館と改稱す目下後樂園に分館を設けんとして考究中なり。

不況の影響と他府縣の競爭的進出とにより本縣物産にして販路の梗塞せるもの不尠此の情勢を挽回し販路を確保すると共に更に進んで縣物産の販路の開拓擴張を圖り生産奬勵と相俟つて縣産業の振興を期せむとし昭和六年度神戸市に囑託員を置き物産販賣斡旋所を設置し七年度は之を專任とすると共に更に大阪市にも之を擴張し兩市に物産販賣斡旋所を開設したりしが八年度よりこの事業を商工奬勵館の經營に移管せり。又滿洲國に對する販路開始の施設として昭和八年度より奉天に商況通信所を設け大連に商況通信員を囑託設置し主として商況、信用等の調査通報に關する事務を開始せり。

（ロ）工業試驗場

本縣工業試驗場は縣下工業の啓發指導の目的を以て明治三十三年始めて縣に一名の製紙技術者を置き工業巡回教師と稱し斯業の改善發達を計らしめたるに創まり仝三十七年染色に關する技術者一名を增置し縣廳內に於て製紙、染色の試驗及び其の事務を取扱ひ一方業者の巡回指導講習及講話を行ひ斯業の改善發達に努めたり。

仝三十九年十月工業試驗室を設け職制を改め工業技師及工業技手とし仝四十三年四月更に染色技手一名を增員せり。

然るに大正五、六年の交に至り歐洲大戰の影響を受け縣下商工業は異常なる發展を招來したる爲め新に弓之町に物産館調査部として廳舍を新築し分析、應用化學、圖案の三課を增設し其の後釀造技術者二名を增員したるも滿足なる試驗研究をなすこと能はざるに至り現今の地に新築をなし大正十三年四月現在の南方に移轉せり。

（ハ）出品協會

本會は岡山縣出品協會と稱し商工奬勵館の主旨及事業を協贊し出品人共通の便宜を圖ることを以て其の目的とし事務所を岡山縣立商工奬勵館內に置く。

本會の重なる事業左の如し。

一、商工奬勵館と出品人との間に立ちて意志の疏通を圖り商工奬勵館を最も有効に利用

の道を研究す。

二、商工奬勵館の事業たる本縣物産の改良並に販路擴張等の事業を補助す。

三、博覽會に參加す。

（ニ）海外輸出協會

本縣物産の海外輸出は海外の不況と關稅の引上等に影響され年々輸出額の減退を來し延て縣産業の疲弊を招來せむとするを遺憾とし輸出に關係ある者を以て本會の設立を企圖し昭和六年十月之が設立を看るに至れり。昭和七年は大連に商況通信員を囑託設置し仝八年奉天に物産販賣斡旋所を設くるに至れり。

本會の主なる事業左の如し。

一、海外樞要の地に物産販賣斡旋所の設置

二、海外見本市の開催及參加並海外博覽會の參加

三、旅商又は視察員の派遣

四、商取引の斡旋

五、市況、信用の調査

六、飜譯通信

（ホ）工藝協會

由來岡山縣人は工藝的素質に富み備前燒、長船の刀劍の如き古來幾多の名工を輩出せり近時商工省の奬勵文化の向上、歐米人の東洋文化の理解等により工藝産業は漸次見るべきものあるに至り、之等關係業者の聯絡を密にし斯業の改善に一段の努力を拂ふの必要を認め縣を區域とし岡山縣工藝協會を設立することとなり、左の目的を以て昭和九年四月設立を看たり。事務所は岡山縣工業試驗場内に設置せり。

一、作品展覽會の開催

二、內外展覽會出品の仲介

三、講演會、懇談會の開催

四、工藝品及意匠圖案の展示

五、輸出向內地向工藝品の調査並奬勵

（ヘ）日本度量衡協會岡山支部

本支部は大正元年創立されたる日本度量衡協會の本縣內に於ける會員を以て組織し度量

衡の統一、計量思想の普及並之が關係事項の改善發達と會員相互の親睦とを圖るを以て目的とするものにして爾來年々會員數を增加し來り昭和十年三月末に於て三百四十八名に及べり其の重なる業務左の如し

一、會員の法令違反防止と研究資料の提供
二、一般計量思想の啓發竝メートル法の普及に關する施設
三、度量衡器、計量器の製作、修復、販賣に關する改善施設
四、功勞者竝優良從業者の表彰

（ト） 商工會議所

1 岡山商工會議所

岡山市內山下三十番地に在り明治十五、六年の頃村上長毅、杉山岩三郎等の主唱に依り商工業に關する調査研究をなし以て市勢の發達に資せむとし岡山商法會所設立せられ是を岡山商業會議所の前身とす、明治二十三年商業會議所條例の發布せらるゝや岡山市當局並市內有力者の努力に依り明治二十六年岡山商業會議所設立認可せられ販路、商況、運輸、交通の調査、製品の紹介、店頭裝飾等に努む。

0137241

2 倉敷商工會議所

昭和三年四月二十九日倉敷經濟協會春季總會に於て倉敷商工會議所設立の件を附議したるに滿場一致の贊成を得創立に關する諸般の準備事務は倉敷經濟協會理事長外理事に一任し諸般の調査を終へ十二月十日より假事務所を本町九八九番地に置き執務し十二月三十一日發起人全部の承認を得商工會議所法第十二條第一號の指示する會權者全部に對し通牒を發し會議所設立の同意を求め翌四年一月二十五日創立總會を開催し創立に關する件及定款議定の件を決議し二月二日設置認可を得三月十五日商工會議所法第十二條第一號議員二十四人の選擧を執行す、仝年三月二十二日第二號議員六人の選定協議會を開き選定を卒へたり而して定員三十人の議員を得全く倉敷商工會議所の陣容を整へ次いで三月二十八、九の兩日に亘り第一回議員總會を開催し創立費の承認を求め會頭以下役員及び各部長部員の選任を終へたり。事務所を倉敷市濱田町六九七番地に置く。

本所の事業としては物產陳列所を經營し會議所內に併置し倉敷市に於ける生產物を陳列し以て他所に紹介し併せて即賣をなし將來物產陳列所としての使命を全ふせしめんことに努力しつゝあり尙此の他商品見本、手荷物證明、諸物價調査、商工人名簿發行、交通運輸

に關する施設につき努力せんとす。

3　津山商工會議所

津山市商工業の改善發達を圖る目的を以て昭和五年二月常事者相謀り商工會議所創立總會を開き是れが設立の件を議定し同年四月八日商工會議所設置認可せらる爾來商品陳列所の經營、販路の擴張、商取引の斡旋、交通、運輸其の他一般商工業の進歩發達に努めつゝあり。事務所を津山市山下に置く。

（チ）　工業組合及商業組合

工業組合法は大正十四年九月より商業組合法は昭和七年十月より施行せられ現下の不況に呻吟せる中小商工業者は之に依りて自力更生を圖らんとするもの多く目下認可せられたるものは工業組合十、商業組合十にして尚設立計畫中のもの多々あり尚工業組合は昭和九年七月十八日工業組合中央會岡山支部を設置せし商業組合は昭和九年九月岡山縣商業組合聯盟を組織し居れり。

今組合名稱、所在地等を示せば左の如し。

工業組合

組合名	設立年月日	地區	組織者	組合員數	出資口數	出資額	事務所所在地	代表者
岡山縣野草莚工業組合	大正一五、四、五	岡山縣一圓	製造業者				都窪郡早島町	植木彌久太
岡山縣織物工業組合	昭和四、六、六	岡山縣一圓（但シ小田郡大井村、大江村、稻倉村及後月郡ノ内原町、高屋町、芳井町、出部村、縣主村、山野上村、明治村、青野村、原村、共和村、三村ヲ除ク）	製造業者	九七	二、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	岡山市北方	龜山政三
岡山縣護謨工業組合	昭和七、五、一三	岡山縣一圓	製造業者	一六	一〇二	一〇、二〇〇	岡山市下石井	秋山武夫
岡山縣清涼飲料水工業組合	昭和八、四、五	岡山縣	製造業者	一六三	二七六	五、五二〇	岡山市天瀨	高草美代藏
備中素麵工業組合	昭和八、八、一〇	備中國一圓	素麵製造業者	二五二	一、〇七三	二一、四六〇	小田郡笠岡町	山本寅市
岡山縣製氷工業組合	昭和八、一〇、一〇	岡山縣一圓	製氷業者	二八	一六〇	八、〇〇〇	岡山市下石井一一六番地	筆保藤四郎
岡山縣內燃機關工業組合	昭和八、一二、一三	岡山縣一圓	內燃機關ノ製造業者	四三	二〇六	二〇、六〇〇	岡山市內山下一二七	橫山泰造

岡山縣足袋工業組合	昭和九、三、一三	岡山縣一圓	普通足袋ノ製造業者	一三	八五四	四三、七〇〇	岡山市内山下四七	三宅保正
岡山建具指物工業組合	昭和九、三、一九	岡山市一圓	建具指物ノ製造業者	八〇	二〇〇	一、〇〇〇	岡山市内山下一二二番地	高田延雄
備中織物工業組合	昭和九、六、二九	後月郡高屋町外十二ケ町村	織物製造業仝加工業	四七	一四八	一四、八〇〇	後月郡出部村	大塚筐一

商業組合

組合名	設立年月日	地區	組織者	組合員數	出資口數	出資額	事務所所在地	代表者
岡山製氷卸賣商業組合	昭和八、七、八	岡山市	製氷卸賣業	九七	二〇〇	円 四、〇〇〇	岡山市丸龜町六五	楢原富次郎
岡山縣麵類卸賣商業組合	昭和八、七、二九	岡山市	生饂飩蕎麥ノ卸賣業	二〇	六〇〇	三、〇〇〇 外ニ保證 一、五〇〇	岡山市上石井四九	赤澤粂七
岡山獸肉小賣商業組合	昭和八、一二、一四	岡山市	獸肉小賣販賣業	四三	二〇〇	四、〇〇〇 外ニ保證 二、〇〇〇	岡山市萬町八〇	西岡讀次
岡山藥種賣藥小賣商業組合	昭和八、一二、一四	岡山市	藥種小賣商又ハ賣藥小賣商	一一八	三一二	四、六二〇	岡山市西大寺町一〇七	岩田喜三郎
岡山縣計量器小賣商業組合	昭和八、一二、二六	岡山縣	計量器(寒暖計、体温計、乾濕計、棒狀溫度計、浮秤)小賣業	三二六	三三四	六、六八〇	岡山市石關町岡山縣廳構内	藤原誠一郎
備南石炭商業組合	昭和九、三、二〇	倉敷、都窪、淺口、吉備、上房各郡及兒島郡内福田村、藤戸町、灘崎村、郷内村、興除村	石炭賣小業ヲ營ミ併テコークス豆炭煉炭ノ小賣業	一七	四〇〇	八、〇〇〇	倉敷市倉敷前神	森島宇平
岡山洗染クリーニング商業組合	昭和九、三、一九	岡山市	洗染、クリーニング、再染ヲ業トスル者	六四	四〇〇	八、〇〇〇	岡山市上出石町二九	難波徹
岡山中等學校制服商業組合	昭和一〇、二、七	岡山市	公私中等學校制服小賣業	三一	四〇〇	二〇、〇〇〇	岡山市内山下八六	逢澤一次
岡山縣度量衡器商業組合	昭和一〇、三、一三	岡山縣	度量衡器の小賣業	一六三	四二四	八、四八〇	岡山市石關町岡山縣廳構内	網島貢
南備肥料卸商業組合	昭和一〇、四、八	岡山、倉敷、吉備、都窪、淺口、小田、兒島、邑久、上道、和氣、赤磐、御津の二市十郡	肥料の卸賣業者	三二	四四	五三、〇〇〇	岡山市内田四六ノ二	小川郷太郎

(リ) 重要物産同業組合、準則組合

現在重要物産同業組合總數三十一、聯合會二、總計三十三、準則組合總數二十七ありて縣下の主要産業は概ね組合を組織せり、今組合名稱及所在地を示せば左の如し。

同業組合

(昭和九年十二月末日現在)

組合名	事務所々在地	地區	組織	昭和九年度經費豫算	設立年月日	組長

岡山縣花莚疊表同業組合	岡山市下田町四	岡山縣	花莚、疊表、野草莚、購枕、莚、緞糸製造業、販賣業、捺染業	円 六〇、三三五	明治三十一年八月十三日	山上初次郎
岡山縣眞田同業組合	淺口郡金光町	同	製造業、販賣業、仲立業取次業、染色業	二、二六七	明治三十一年八月二十六日	西村丹次郎
中備素麵同業組合	小田郡笠岡町	備中	素麵及干饂飩製造業、小麥製粉業	三〇、六三〇	明治三十三年三月二十九日	小川鄕太郎
岡山縣藺草同業組合	岡山市下石井	岡山縣	生產者、販賣者、購入者	五四、五〇〇	明治三十五年三月十四日	星島二郎
備前織物同業組合	兒島郡灘崎村迫川	兒島郡	製造業、販賣業、染色業	一四、三七〇	明治三十八年三月二日	尾崎東吾
小田後月薄荷同業組合	小田郡小田町字堀越	小田郡、後月郡	製造業、仲買業	二、五八三	明治三十八年八月十九日	東山春吉
美作穀物同業組合	久米郡佐良山村	美作	移出精白米製造業、同賣買業米麥賣買業	三、八四四	明治三十八年十二月十八日	寺坂利八
岡山縣石炭同業組合	岡山市天瀨二二五	岡山縣	販買業	五、九四六	明治三十九年十二月十七日	木原通一
備前薄荷同業組合	邑久郡邑久村	赤磐、邑久、上道、和氣各郡	製造業、仲買業、仲立業	四、三三七	明治四十年一月二十一日	松原駒太郎
岡山縣燐寸同業組合	岡山市下石井一一〇	岡山縣	製造業、販賣業		明治四十年六月二十二日	田中馬鬼二
美作肥料同業組合	津山市田町	美作	製造業、販賣業	九〇〇	明治四十年十一月六日	片山太七

南備肥料同業組合	岡山市內田四六ノ二	岡山市、倉敷市、吉備郡、淺口、小田、兒島、邑久、上道、和氣赤磐御津（一町十八ケ村）	製造業、販賣業	九、四三六	明治四十年十二月九日	小川鄕太郎
岡山縣穀物同業組合	岡山市上石井	備前、備中	米、麥、大豆賣買業	七、四四六	明治四十二年十一月十七日	副組長 谷淵金十郎
岡山縣賣藥同業組合	吉備郡總社町	淺口、都窪、吉備、小田各郡	製造業、請賣營業	解散準備中	明治四十三年九月九日	西村丹治郎
岡山縣果物同業組合	岡山市內山下三〇ノ七	岡山縣	生產者、縣外輸出販賣	一六、四八三	明治四十四年六月三日	横山泰造
岡山縣藥工品同業組合	岡山市石關町七二	岡山縣	繩、叺用蓆、叺ニ關スル同業者	九、三五八	明治四十四年六月九日	松江恒次
岡山縣醬油釀造同業組合	岡山市南方堤外	岡山縣	醬油釀造業	三、八五五	大正元年十月一日	近藤敬次郎
中備薄荷同業組合	倉敷市濱田六九五	倉敷市及兒島、都窪、淺口、吉備各郡	栽培業、製造業、仲買業仕立業	五、四四九	大正二年六月十日	藥師寺清三郎
岡山縣蒟蒻粉同業組合	川上郡手莊村地頭	岡山縣	製造業、仲買業	八、五三五	大正二年十月二十一日	三宅美津太郎
岡山縣清凉飲料水同業組合	岡山市天瀨六八	岡山縣	製造業	解散手續中	大正三年三月十二日	高草美代藏
岡山縣英田郡勝田郡木炭同業組合	英田郡林野町	英田郡	製造業、販賣業	五、八四六	大正六年二月二十七日	神原傳右衛門

岡山縣除虫菊同業組合	小田郡笠岡町	岡山縣	問屋業、仲買業	一七、七六四	大正六年五月十日	東山春吉
岡山縣阿哲郡木炭同業組合	阿哲郡新見町	阿哲郡	製造業、販賣業	四、二二三	大正七年十月三日	竹本裕
岡山縣川上郡木炭同業組合	川上郡成羽町	川上郡	製造業、仲立業、販賣業	一、七五三	大正九年十月二十八日	原田龍右衛門
岡山縣苫田郡木炭同業組合	津山市二宮字讓葉四八ノ三	苫田郡	製造業、販賣業	三、二三三	大正十年三月二日	伊丹磯治郎
岡山縣眞庭郡木炭同業組合	眞庭郡勝山町	眞庭郡	製造業、販賣業	三、四〇〇	大正十一年五月三十日	高田照吉
岡山縣久米郡木炭同業組合	久米郡加美村字原田	久米郡一圓並津山市ノ内元久米郡福岡村及赤磐郡山方村	木炭業	一、二八三	大正十五年三月二十六日	石川四郎
岡山白米同業組合	岡山市内山下七二	岡山市、御津郡牧石村横井村、平津村、大野村、今村、芳田村、白石村、一宮村、馬屋下村、野谷村、上道郡富山村、操陽村、沖田村幡多村、可知村、高島村、三蟠村、財田村	白米販賣業者（小賣及販賣兼業者ヲ含ム）	三、三二五	昭和八年十月六日	副組長 岡本長三郎
三備薄荷同業組合聯合會	倉敷市濱田	備後、小田後月、中備備前、各薄荷同業組合		三〇	大正九年五月十二日	欠員中
岡山縣木炭同業組合聯合會	岡山縣廳内	英田、勝田、苫田、眞庭、阿哲、川上、久米各郡内木炭同業組合		八、八三四	昭和三年十二月十二日	久郷梅松

準則組合

（昭和九年十二月末現在）

組合名	事務所々在地	地區	組織	設立年月日
岡山酒商組合	岡山市高砂町三五	岡山市	酒類販賣業者	大正十一年十一月二日
岡山建具指物業組合	岡山市濱田町一〇四	岡山市	建具指物業	大正十一年十二月六日
旭東四郡麯業組合	邑久郡今城村大字大富五七六	邑久、上道、和氣、赤磐各郡	麯營業販賣	大正十一年十二月八日
岡山洋服商組合	岡山市内山下三〇	岡山市	洋服業者	大正十年十二月廿六日
岡山織物雜貨卸商組合	岡山市内山下三〇	同	織物雜貨卸商	大正十一年十二月廿六日
川上郡牛馬商組合	川上郡成羽町川上郡畜產組合事務所内	川上郡	牛馬賣買營業	大正十二年二月十六日
岡山小間物化粧品商組合	岡山市山崎町六石川萬吉方	岡山市	小間物化粧品商	大正十二年二月二十日
岡山靑乾果實商組合	岡山市東中山下電車通リ東山健七商店内	同	靑乾果實販賣業者	大正十二年二月二十日
北木島石材採掘業組合	小田郡北木島村三〇八四	北木島村	石材採掘業	大正十二年二月二十日
北木島村石材販賣業組合	同所	同	石材賣買業者	大正十二年二月二十二日
岡山菓子商組合	岡山市平野町三六井村兵吉方	岡山市	菓子業者	大正十二年二月二十八日

岡山綿布業組合	岡山市内山下三〇	岡山市	綿布製造及販賣業	大正十二年月三十一日七
岡山藥業組合	同	同	藥種販賣業	大正十三年一月九日
岡山油類商組合	岡山市小橋町島商店内	同	石油諸油類販賣業	大正十三年一月九日
岡山縣土木建築請負業組合	岡山市桶屋町四三	岡山縣	土木建築請負業者	大正十三年六月五日
津山材木商組合	津山市鐵砲町二四四二	津山市	木材營業者及製材業者	大正十四年一月十五日
岡山縣造酢組合	岡山市南方六〇六	岡山縣	造酢業	大正十四年四月二十八日
岡山白米商組合	岡山市南方水田新五郎方	岡山市	白米販賣業者	大正十四年六月十一日
後月撚糸組合	後月郡西江原町一、三七三	後月郡ノ内高屋町、出部村、井原町、西江原町、木之子村、荏原村	撚糸營業者 撚糸機所有者	昭和三年十二月二十八日
笠履協愛組合	小田郡笠岡町一、九九四	小田郡笠岡町一圓	桐下駄製造業者	昭和五年十一月七日
笠岡酒類商組合	小田郡笠岡町大字笠岡二二五六ノ二	小田郡笠岡町一圓	酒類販賣業	昭和六年三月十九日
兒島郡撚糸組合	兒島郡琴浦町大字田ノ口七九	兒島郡一圓	撚糸業及撚糸製造販賣業	昭和六年二月十三日
岡山木材商組合	岡山市石關町六一	岡山市一圓	木材營業者	昭和六年八月十一日
御津郡木炭業組合	御津郡宇甘西村役場内	御津郡一圓	木炭製造業	昭和七年三月十二日
上房郡木炭業組合	上房郡高梁町大字石火屋町	上房郡一圓	木炭製造業	昭和七年三月三十一日
津山酒商組合	津山市	津山市一圓	酒類販賣業	昭和七年十一月二十二日
岡山洗染クリーニング業組合	岡山市内山下七二	岡山市一圓	洗染クリーニング業	昭和八年四月二十六日

(ヌ) 酒造組合

往時に於ける本縣の清酒は色澤濃厚香味劣悪のもの多かりしが其の後各郡市に酒造組合を設け又縣に技術者を置きて之が改良指導を怠らざるを以て今日に於ては灘酒に遜色なきものを産出するに至れり。

現在に於ける酒造組合の名稱、所在地を擧ぐれば左の如し。

（昭和九年十二月末日現在）

組合名稱	事務所々在地	地區	設立年月
岡山酒造組合	岡山市内山下三〇	岡山市、御津郡	明治三十二年十月
邑久、上道郡酒造組合	上道郡西大寺町	邑久、上道郡	同 三十三年四月

兒島郡酒造組合	兒島郡味野町	味野稅務署管內	同　三十五年十二月
備中東部酒造組合	倉敷市大字倉敷	倉敷市、都窪、吉備郡	同　三十九年十二月
淺口郡酒造組合	淺口郡金光町	淺口郡	同　三十九年八月
小田、後月郡酒造組合	小田郡笠岡町	小田、後月郡	同　三十九年十二月
上房、川上酒造組合	上房郡高粱町	上房、川上郡	昭和六年二月(川上ト合併)
阿哲郡酒造組合	阿哲郡新見町	阿哲郡	明治三十三年十二月
眞庭郡酒造組合	眞庭郡久世町	眞庭郡	同　四十四年四月
作東酒造組合	英田郡林野町大字林野	勝田、英田郡	同　四十四年三月
赤磐、和氣郡酒造組合	赤磐郡瀨戶町	赤磐、和氣郡	昭和二年十月
美作中央酒造組合	津山市本町三丁目	津山市、苫田、久米郡	同　四年十二月
岡山縣酒造組合聯合會	岡山市內山下三〇	岡山縣	明治三十八年六月

(ル)　商工會及商工團體聯合會

本縣內に於ける商工會は昭和八年十二月末現在に於ては其の數八十を越ゆ諸種の調査を行ひ商工業上の弊害を除去し取引の改善を圖り商工業使用人の奬勵表彰等を行ひ縣商工業の發達助長に努めつゝあり尙岡山商工會議所內に之等商工會を以て組織せる岡山縣商工團體聯合會あり其名稱所在地左の如し。

(昭和九年九月一日現在)

名稱	區域	會員數	事務所々在地	代表者
岡山商工協會	岡山市一圓	六〇〇人	岡山市役所產業課內	石原市三郎
岡山商工俱樂部	同	五五八	同	伊藤佐太郎
岡山實業研究會	同	一二五	同	石原市三郎
岡山實業組合聯合會	同	三〇團体	岡山商工會議所內	山上岩二
金川商工會	金川町大字金川一圓	八七	御津郡金川町大字金川五二五	石部猪代太
建部商工組合	建部村一圓	三三	同郡建部村大字中田二五四	黒田粂二
本莊商工會	本莊村一圓	五〇	和氣郡本莊村大字衣笠	靑山楢治
片上町商工會	片上町一圓	四三	同郡片上町大字西片上	三村忠治
香登商工會	香登町一圓	六〇	同郡香登町役場內	高取彥太郎
和氣商工會	和氣町一圓	五五	同郡和氣町役場內	小原祥吉
日生町商工會	日生町一圓	四三	同郡日生町役場內	大崎彌吉
牛窓商工會	牛窓町一圓	一三〇	邑久郡牛窓町三〇九〇	高祖鶴雄

山南商工會	幸島、太伯、朝日、大宮、各村一圓	一六〇	邑久郡幸島村大字南幸田	川上謙太郎
笠加村商工會	笠加村一圓	七五	同　郡笠加村役場內	赤木登志太
鹿忍實業協會	鹿忍町一圓	一二〇	同　郡鹿忍町役場內	鳴坂增造
鶴海商工會	鶴山村一圓	五〇	同　郡鶴山村鶴海	谷本嘉四郎
邑久村商工會	邑久村一圓	五四	同　郡邑久村役場內	上山義高
西大寺商工會	西大寺町一圓	二五三	上道郡西大寺町役場內	岡崎勉
上道郡龍操商工會	財田村、幡多村、古都村、可知村、高島村	三五〇	同　郡財田村役場內	坂根定義
河本商工會	雄神村大字原一圓	五五	同　郡雄神村大字原三〇三ノ五	松岡豐五郎
金岡村商工會	金岡村一圓	三六	同　郡金岡村役場內	神坂正平
興除商工會	興除村一圓	二三	兒島郡興除村中疇三四二	西原金十郎
迫川商工會	灘崎村迫川	三〇	同　郡灘崎村迫川九五	三宅喜代次
味野商工會	味野町一圓	五八	同　郡味野町一、六七七	國安英治
宇野商工會	宇野町一圓	一四五	同　郡宇野町役場內	藤原定吉

日比町商工會	日比町一圓	二〇〇	兒島郡日比町役場內	關藤碩衞
八濱商工會	八濱町一圓	六五	同　郡八濱町大字八濱	前田柾吉
茶屋町商工會	茶屋町一圓及豐洲村ノ一部	一二三	同　郡茶屋町役場內	鹽津猪十太
早島町商工會	早島町一圓	一六一	同　郡早島町役場內	網島吉一郎 溝手幾三郎
玉島商工會	玉島町一圓	三八六	淺口郡玉島町大字阿賀崎八八九	安藤嘉助
船穗商工會	船穗村一圓	一〇〇	同　郡船穗村役場內	小野荒太郎
長尾町商工會	長尾町一圓	七三	同　郡長尾町大字長尾二一五五	田邊吾三郎
富田商工會	富田村一圓	九五	同　郡富田村大字道口	木村淸一郎
金光町商工會	金光町一圓	一二五	同　郡金光町役場內	川上庄七
鴨方商工會	鴨方町一圓	一八三	同　郡鴨方町大字本庄二四八五	丸本市松
寄島町商工會	寄島町一圓	二七〇	同　郡寄島町役場內	吉田二月
大島村商工會	大島村一圓	九八	同　郡大島村役場內	松枝四方吉
六條院商工會	六條院町內	七五	同　郡六條院町六條院中　中備素麵會社內	佐藤恒夫

連島町商工會	連島町一圓		七〇	淺口郡連島町大字西之浦四五七	矢部甚平次
笠岡商工協會	笠岡町一圓		四〇八	小田郡笠岡町役場内	廣井作五郎
小田商工會	小田町一圓		一五〇	同　郡小田町役場内	藤枝篤一
金浦商工會	金浦町一圓		三七八	同　郡金浦町役場内	増成松平
矢掛町商工會	矢掛町一圓		四七六	同　郡矢掛町役場内	廣瀬源七
井原商工會	井原町一圓		三〇〇	後月郡井原町役場内	大西儀助
芳井町商工協會	芳井町一圓		七〇	後月郡芳井町與井四三	藤井章三
西江原町商工協會	西江原町一圓		七八	同　郡西江原町役場内	槇井瀧右衛門
高屋商工協會	高屋町一圓		八五	同　郡高屋町役場内	上野米三
総社商工會	総社町一圓		二八四	吉備郡総社町役場内	仙石佐吉
中備商工會	大和、池田、秦各村一圓		六五	同　郡池田村見延	角野要平
庭撫商工會	吉備郡庭瀬町及都窪郡撫川町一圓		一六二	都窪郡撫川町下撫川三八二	高橋源三郎
備北商工會	日美、富山、水内、下倉ノ四ケ村		三〇	吉備郡日美村役場内	森　啓太郎

高松町商工會	高松町一圓		二三〇	吉備郡高松町役場内	小野克己
吉備商工會	眞金町一圓及都窪郡加茂村ノ一部		七五	同　郡眞金町役場内	瀬川政吉
亘瀬村實業同盟會	亘瀬村一圓		二〇	上房郡亘瀬村四、七六八	平松眞一
水田商工會	水田村一圓		八五	同　郡水田村役場内	難波又四郎
高梁商工會	高梁町一圓		六五〇	同　郡高梁町大字松山二〇四三	則井萬壽雄
中津井商工會	中津井村一圓		一二六	同　郡中津井村大字下中津井	太田吟吾
呰部町商工會	呰部町一圓		一九二	上房郡呰部町役場内	大月熊吉
成羽町商工會	成羽町一圓		二〇四	川上郡成羽町役場内	伊藤初次郎
手莊村商工會	手莊村一圓		三〇	同　郡手莊村地頭	淺野包三郎
吹屋町商工會	吹屋町一圓		四八	同　郡吹屋町大字吹屋六八六	片山茂三
社團法人阿哲商工會	阿哲郡一圓		一七〇	阿哲郡新見町役場内	土屋源市
新市商工會	新市一圓及神代驛前		四二	同　郡神代村大字下神代	岩本定三郎

正田商工會	美穀村大字正田(字廣瀨ヲ除ク)石蟹鄉村大字石蟹字櫟向	五二	阿哲郡美穀村正田	大澤敬夫
川東商工會	川東村大字西原一圓	八五	眞庭郡川東村大字西原	奥山熊治郎
勝山商工會	勝山町大字勝山、本鄉、三田	一〇〇	同郡勝山町大字勝山九三	米田辰三郎
月田商工會	勝山町月田一圓	五〇	同勝山町大字月田	堀英太郎
美和村商工會	美和村一圓	三〇	同郡美和村目木	二宗健治
久世商工會	久世町一圓	二二七	同郡久世町役場內	菱川忠義
落合商工會	落合町大字垂水落合	三四五	同郡落合町役場內	松田貢
加茂町商工會	加茂町一圓	四五	苫田郡加茂町役場內	坂手範四郎
苫西商工組合	津山市ノ內院庄、芳野村、大野村、小田村、香々美南村、久田村、泉村	二九三	同郡芳野村大字寺元	山田熊治郎
勝間田商工會	勝間田町一圓	一一四	勝田郡勝間田町役場內	可兒藤十郎
北和氣商工會	北和氣村一圓	八〇	同郡北和氣村大字百々	缺員中

勝田商工會	勝田村一圓	七二	勝田郡勝田村眞加部	平田要太郎
吉ケ原商工會	飯岡村大字吉ケ原一圓	三〇	同郡飯岡村大字吉ケ原五一一	那須實太
林野町商工組合	林野町一圓	一六〇	英田郡林野町役場內	福原昇
江見村商工組合	江見村一圓	九〇	同郡江見村大字川崎	岩本証一
福渡商工組合	福渡町一圓	八二	久米郡福渡町役場內	菅善七
龜田商工會	加美村一圓	九二	同郡加美村大字原田	政狩丈夫
大倭商工會	大倭村一圓	五二	同郡大倭村役場內	尾塔葭市
誕生寺商工會	稻岡南村一圓	四一	同郡稻岡南村大字北庄	志茂樂一
大井西商工會	大井西村一圓	五三	同郡大井西村中北上八〇〇	直家又平
弓削商工會	弓削町大字下弓削	五〇	同郡弓削町大字下弓削四八七	原田熊吉
岡山縣商工團體聯合會	岡山縣一圓	二六	岡山市內山下三〇 岡山商工會議所內	西原金藏

(ヲ) 產業組合

本縣の產業組合は明治三十四年四月初めて岡山市に保證責任菓子原料購買組合設立せら

れ同年六月更に英田郡に無限責任粟井信用組合の設立を見、次いで三十五年に三組合、三十六年に五組合、三十七年十三組合、三十八年十七組合設立せられ同年末四十組合を算するに至りたり、翌三十九年産業組合中央會岡山支會設立せられ專ら縣下產業組合の助長獎勵に當ること〻爲り越ゐて大正四年に岡山縣信用組合聯合會、大正八年に岡山縣購買販賣組合聯合會設立せられ事業の聯絡統制を見るに至り爾後急激なる發達を遂げ現今縣下の組合總數は四百四十六に上れり。

昭和八年中に取扱へる貸付金及貯金狀況を觀るに左の如し。

貸付金

本年度の貸付總額は二七、五二二、七三二、七一九圓にして年度內に償還したるもの二七、九四八、〇五九、八八三圓本年度末現在貸付金二九、二四三、一二二、七七四圓にして利率は普通八分七厘なり。

手形割引

本年度內の割引額五一、六六三圓、決濟額六二、〇二八圓にして本年度末現在九、四三六圓なり。割引步合は普通年七分四厘なりとす。

組合員の貯金

本年度受入れたるもの六九、〇七八、四九二、二二九圓、拂戾したるもの六五、四三五、〇八九、二二九圓にして本年度末現在一一四、〇五六人にして金額は三六、四七三、五九七、七五五圓なり。貯金の利率は普通年四分五厘なりとす。

豫約者の貯金

之が貯金をなせるもの六八〇人、四、六七九圓なり。

家族貯金

本年度內受一三、二五五、一六三圓、拂戾一一、六九六、五二七圓にして年度末現在一六七、八二四人、九、〇〇九、二六九圓なり。

團體貯金

本年度內に受入れたるもの九、三二二、五八〇圓、拂戾九、三二八、五七五圓にして年度末現在三七、六一五團體、四、六八八、五七二圓なり。貯金利率は普通四分五厘なり。

市街地信用組合

市街地信用組合の取扱へる貯金受入高一、三〇四、七六〇圓、拂戾一、二五七、九七五圓に

して本年度末現在四、五二九八、五四九、六一二圓、之が貯金利率普通三分四厘なり。

販賣事業

販賣事業を營むもの三二九組合にして受託一、七三九、四八九、八六五圓、買取二、四九七、六四四、三五二圓、合計四、二三七、一三四、二一七圓にして販賣の主なるものは玄米、繭、疊表、麥、花莚等なりとす。

購買事業

購買事業を營むもの三四一組合にして取扱金高四、二九九、〇〇四、五三三圓なり、而して賣却物の主なるものは肥料、米、酒、砂糖類、被服織物類等なりとす。

利用料

利用事業を營むもの二〇二組合にして利用料の主なるものは土地、乾繭機、倉庫、精穀機等にして利用料合計八四、九四六圓なり。

四 商業

A 交通運輸

本縣は中國の要衝に當り交通機關夙に發達し國道は二號、十九號、二十二號の三線にして其の延長二三七、八二〇米、府縣道百九十二線延長二、三四三、一二〇米餘ありて地方樞要の地點を連絡し之を補ふに多數の市町村道ありて實に四通八達し交通運輸の便大に開け居れり。

(イ) 鐵道

國有鐵道

山陽線、本線は明治二十四年山陽鐵道株式會社に因りて敷設せられ兵庫縣播磨國より來りて縣下和氣郡三石町より備前國内を東西に貫通して岡山市の北端を繞經し御津郡を經て備中南部を貫通して廣島縣に入る。

岡山停車場は上石井に在り岡山市に出入するに最も樞要なる門戶にして各方面より岡山市に出入する物資及旅客の大部分は本驛よりす。

宇野線、明治四十三年完成して四國との聯絡完備し貨物の如きも貨車航送をなすに至り一層の便益を與ふるに至れり。

作備線、津山を起點として美作、追分間大正十二年八月二十一日、追分、久世間大正十

三年五月一日、久世、勝山間大正十四年三月十五日開通し、昭和四年三月三十一日新見、岩山兩驛間開け昭和五年十二月十一日勝山、岩山間全通し三神線と共に本縣の中北部の地方交通に産業振興に寄與する所甚大なり。

伯備線、陰陽を横斷する伯備線は倉敷より分岐して風光明媚なる高梁川に沿ひ昭和三年十一月新見驛を經て伯耆大山に至り山陰本線に接續し眞に文字通り陰陽連絡の幹線をなすに至れり。

因美線、津山を起點として昭和三年三月高野、瀧尾等を經て河井迄、昭和七年七月一日河合、智頭間全通し完全に陰陽を連絡せり。

三神線、三神線備中神代、矢神間十粁は昭和五年二月に矢神より廣島縣東城驛迄昭和五年十一月二十五日開通し廣島縣と握手するに至れり。

姫津西線、津山東驛を起點とし昭和九年十一月二十八日勝間田町を經て江見驛迄開通廳て姫津東線に連絡せんとす。

中國鐵道株式會社

所在地　岡山市上伊福

本社は明治二十九年四月の創立にして明治三十一年十二月岡山、津山間三十五哩三十二鎖、同三十七年十一月岡山、湛井間十三哩四十鎖の開業を見、明治四十四年五月稻荷、稻荷山間の開業を見たり、大正十三年八月作備線開通に伴ひ津山驛を津山口驛と改稱、津山口、津山間の連絡線を敷設し大正十四年二月十六日総社、湛井間を廢線し同年八月伯備線西総社驛へ連絡開業せり。

西大寺鐵道株式會社

所在地　上道郡西大寺町

本社は明治四十三年七月の創立にして翌年十二月西大寺町、財田間三哩五分、同四十五年一月財田、森下間二哩八分、大正四年九月森下、後樂園間零哩九分の開通を見たり。

井笠鐵道株式會社

所在地　小田郡笠岡町大字笠岡

本社は明治四十四年七月の創立にして大正二年十一月井原、笠岡間十二哩一分、大正十年十月北川、矢掛間三哩六分の開通を見、次いで大正十四年二月井原、高屋間二哩五分の開通を見、高屋驛にて神高鐵道に接續聯絡するに至れり。

下津井鐵道株式會社

所在地　兒島郡下津井町

本社は明治四十四年八月の創立にして大正二年十一月味野町、茶屋町間九哩、大正三年三月味野町、下津井間四哩一分の開通を見たり。

由來下津井町は讃岐丸龜との連絡に於て海上僅か八浬に過ぎざるを以て本社は丸龜市との間に備讃商船會社の汽船を以て連絡を計り居れるが最近坂出下津井間に於ても聯絡船を運行するに至れり。

片上鐵道株式會社

所在地　和氣郡片上町

本社は大正九年十一月の創立にして大正十二年一月片上、和氣間六哩一分の開業をなせり。此の他矢田、井の口間零哩七分の貨物専用線を建設し主として鑛石を運搬せしが其の後久米郡吉岡村柵原鑛山迄開通し貨客を取扱へり。

(ロ) 水　運

本縣の海岸線は百二十餘里に及び宇野、玉島、片上、牛窓、笠岡、日生、下津井、三蟠田ノ口、八濱、寄島、日比等の諸港を有すと雖も開港場たる宇野港を除きては概ね逐年埋沒の傾向ありて一般巨船の出入に不便なるを以て縣に於ては之等を浚渫しつゝあり、而して航路は主として四國、阪神地方なりとす。

河川としては吉井、旭、高梁の三大川あつて共に沿川地方の荷物及旅客の積送をなせり。

昭和九年末に於ける船舶は船鑑札規則適用汽船一、總噸數一二噸、發動機船四九艘總噸數六一一噸、帆船九二八艘、總噸數一二、六四二噸其の他のもの數千艘あり。

B　金　融

(イ) 銀行、信託及無盡

本縣の金融は縣下の經濟的中心地たる岡山市を以て其の中樞とし農工、貯蓄、普通銀行並信託會社等代表的機關多く就中之等諸銀行は歐洲大戰以後經濟界の變動或はモラトリアム等の激變に遭遇し其の基礎益確實なるを要するに當り政府の合同慫慂と共に郡部に散在せる中小の銀行は頻々として合併せられ大正八年末に於ては本店銀行四十八行なりしもの昭和三年六月末に於て十一行となり尚仝年下季に入り貯蓄銀行合併に因り一行、普通銀行

解散に因り二行を減じ其の資本金總額壹千七百萬圓より參千參百四拾九萬圓に增大し基礎頗る鞏固を加ふるに至れり、尚昭和五年十二月縣下二大銀行たりし第一合同、山陽銀行の合併成立し中國銀行の設立せられたるは本縣金融界に一新紀元を劃せるものとして特筆すべきなり。尚美作勝山銀行は昭和七年十二月中國銀行に合併したり。而して之等は日本銀行其の他の銀行支店と相俟つて地方資金の需給圓滑を必せり又中國信託株式會社は本縣唯一の信託業にして昭和二年一月の創立に係り開業後日尚淺きも將來發展性に富み斯界の期待に應へ信用組合及興國無盡株式會社（岡山市東中山下）東備無盡株式會社（岡山市内山下）合資會社岡山金融無盡商會（岡山市西田町）合資會社別所無盡商會（岡山市山崎町）昭和六年十二月新設免許を得たる倉敷無盡株式會社（倉敷市倉敷）及中國無盡株式會社（津山市元魚町）等の無盡業と共に本縣の產業開發助成に努めつゝあり。

一、本縣内に本店を有するもの

（昭和九年下半期末）

銀行名	所在地	創立年月日	支店數	資本金總額	拂込資本金	各種積立金	貸付金	預り金	利益配當率	代表者
株式會社岡山縣農工銀行	岡山市上之町	明治三十年十二月一日	二	三、〇〇〇、〇〇〇円	三、〇〇〇、〇〇〇円	二、七九八、〇〇〇円	二七、三五一、三六六円	債券發行高 三二、三〇〇、六五〇円 預り金 四、三〇四、一六五	八分	星島義兵衛
株式會社岡山合同貯蓄銀行	岡山市西中山下	明治廿九年九月十四日	二	一、六〇〇、〇〇〇	五七三、〇〇〇	三三一、一七〇	一、三〇七、五三三	三〇、七五七、〇七六	五分	大原孫三郎
株式會社中國銀行	岡山市内山下	昭和五年十二月廿一日	縣内三六 縣外一九	一五、〇〇〇、〇〇〇	六、七〇三、四一〇	三七〇、〇〇〇	七〇、八〇七、三二一	九七、九〇一、三二七	五分	大原孫三郎
株式會社日生銀行	和氣郡日生町	大正十一年四月廿五日	—	一、一〇〇、〇〇〇	二七五、〇〇〇	二五七、〇〇〇	六九八、七七九	四五四、七三六	八分五厘	金谷大介
株式會社中備銀行	都窪郡早島町	明治廿九年二月七日	四	一、〇〇〇、〇〇〇	三三九、二〇〇	七九、五〇〇	一、五三三、三三七	二、六四三、二七二	五分	寺山研太郎
中國信託株式會社	岡山市内山下	昭和二年一月二十日	—	五、〇〇〇、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇	一六五、〇〇〇	信託勘定 七、一六五、八四九	固有勘定 五、三五一、三〇九	四分	會長 大原孫三郎 社長 原澄治

二、無盡業者調

（昭和九年下半期末）

商號	所在地	支店數	出張所數	代理店數	資本金	資本金拂込高	給付金契約高	營業區域	設立年月日	代表者
興國無盡株式會社	岡山市東中山下一五番地	—	四	—	一〇〇、〇〇〇円	二五、〇〇〇円	一〇九組 二、一六六、〇〇〇	縣一圓	大正二、一〇、一三	横山雄一
東備無盡株式會社	岡山市内山下三〇番地ノ六	—	—	—	五〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一九〇組 八八八、八〇〇	岡山市、和氣郡	大正七、一、一三	沖善太郎
合資會社岡山金融無盡商會	岡山市西田町一六番地	—	五	—	一〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇	三五三組 四、三九九、五〇〇	岡山市、倉敷市、津山市、御津郡、上道郡、都窪郡、淺口郡、苫田郡	大正一五、三、一	福原嘉之
合資會社別所無盡商會	岡山市山崎町	—	—	—	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	六二組 七八三、九八〇	岡山市、兒島郡、御津郡、上道郡	昭和二、一一、一九	長谷川正

倉敷無盡株式會社	倉敷市倉敷一〇三番地	—	—	—	100,000	25,000	四三組 1,125,000	倉敷市、都窪郡、淺口郡、吉備郡、兒島郡、上房郡	昭和六、一一、九	渡邊源太郎
中國無盡株式會社	津山市元魚町三九番地	—	—	—	100,000	25,000	四三組 907,800	津山市、苫田郡、勝田郡、英田郡、久米郡、眞庭郡	昭和六、一二、三	淀川正充

三、他府縣所在の銀行にして本縣内に其の支店を有する者

本店所在地	支店名	所在地
東京	株式會社安田銀行岡山支店	岡山市東中山下
東京	株式會社安田銀行岡山京橋支店	岡山市西大寺町
東京	株式會社安田銀行玉島支店	淺口郡玉島町
東京	株式會社安田銀行倉敷支店	倉敷市
東京	株式會社安田銀行味野支店	兒島郡味野町
東京	株式會社安田銀行西大寺支店	上道郡西大寺町
東京	株式會社安田銀行笠岡支店	小田郡笠岡町
東京	株式會社安田銀行井原支店	後月郡井原町
東京	株式會社安田銀行津山支店	津山市
東京	株式會社十五銀行岡山支店	岡山市上之町
大阪	株式會社三和銀行岡山京橋支店	岡山市上之町
廣島	株式會社藝備銀行笠岡支店	小田郡笠岡町
兵庫縣	株式會社佐用合同銀行古町支店	英田郡大原町
大阪	株式會社藤本ビルブローカー銀行岡山支店	岡山市西中山下
東京	株式會社川崎第百銀行岡山西支店	岡山市上石井
東京	株式會社川崎第百銀行岡山支店	岡山市西大寺町
大阪	株式會社三和銀行岡山支店	岡山市西中山下
東京	株式會社不動貯金銀行岡山支店	岡山市上之町
大阪	株式會社住友銀行岡山支店	岡山市西中山下
兵庫縣	株式會社上郡銀行和氣支店	和氣郡本莊村
兵庫縣	株式會社上郡銀行片上支店	和氣郡片上町

(ロ) 手形交換所

明治三十六年四月岡山市に電話設置せらるゝと同時に組合銀行、二十二銀行、二十二貯蓄銀行、加島銀行岡山支店、鴻池銀行岡山支店、山陽商業銀行、輪番を以て幹事となり試驗的に交換を開始し併せて不渡手形の制裁をも設け、爾來規約の改廢を爲し來りしに偶歐洲戰亂と共に我國の經濟界は著しく膨脹し來り銀行も亦增加したる折柄日本銀行岡山支店設置せられしを動機に手形交換所を設立し同支店を根軸に大正十一年六月より岡山商業會議所內に於て交換をなしたるが大正十二年五月現在の岡山市內山下に移轉し茲に積年の懸案を解決し從來の不便不利を一掃するに至れり。

今最近十ヶ年の交換高を示せば左の如し。

大正十四年	二四三、〇四九枚	二〇〇、一一六、二九一圓七九錢

仝十五年	二六四、八六七枚	二四六、二七二、八二八圓〇五錢
昭和元年		
仝二年	二三九、五〇二枚	一八〇、七九五、二七一圓七一錢
仝三年	二六四、四八七枚	二一三、七九〇、五五五圓五三錢
仝四年	二七九、五四〇枚	二一七、九一八、七九六圓三一錢
仝五年	二六三、九九五枚	一六一、一九二、九七九圓〇八錢
仝六年	二二六、四六二枚	一二三、五八五、八八一圓一三錢
仝七年	二二八、六五四枚	一三一、三一五、六四五圓〇〇錢
仝八年	二四二、五五五枚	一八一、三六九、二一七圓三九錢
仝九年	二三三、九七九枚	一七六、四一八、六七四圓七八錢

C　取引所

縣下に於ける取引所は岡山米取引所一箇所のみにして明治二十六年十二月の創立に係る資本金貳拾萬圓にして大正十四年中取引高六百十一萬六千九百石、大正十五年昭和元年中四百七十八萬八千七百石、昭和二年中六百四十六萬五百石、昭和三年中六百六十六萬二千五百石、昭和四年中七百十三萬八千六百石、昭和五年中八百七十七萬七千八百石、昭和六年中九百四十六萬一千五百石と逐年增加せしも昭和七年は不況の影響を受け一千三萬六百石に減少せるが更に昭和八年は米穀統制法其の他の關係により六百三十四萬七百石、昭和九年は五百七十五萬六千六百石に減少せり。

D　市場

(イ)　魚市場

本縣に於ける生魚市場は三市十郡に亘り三十五個あり、二日市生魚問屋組合魚市場は其の取扱高最も多し。昭和六年中全縣下の取扱高五百四十餘萬圓に達し現在の賣買方法は相對とするもの漸次減少し糶賣買となれり。

今市場名、所在地及昭和六年中の取扱金額を示せば左の如し。

市場名	所在地	昭和九年中の取扱金額
二日市生魚問屋組合魚市場	岡山市二日市旭川岸	二、八〇〇、〇〇〇円
岡山生魚株式會社魚市場	同　市川崎町旭川岸	三〇一、九八三
株式會社津山魚市場	津山市新魚町三八	一五〇、〇〇〇
倉敷魚市場	倉敷市倉敷一一五四	二四〇、〇〇〇

鴨井鮮魚部	倉敷市新川	一五〇、〇〇〇
瀬戸魚市場	赤磐郡瀬戸町大字下	三〇、三〇〇
日生漁業組合共同販賣所	和氣郡日生町大字日生	七〇、〇〇〇
和氣魚市場	同　郡和氣町大字和氣	不明
片上魚市場	同　郡片上町大字西片上	二〇、〇〇〇
福浦魚市場	同　郡福河村大字福浦	一三、〇〇〇
牛窓町漁業組合販賣部	邑久郡牛窓町三〇二	一二五、七七九
尻海漁業組合共同販賣所	同　郡玉津村大字尻海	三六、四二〇
虫明漁業組合共同販賣所	同　郡裳掛村虫明	四八、〇三四
大十魚市場	上道郡西大寺町一四九五	一〇〇、〇〇〇
宇野生魚株式會社	兒島郡宇野町大字田井	一〇二、四〇〇
備讃生魚株式會社	同　郡宇野町大字田井七三二四	一〇一、五七三
呼松魚市場	同　郡福田村大字呼松	一〇、八〇〇
藤万魚市場	同　郡小串村大字小串	二〇、〇〇〇
本荘漁業組合漁獲物共同販賣所	同　郡本荘村大字通生	八、五〇〇

胸上漁業組合共同販賣所	兒島郡胸上村大字胸上	四二、〇〇〇
向日比漁業組合共同販賣所	同　郡日比町大字和田	三三、〇〇〇
玉生魚株式會社	兒島郡日比町大字玉	七〇、〇〇〇
連島生魚同業組合市場	淺口郡連島町大字西ノ浦	五、〇〇〇
寄島町漁業組合共同販賣所	同　郡寄島町東安倉、中安倉、西安倉	八六、七三八
黒崎村漁業組合共同販賣所	同　郡黒崎村小原、沙美東、沙美西共同販賣所	五〇、〇〇〇
玉島魚市場	同　郡玉島町大字阿賀崎	二一〇、〇〇〇
丸五魚市場	同　郡同　町大字玉島	八一、〇〇〇
玉島漁業組合市場	同　郡同　町大字乙島	四、五〇〇
正頭魚市場	同　郡大島村大字大島中字正頭	三三、〇〇〇
笠岡生魚株式會社魚市場	小田郡笠岡町大字笠岡	一六、〇〇〇
株式會社高梁魚市場	上房郡高梁町大字新町	六〇、一二〇
高梁水產株式會社	同　郡同　町大字南町九	三七、五〇〇
成羽魚市場	川上郡成羽町大字下原	七〇、〇〇〇

株式會社津山魚市場久世市場	眞庭郡久世町大字久世	二〇、〇〇〇
津山魚市場林野出張所	英田郡林野町大字林野	三〇、〇〇〇

(ロ) 青物市場

本縣に於ける青物市場は三市五郡十五ヶ所に亘り岡山青物市場は其の取扱高最も多し。會社組織によるもの三ヶ所他は個人又は組合經營にして昭和六年中の取扱高五百貳拾六萬圓に達せり。

今市場名、所在地及取扱額を示せば左の如し。

市場名	所在地	昭和九年中の取扱金額
岡山青物市場	岡山市内山下五四	二、七〇〇、〇〇〇円
津山青果株式會社市場	津山市田町一一三	二一、〇〇〇
倉敷青物市場	倉敷市倉敷三六七	一、五〇〇、〇〇〇
株式會社西大寺青果市場	上道郡西大寺町一三一〇	一〇五、〇〇〇
呼松假設青物市場	兒島郡福田村大字松江	
㊇梨共同販賣市場	兒島郡八濱町大字波知	二〇、四四九
玉島青果市場	淺口郡玉島町大字玉島	一一〇、〇〇〇
〔示〕青果市場	同 郡同 町大字阿賀崎	一九、〇〇〇
小西青物市場	同 郡同 町大字玉島	二、一〇〇
花田青果市場	同 郡同 町大字玉島中島町	一八、〇〇〇
矢掛青物市場	小田郡矢掛町大字矢掛	一五、〇〇〇
山忠商店市場	同 郡同 町大字矢掛	三〇、〇〇〇
中西商店市場	同 郡同 町大字矢掛	一五、〇〇〇
中藤青果市場	同 郡笠岡町大字笠岡	一八、〇〇〇
笠岡青物市場	同 郡同 町大字笠岡	一八、〇〇〇
成羽松茸市場	川上郡成羽町大字下原	一〇、〇〇〇

(ハ) 家畜市場

本縣は畜牛約十萬頭馬匹七千餘頭を包容し古來和牛の產地として宇內に其の名を知られ一ヶ年の生產亦二萬頭に近く其の資質に至りては作州牛（奥津牛、新庄牛）備中牛（千屋牛、高山牛）として其の名聲斯界に高く役肉牛として善く世の賞讃を博しつゝあり縣は明

治二十八年以來之等在來和種を利用し漸進的に改良の歩を進めたるものにして毫も和種の特能を毀損せず而も時勢に順應せる改良役肉用種として今や完璧に近く茲に備作種と命名して各地に向て和種改良の原種を供給するの外役肉用として近畿、東海道、四國、九州の一部北陸方面に迄移出するの盛況に達し數十ヶ所の特設畜産組合賣買市場の外左表の常設並定期家畜市場あり。

岡山縣内常設並定期家畜市場日割表

市場名	所在地	開場期日	一ヶ年主なる取引時期
岡山常設	岡山市纖井	毎日 但し主として二、五、八の日	七月
宮ノ市常設	苫田郡東一宮村	一月一日より十五日迄及二十九日、卅日 二月九、十、十九、廿、廿八日 三月 四月〜九、十、十九、廿、廿九、卅日 五月九、十、十九、廿、廿四日より卅一日迄 六月二日より十五日迄 七月七日より十三日迄、十九、廿、廿九、卅日 八月二日より十五日迄、十九、廿、廿九、卅日 九月九、十、十九、廿、廿九、卅日 十月十一日より十一月五日迄 十二月九、十、十九、廿日及廿五日より卅一日迄	
津山常設	津山市小田中	毎日主として八の日	
一宮定期	御津郡一宮村	毎月四日、十四日、廿四日、八月三日大市	
瀬戸定期	赤磐郡瀬戸町	毎月一、七の日	十二月
仁堀定期	同郡仁堀村	毎月十の日	三、十月
和氣定期	和氣郡和氣町	毎月四の日	四月、十月
倉敷定期	倉敷市	毎月三、六の日	
足守驛定期	吉備郡生石村	毎月一の日	十一月、十二月
大井定期	同郡大井村	毎月三の日	十二月
笠岡定期	小田郡笠岡町	毎月九の日	十一月、十二月
井原定期	後月郡井原町	毎月五の日	十一月、十二月
高山定期	同郡三原村	毎月四の日	十月
高梁定期	上房郡高梁町	毎月七、八、九の日 但六月休場	三、七、十一、十二月
呰部定期	同郡呰部町	毎月五、六の日(六月中休場)大市一月四日、四月十四日、七月十四日、十一月十四日より各三日間	十一月、十二月

成羽定期	川上郡成羽町	毎月六、七、八の日 但し六月十六、廿八日、七月六日より各三日間を除く	三、七、十一、十二月
地頭定期	同　郡手莊村	毎月六の日	十一月、十二月
新見定期	阿哲郡新見町	毎月五、六の日 但二月最終の開場は最終の一日とす	十二月
小坂部定期	同　郡刑部町	毎年七月十六日より十九日迄 十二月十二日より十五日迄	十二月
千屋定期	同　郡千屋村	七月七日より七日間 十一月二十日より八日間	十一月
上市定期	同　郡上市村	七月二十二日より五日間 十二月五日より七日間	十二月
矢田定期	同　郡矢神村	十二月三日より三日間	十二月
草間定期	同　郡草間村	毎年十一月二十五日より十二月一日迄	
久世定期	眞庭郡久世町	大市は六月三日より七日間、十月十二日より四日間、十一月二十日より十八日間、一月、二月、三月、四月、八月は各二、三の日、五月、九月は二、三日、二十日、十九、三十日、七月は十二、十三、二十二、二十三日、十月は二、三、二十二、二十三日	十一月
美甘定期	同　郡美甘村	七月五日より四日間、十一月十二日より六日間	七月、十一月
福田定期	同　郡八束村	四月七日より五日間、六月十日より四日間、九月廿七日より四日間、十一月四日より六日間	十一月
奥津定期	苫田郡奥津村	七月三日より四日間、七月二十一日より七月二十四日迄、十月六日より五日間、十一月十七日より十九日迄	十一月
飯岡定期	勝田郡飯岡村	毎月三の日	十一月
大崎定期	同　郡大崎村	毎月五の日	十一月
勝加茂定期	同　郡勝加茂村	毎月二の日	十一月
江見定期	英田郡江見村	毎月七の日	十一月、十二月
福渡定期	久米郡福渡町	毎月六の日	四月、九月
弓削定期	同　郡弓削町	毎月二の日 但六月二十二日休場	十一月
千代定期	同　郡大倭村	毎月四の日	

E　出荷團體

時代の推移により生産者に於て直接消費都市へ出荷するもの漸次増加せるが昭和七年十月末現在縣下出荷團體の状況左の如し。

(イ)　農產團體

名稱	事務所所在地	創立年月	組織	區域	組合員	取扱品名	昭和六年度取扱金額	備考
岡山蔬菜園藝會	岡山市東中山下	昭和四、八	任意組合	岡山市、上道郡、御津郡	一〇〇人	甘藷、胡瓜、トマト、西瓜	二〇〇円	
倉敷槳酸出荷組合	倉敷市農會內	同 六、七	同	倉敷市一圓	一五〇	槳酸	八、〇〇〇	
四十瀬生果出荷組合	同市四十瀬	同 五、七	同	同市四十瀬一圓	四〇	槳酸、西瓜	五、〇〇〇	
倉敷市果物出荷組合	同市富久	同 五、一	同	同市一圓	五二	葡萄、無花果	五五〇	
大倉蓮根出荷組合	倉敷市大倉信用組合內	大正一四、一〇	同	舊大高一圓	二三〇	蓮根	二三、〇〇〇	
沖農家組合出荷部	同市沖	昭和六、八	同	倉敷市沖一圓	四〇	味瓜	一、〇〇〇	
津山市園藝生產組合	津山市鉄砲町	同 五、八	同	市內一圓	三三〇	柿、大根、胡瓜、南瓜	六、〇〇〇	
圓城村信用購買販賣利用組合	御津郡圓城村大字上田東	明治四〇、	產業組合	圓城村一圓	五〇〇	白菜	三三〇	
圓城村松茸出荷組合	同郡圓城村農會內	昭和四、九	任意組合	同	五六	松茸	一、四〇五	
佐山果物出荷組合	同郡平津村大字佐山	明治四二、四	同	平津村大字佐山一圓	九三	桃、梨、葡萄、柿、枇杷、西瓜	三、〇〇〇	
今岡農家組合	同郡同村大字今岡	昭和六、五	同	同 今岡一圓	二九	豌豆	四一〇	
岡山縣出荷組合一ノ宮支部	同郡馬屋下村役場內	昭和二、三	任意組合	馬屋下村、一ノ宮村、馬屋上村	四五〇	桃、柿、葡萄	九〇、一〇〇	
新山村松茸出荷組合	同郡新山村大字尾原	同 五、九	同	新山村一圓	五三	松茸及しめじ	一、五八四	
新山村農會	同		農會	同	三五六	鷄卵、大根、蕪、家兎、栗、蒟蒻等	八八〇	
新山村白菜出荷組合	同	昭和六、七	任意組合	同	二八	白菜	三八四	
野谷村果物出荷組合	同郡野谷村板谷	同 四、五	同	野谷村一圓	五六	桃、梨、櫻桃	六、四〇〇	
野谷西瓜出荷組合	同	同 五、七	同	同	一〇三	西瓜	四〇〇	
㊄苺組合	同郡同村菅野	同 六、四	同	野谷村ノ內西菅野	一四	苺	一、一六〇	
板谷苺組合	同郡同村板谷	同 六、四	同	野谷村ノ內板谷	二〇	同	一、五七〇	
西菅野松茸出荷組合	同郡同村菅野	大正一三、九	同	野谷村ノ內西菅野	一三〇	松茸	一、二〇〇	
組山會	同郡同村栢谷	同 六、四	同	野谷、横井、馬屋上、牧石各村	二四	葡萄	一四〇、〇〇〇	
長田出荷組合	同郡長田村大字下土井	昭和二、九	同	長田村一圓	六〇	松茸	一、三〇〇	
馬屋上村協同松茸出荷組合	同郡馬屋上村大字富吉	同 三、九	同	馬屋上村一圓	七八	同	八、〇〇〇	
スター果物出荷組合	同	大正九、四	同	馬屋上村大字富吉字本村一圓	三〇	桃、梨、柿等	五、〇〇〇	

三共果物出荷組合	御津郡馬屋上村大字富吉	大正九、四	任意組合	馬屋上村大字富吉字山内風林一圓	三〇	桃、梨、柿等	八、〇〇〇
(タ)果物組合	同郡同村大字田原	同一〇、四	同	馬屋上村大字田原一圓	三五	同	五、〇〇〇
(富)果物組合	同郡同村大字富吉	同一五、一	同	馬屋上村富吉字小畑後谷一圓	一九	同	一、五〇〇
高陽生果出荷組合	赤磐郡高陽村役場内	昭和五、七	同	高陽村一圓	三〇七	桃、梨、柿、スモモ、葡萄	三五、五〇〇
(共)組合	同郡可眞村大字稗田	同三、一	同	可眞村大字稗田一圓	一五〇	果實	一七、〇〇〇
旭生果園	同郡高月村牟佐	大正八、七	同	高月村牟佐一圓	七〇	梨、桃、葡萄	三、四一〇
(岩)組合	同郡高月村岩田	明治四〇、三	同	高月村和田岩田一圓	九二	梨、桃、葡萄	一〇、三五〇
高月柿出荷組合	同郡同村馬屋	昭和七、九	同	高月村一圓	八〇	柿	四、〇〇〇
牟佐白菜共同出荷組合	同郡同村牟佐	同五、六	同	高月村牟佐一圓	三五	大根、芋	七、〇〇〇
西山三組合聯合會	同郡西山村西中	同五、五	同	西山村一圓	三五〇	桃	五〇、〇〇〇
鳥西出荷組合	同郡西山村農會内	同七、一〇	同	西山、鳥取上二村一圓	三五〇	柿	五、〇〇〇
西山嘉寶出荷組合	同郡西山村農會内	同五、四	同	西山村一圓	四〇	嘉寶、西瓜	二、〇〇〇
肩背百合出荷組合	同郡潟瀬村大字肩背	同三、九	同	潟瀬村大字肩背一圓	五五	白玉百合	二、一〇〇
大内西瓜出荷組合	赤磐郡潟瀬村大字大内	昭和五、六	任意組合	潟瀬村大字大内一圓	三六	西瓜	二、三〇〇円
鶴山果物出荷組合	邑久郡鶴山村農會内	大正一三、七	同	鶴山村一圓	八〇	梨、桃、葡萄、柿	三〇、〇〇〇
志樂青物出荷組合	同郡牛窓町六七四	昭和二、二	同	牛窓町志樂部落一圓	六五	蔬菜、南瓜、西瓜、馬鈴薯	三〇、〇〇〇
鹿忍町野上出荷組合	同郡鹿忍町野上	大正一五、一一	同	鹿忍町字野上一圓	三〇	馬鈴薯、南瓜、西瓜其他	一五、〇〇〇
長濱馬鈴薯出荷組合	同郡長濱村	同一五、五	同	長濱村一圓	二七〇	馬鈴薯	一一、七五
古都(コ)出荷組合	上道郡古都村大字宿	同一五、七	同	古都村一圓	一三〇	梨、桃、葡萄、柿、西瓜	三八、三九〇
古都(宍)出荷組合	同郡同村大字宍甘	昭和七、七	同	同	五八	同	六年ハナシ
草ケ部果物出荷組合	同郡浮田村	大正三、七	同	浮田村草ケ部一圓	六〇七	葡萄	九〇、〇〇〇
平島共同出荷組合	同郡平島村	明治四〇、	同	平島村一圓	五〇	葡萄、桃、梨	七、五〇〇
(平)出荷組合	同	大正一、一一	同	同	八〇	桃、葡萄、梨、柿	九、三五〇
雄神信用購買販賣利用組合	同郡雄神村福治	明治四三、一一	產業組合	雄神村一圓	二六六	梨、葡萄	三七、二七三
本荘村無花果出荷組合	兒島郡本荘村大字宇野津	昭和五、一	任意組合	本荘村一圓	二九	無花果	四、六六三
阿津出荷組合	同郡小串村大字阿津	同六、五	同	小串村阿津一圓	三〇	西瓜、甘藷、葱頭	一五、四〇〇

長尾町出荷組合	淺口郡長尾町大字長尾	昭和六、六	任意組合	長尾町一圓	三〇	西瓜	九二四	
黒崎葡萄出荷組合	同郡黒崎村三〇九番地	同三、七	同	黒崎村一圓、玉島町大字勇崎、柏島阿賀崎	三五〇	葡萄	二九、〇〇〇	
連島町朝日出荷組合	同郡連島町大字連島	同四、二	同	連島町字江長一圓	四〇	小麥、西瓜、甘藷、牛蒡、大根	一〇、二六八	
龜島共同出荷組合	同郡連島町龜島新田	同三、八	同	連島町龜島新田一圓	五三	甘藷、柿、葡萄、西瓜、蓮根	一三、五四〇	
連島青果出荷組合	同郡連島町連島	同五、二	同	連島町大字茂浦、富崎、兒島郡福田村ノ一部	四〇	甘藷、西瓜、蓮根其他	一一、一五六	
鶴新田㊀西瓜出荷組合	同郡連島町鶴新田	同五、七	同	鶴新田古地一圓	三	西瓜	一、八五〇	
連島町㊉出荷組合	同郡連島町西之浦	同四、五	同	連島町本町腕一圓	三四	西瓜、里芋、味瓜等	四、四五三	
水門蓮根出荷組合	同郡連島町鶴新田	同二、八	同	連島町水門一圓	一三	蓮根	三、〇二五	
辨財天出荷組合	同郡連島町辨財天	同五、一	同	連島町辨財天一圓	三八	葡萄、柿、蜜柑	六、九二二	
旭出荷組合	同郡連島町	大正二、八	同	西阿知町ノ一部、辨財天一圓	三	葡萄、柿、蜜柑、桃、梨、西瓜	一九、五三〇	
龜島㊀出荷組合	同郡連島町龜島沖	昭和二、一	同	龜島沖一圓	七二	柿、葡萄、蔬菜	三六、五八〇	
玉島町胡瓜生產販賣組合	同郡玉島町大字乙島	大正一四、二	同	玉島町大字乙島一圓	一二六	胡瓜、南瓜等	七、〇〇〇	

玉島町農會	淺口郡玉島町大字玉島	大正一二、六	農會	玉島町一圓	三、一九二	西瓜、胡瓜	二、五〇〇	
丸本果物組合	同郡玉島町大字勇崎	不明	任意組合	玉島町大字勇崎字元濱	三〇	梨、葡萄等	一、五〇〇	
矢掛果物出荷組合	小田郡矢掛町役場內	大正一三、三	同	矢掛町一圓	四三	梨	八、一〇〇	
㊞出荷組合	同郡新山村大字山口	昭和二、八	同	新山村一圓	一〇一	桃、梨、柿、葡萄	一三、五〇〇	
丸今果物組合	同郡今井村大字今立	大正四、三	同	今井村今立、園井	一五〇	桃、梨、葡萄、柿	三、七三〇	
丸廣果物組合	同郡今井村大字廣濱	同	同	今井村廣濱	四五	同	二、二七一	
吉町村西瓜出荷組合	同郡吉田村大字關戶	昭和六、七	同	吉田村一圓	七三	西瓜	二、〇〇〇	
城見村筍出荷組合	同郡城見村	同二、四	同	城見村一圓	五〇	筍	一、〇八二	
茂平莓出荷組合	同郡同村	同五、四	同	城見村茂平一圓	一四三	莓	六、三四七	
城見村西瓜出荷組合	同郡同村	同五、六	同	城見村一圓	一三八	西瓜	五、七四六	
城見村無花果出荷組合	同郡同村農會內	同六、四	同	同	四一	無花果	一、二〇〇	
茂平果樹出荷組合	同郡同村	大正一四、一	同	城見村茂平一圓	一三八	桃、梨、葡萄	三、八八八	
木之子村出荷組合	後月郡木之子村二八五三番地	昭和七、二	同	木之子村一圓	三六	西瓜、瓜類	—	

青野村農會	後月郡青野村大字青野	明治二九、七	農會	青野村一圓	五九	松茸、甘藷、大根	二、八一七	
高梁蔬菜出荷組合	上房郡高梁町農會内	昭和六、七	任意組合	高梁町一圓	一七五	大根、白菜、松茸、瓜類、芋類抑制蔬菜	一、三〇〇	
松茸組合	同郡吉川村	同六、九	同	吉川村ノ一部	五〇	松茸	五、〇〇〇	
白菜組合	同郡吉川村役場内	同七、四	同	吉川村一圓	三〇	白菜	—	
巨瀬村蔬菜出荷組合	同郡巨瀬村農會内	同六、四	同	巨瀬村一圓	五八	胡瓜、豌豆、トマト、白菜	一、〇三五	
巨瀬村松茸出荷組合	同郡同村	同五、四	同	同	一八五	松茸	二、七五〇	
川面松茸出荷組合	上房郡川面村農會内	同六、九	同	川面村一圓	一五〇	同	一、二八〇	
上竹荘松茸出荷組合	同郡上竹荘村大字細北	大正一〇、二	同	上竹荘村一圓	一五〇	同	二、五〇〇	
豐野村松茸出荷組合	同郡豐野村農會内	昭和六、九	同	豐野村一圓	六〇	同	一、三四〇	
吉川村松茸出荷組合	同郡吉川村役場内	同	同	吉川村一圓	五〇	同	一、一〇〇	
中井村松茸出荷組合	同郡中井村役場内	同	同	中井村一圓	七〇	同	一、六〇〇	
呰部町松茸出荷組合	同郡呰部町阿口	同	同	呰部町一圓	三五	同	六〇〇	
呰部町蔬菜出荷組合	上房郡呰部町阿口	昭和六、一	任意組合	呰部町一圓	一三〇	豌豆、牛蒡、胡瓜	二五〇	
丸總果物出荷組合	吉備郡總社町大字小寺	大正一四、	同	總社町大字小寺	二七	桃、梨、柿、葡萄	七、二〇〇	
昊妹村青物出荷組合	同郡昊妹村役場内	昭和六、三	同	昊妹村一圓	三〇	蔬菜、西瓜	一、二〇〇	
手荘村松茸出荷組合	川上郡手荘村大字地頭	同六、九	同	手荘村一圓	二五〇	松茸	三、二〇〇	
玉川村松茸出荷組合	同郡玉川村役場内	同四、八	同	玉川村一圓	五	同	四、五〇〇	
日里村松茸出荷組合	同郡日里村役場内	同六、八	同	日里村一圓	三五〇	同	八、六〇〇	
高山村松茸出荷組合	同郡高山村役場内	同四、八	同	高山村一圓	四〇	同	四、三〇〇	
富家村青果物出荷組合	同郡富家村役場内	同二、八	同	富家村一圓	二五	白菜、蕃茄	一、二〇〇	
湯野村栗出荷組合	同郡湯野村役場内	同六、四	同	湯野村一圓	五〇	栗	八〇〇	
久世生柿出荷組合	眞庭郡久世町役場内	同五、八	同	久世町一圓	一四〇	西條柿	一、八〇〇	
美川村松茸出荷組合	同郡美川村大字一色	同六、三	同	美川村一圓	五五	松茸、百合根	一、二〇〇	
西條柿出荷組合	同郡落合町大字中	同六、七	同	落合町一圓	五六	西條柿	一、三八六	
河内村松茸出荷組合	同郡河内村大字中河内	同七、九	同	河内村一圓	四〇	松茸		七年組織ニ付取扱金額ナシ

名稱	事務所々在地	創立年月	組織	區域	組合員數	取扱品目	昭和六年度ノ取扱金額	備考
眞庭郡木山村蒟蒻栽培出荷組合	眞庭郡木山村大字日ノ上	昭和四、四	任意組合	木山村一圓	二一〇	蒟蒻藷	三、五五二	
加茂町柿栗出荷組合	苫田郡加茂町役場內	同三、三	同	加茂町一圓	一二五	柿、栗、スヾ子筍	六三五	
芳野村副業組合園藝部	同郡芳野村役場內	同四、八	同	芳野村一圓	六〇〇	西瓜、瓜類	一、一〇〇	
一宮村農會	同郡一宮村役場內	不詳	同	一宮村一圓	二五〇	柿	二〇〇	
香々美南村柿出荷組合	同郡香々美南村役場內	昭和四、一〇	同	香々美南村一圓	三二五	西條柿	一三〇	
香々美南村愛勞園	同	同五、三	同	同	六二	豌豆、白菜等ヲ主トス	五八九	
南和氣村農會	勝田郡南和氣村大字藤田上	大正一一、三	農會	南和氣村一圓	五六五	大根、里芋、松茸等	五八六	
粟井村蒟蒻出荷組合	英田郡粟井村小野	昭和六、一	任意組合	粟井村一圓	三二	蒟蒻	一、一五〇	
亘勢村蒟蒻芋出荷組合	同郡亘勢村農會內	同六、一〇	同	亘勢村一圓	一六六	蒟蒻芋	一、二五一	
大井西村松茸出荷組合	久米郡大井西村大字坪井下	同五、九	同	大井西村一圓	一八	松茸	二七八	
大井西村副業研究會	同	同七、一	同		八六	蔬菜、果實		昭和七年組織ニ付六年度ナシ
大垪和村出荷組合	同郡大垪和村役場內	同七、三	同	大垪和村一圓	五〇	百合根		同
山ノ城出荷組合	同郡稻岡南村役場內	同五、九	同	稻岡南村一圓	四〇	松茸	一、〇〇〇	
龍川村農會販賣斡旋部	久米郡龍川村大字上	昭和五、一一	農會	龍川村一圓	五三〇	松茸、生柿	四五〇	
弓削町出荷組合	同郡弓削町大字下弓削	同五、一〇	産業組合	弓削町一圓		松茸、柿	一、七三三	
垪和村出荷組合	同郡垪和村役場	同五、九	任意組合	垪和村一圓	一四〇	栗	一、三〇六	

計　一一六組合　取扱金額合計一、三〇六、五七七圓

(ロ) 畜產團體

名稱	事務所々在地	創立年月	組織	區域	組合員數	取扱品目	昭和六年度ノ取扱金額	備考
岡山養鷄組合	岡山市南方	昭和四、三	任意組合	舊岡山市	五〇人	鷄卵	一四、七〇四円	
福濱養鷄組合	同市福富	同三、四	同	岡山市(舊福濱)	一六	同	七、六四七	
平井養鷄組合	同市平井	同二、四	同	岡山市(舊平井)	二〇	同	一、七三〇	
青江養鷄組合	同市青江	同五、	同	岡山市(舊青江)	一四	同	三、四七〇	
津山市養鷄組合	津山市農會內	同五、七	同	津山市	一七	同	不詳	
圓城村信用購買販賣利用組合	御津郡圓城村大字上田東	明治四〇、	産業組合	圓城村一圓	五〇〇	同 廢鷄	六五四	
宇甘東村養鷄組合	同郡宇甘東村役場內	昭和六、二	任意組合	宇甘東村一圓	一七五	鷄卵	八〇〇	

西山養鶏組合	赤磐郡西山村信購販組合內	大正一二、四	同	西山村一圓	三六〇	鶏卵	三、七五〇	
幸島村信用購買販賣組合	邑久郡幸島村大字東幸西	同 九、一	産業組合	幸島村一圓	三三〇	同	九、八二五	
津田村養鶏組合	上道郡津田村農會內	同 一〇、三	任意組合	津田村一圓	八四	同	二、七三六	
沖田村養鶏組合	同 郡沖田村大字桑野	昭和 三、三	同	沖田村一圓	九三	同	五、八七一	
甲浦村養鶏組合	兒島郡甲浦村農會內	大正一五、三	同	甲浦村一圓	七六	同	三四三	
道木信用購買販賣利用組合	淺口郡金光町大字占見新田	明治四四、六	産業組合	金光町大字占見新田道木、福永	一四三	同	九、四六六	
佐方信用購買販賣利用組合	同 郡金光町大字佐方	同 四五、五	同	金光町一圓	二六九	同	一五、〇七九	
占見信用購買販賣利用組合	淺口郡金光町大字占見	大正 二、一一	同	金光町一圓	一五二	同	九、三三三	
美川村養鶏組合	小田郡美川村大字內田	同 一四、九	任意組合	美川村一圓	一五九	鶏卵、生鶏	七、六二三	
矢掛養鶏組合	同 郡矢掛町役場內	昭和 二、一	同	矢掛町一圓	四〇	鶏卵	七〇〇	
新山村養鶏組合	同 郡新山村山口	大正一四、四	同	新山村一圓	一五〇	同	八、四〇〇	
東三成養鶏組合	同 郡三谷村大字東三成	昭和 三、	同	三谷村大字東三成一圓	一七	同	一、七〇〇	
横谷養鶏組合	同 郡同 村同	同	同	三谷村横谷一圓	一五	同	一、五〇〇	

金浦町養鶏組合	小田郡金浦町役場內	昭和 三、一	任意組合	金浦町一圓	六二	鶏卵	六、〇〇八	
尾坂共益社農家組合養鶏組合	同 郡吉田村大字尾坂	同 五、一〇	同	吉田村大字尾坂一圓	九五	同	五、九四八	
吉田養鶏同志組合	同 郡同 村大字吉田	同 五、八	同	同 村大字吉田一圓	九六	同	五、九九八	
關戸養鶏組合	同 郡同 村關戸	同 六、一	同	同 村大字關戸一圓	八七	同	二、五〇八	
昭和養鶏組合	小田郡小田村農會內	昭和 二、一	同	山田村一圓	九〇	同	六、〇八七	
城見村鶏卵出荷組合	同 郡城見村農會內	同 二、九	同	城見村一圓	三五	同	五、四三七	
木之子村養鶏組合	後月郡木之子村一二八〇	大正一四、二	同	木之子村一圓	六〇七	鶏卵、廢鶏	二、二〇〇	
縣主信用購買販賣利用組合	同 郡縣主村大字門田	昭和 四、四	産業組合	縣主村一圓	四一九	同	一〇、一七六	
青野村信用購買販賣利用組合	同 郡青野村大字青野	大正元、一一	同	青野村一圓	三三〇	同	三、八二四	
明治村花瀧養鶏組合	同 郡明治村大字花瀧	昭和 五、八	任意組合	明治村大字花瀧一圓	八〇	同	三、三〇〇	
高屋信用購買販賣組合	同 郡高屋町	大正 九、六	産業組合	高屋町一圓	二六八	同	一七五	昭和六年十一月ヨリ鶏卵開始
高梁町養鶏組合	上房郡高梁町農會內	同 一四、一〇	任意組合	高梁町一圓	一二五	鶏卵、鶏肉、鶏糞	一〇、八二七	
高梁町養兎組合	同	昭和 四、一二	同	同	六八	兎肉毛皮	三三〇	

組合名	事務所々在地	創立年月	組織	區域	組合員數	取扱品目	昭和六年度ノ取扱金額	備考
吉川村養鷄組合	上房郡吉川村役場内	昭和六、四	任意組合	吉川村一圓	一五	鷄及卵	三〇〇	
亘瀬村養兎組合	同郡亘瀬村農會内	同 五、八	同	亘瀬村一圓	一三五	毛皮、兎肉仔兎	四七〇	
岩田養鷄組合	吉備郡岩田村大字山上	大正一四、四	同	岩田村一圓	三五	鷄卵	九三六	
服部村養鷄組合	同郡服部村役場内	同 一三、一一	同	服部村一圓	一三四	同	六、三三三	
久代村養鷄組合	同郡久代村六六七	昭和四、三	同	久代村一圓	六五	同	四、七三五	
呉妹村養鷄組合	同郡呉妹村農會内	同 六、四	同	呉妹村一圓	二五	同	一、八〇〇	
福谷村養鷄組合	同郡福谷村	同 五、二	同	福谷村一圓	四〇	同	一、三五〇	
手荘村鷄卵出荷組合	川上郡手荘村大字地頭	同 五、八	同	手荘村一圓	一八〇	同	一、一三〇	
成羽町鷄卵出荷組合	同郡成羽町	同 六、四	同	成羽町一圓	三五	同	一、〇〇〇	
高山村鷄卵出荷組合	同郡高山村	同 二、四	同	高山村一圓	二七	同	三、五〇〇	
久世養鷄組合	眞庭郡久世町農會内	同 六、一二	同	久世町一圓	一五五	同	一〇〇	
落合養鷄組合	同郡落合町大字垂水	同 六、四	同	落合町一圓	六三	同	四、三五三	
芳野村副業組合養鷄部	苫田郡芳野村役場内	同 六、四	同	芳野村一圓	一二〇	同	八〇〇	

組合名	事務所々在地	創立年月	組織	區域	組合員數	取扱品目	昭和六年度ノ取扱金額	備考
芳野村副業組合養兎部	苫田郡芳野村役場内	昭和五、五	任意組合	芳野村一圓	二〇〇	生兎	四〇〇	
一宮村養鷄組合	同郡一宮村役場内	不詳	同	一宮村一圓	五〇	鷄卵	二七〇	
福本村養鷄組合	英田郡福本村役場内	大正一二、一二	同	福本村一圓	一三	同	一、七七六	
粟廣養鷄組合	同郡粟廣村大字田坂	同 一三、一二	同	粟廣村一圓	一〇〇	鷄卵、肉鷄種卵	三、五九〇	
粟井村養鷄組合	同郡粟井村小野	昭和四、二	同	粟井村一圓	二五	鷄卵、廢鷄	一、三五〇	
亘勢村養鷄組合	同郡亘勢村役場内	同 六、八	同	亘勢村一圓	四八	同	三九六	
大井西村養鷄組合	久米郡大井西村大字坪井下	同 六、二	同	大井西村一圓	六四	鷄卵、鷄肉	一四〇	

計　五三組合　取扱金額合計二一一、一三六圓

(ハ) 水產團體

組合名	事務所々在地	創立年月	組織	區域	組合員數	取扱品目	昭和六年度ノ取扱金額	備考
落合町養鯉組合	眞庭郡落合町大字垂水	昭和六、四	任意組合	落合町一圓	七三	鯉兒、成鯉	一、三三六	

五　工業

A　生産總價額累年比較

種別	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年
工産物	一六七、六五一、〇三三円	一二四、九九五、三二五円	一一三、〇四六、三三六円	一二八、四一八、九九二円	一六五、四七九、二七五円
農産物	六九、八五一、九五八	六四、七八七、九二三	四九、七五七、九八七	五三、六一二、五三九	七三、五三〇、七〇二
蠶業	二〇、八七九、三五三	一六、三〇九、八五七	一三、八二四、五八四	一五、九一八、六八三	二七、二一一、一八〇
畜産物	四、〇四六、七八三	三、三八三、七八七	三、五七三、二四三	三、九三二、〇三九	四、七三〇、九四三
水産物	四、四三四、九四一	四、二八四、八〇一	四、三三四、三六六	五、八九二、六〇二	五、八六四、二八六
林産物	六、七〇七、九〇〇	五、三〇七、七六一	五、七〇四、二五三	五、四三三、一七六	七、四七〇、二六四
鑛産物	三、四五七、三三一	二、九九二、一一七	二、六九七、九六四	三、一一六、二〇四	三、〇七七、八三二
合計	二七七、〇二九、一八八	二二二、〇六一、五六一	一九二、九二八、七三三	二一六、三一三、二三八	三〇五、二七九、三五四

B　紡織工場

(イ)　織物及染物

本縣の南部は昔時棉花の産地にして着尺地、縞色木棉、小倉帶地、袴地等を製織し他國に販賣して好評を博せり、然れども當時は製織法未だ幼稚なりしが其の後紡績糸と人造染料の輸入あるに至り製造の面目を一新し續いて製織機械の發明に依り動力を使用し染色も亦硫化染料を用ふる等長足の進歩を遂げ今日の隆盛を來し綿織物としては全國の大機業地を以て稱せらるゝに至れり、而して之が分布狀況を概觀するに兒島郡に産するものは備前織物と稱し内地向としては小倉、雲齋、袴地等を主とし輸出向としては小倉服地支那人用腿帶子にして邑久、上道郡方面は雲齋、小倉、小田、後月郡地方に産するものは備中織物と稱し綿小倉を主とし着尺地之に亞ぐ、而して本縣内生産種類は小倉服地、帶地、腿帶子足卷ゲートル、紐類、淺黃木綿、廣幅木綿、縞木綿、帆布、シーチング、蚊帳地、別珍、タオル、雲齋、白木綿、厚司、前掛地、色木綿、洋燈芯、臘燭芯、綿小倉袴地綿ネル生地等にして就中綿小倉の優秀なるは全國に誇る所にして之等販路の主なるものは大阪、兵庫東京、廣島、愛知、福岡、埼玉の諸府縣を主とし九州、四國、臺灣、朝鮮、支那、南洋、印度、濠洲等至らざる所なし。

右機業の改良發達を期する爲め備前織物同業組合（兒島郡灘崎村）及中備織物同業組合（後月郡高屋町）あり。更に昭和四年岡山縣織物工業組合（岡山市南方）昭和九年六月備中

織物工業組合（後月郡出部村）の設立を觀たり。

今最近五ヶ年の織物總價額を表示せば左の如し。

年次	絹織物	綿織物	絹綿交織物	麻及其交織物	毛及其交織物	特種綿織物	合計
昭和四年	円 一〇七、三五五	円 三五、八四七、五〇九	円 一六五、八八〇	円 六、二〇〇	円 六七五、四二六	円 一、六〇五、二七七	円 三八、四〇七、六四七
同五年	一〇五、〇八三	三七、三五八、二八九	三五、三三七	八、四〇六	三三四、二五六	—	三七、八四一、三六一
同六年	九四、〇〇四	二三、三五八、二四一	二四、九九二	三五三	五六六、四二六	—	二四、〇四四、〇一五
同七年	九三、二三三	二八、八六二、七六八	八三、四六三	二三四	四六二、四五九	一、五七五、二〇六	二九、五〇二、九五三
同八年	六一、七八七	三八、九六三、三一三	三四六、九七〇	—	—	一、九三三、八一〇	四一、三〇四、八八〇

綿織物

最近五ヶ年末に於ける機業戸數、機臺數及職工數を示せば左の如し。

年次	機業戸數	機臺數 力織機 廣巾	機臺數 力織機 小巾	機臺數 手織機	機臺數 計	職工數 男	職工數 女	職工數 計
昭和四年末	三〇三	九、〇七四	二、八九五	一二	一二、〇八〇	二、一二七	七、八三九	九、九六六
同五年末	二九〇	九、七六五	二、〇〇四	一三三	一一、九二二	二、〇六三	六、八〇一	八、八六四
同六年末	二九五	九、八七九	二、〇四五	二七四	一二、一九八	一、六五三	六、七七二	八、四二五
同七年末	二八八	一〇、三三五	二、〇六六	一四一	一二、五四二	一、五五二	六、五〇八	八、〇六〇
同八年末	二九八	一〇、九〇六	三、〇五四	一八五	一四、一四五	一、六五三	七、三五五	九、〇〇七

最近三ヶ年の廣幅綿布產額左の如し。

種別	數量 昭和八年	數量 昭和七年	數量 昭和六年	價額 昭和八年	價額 昭和七年	價額 昭和六年
綾綿布 雲齋	一八、二九五、九四〇	一四、七五五、九四〇	一〇、七六四、五七四	円 四、八四八、三八九	円 三、三三三、一六〇	円 二、一七六、〇八五
綾綿布 其他	六、九七八、九二八	五、四六六、四三八	二、四六五、五八八	一、七八〇、五四八	一、二〇一、四三三	四三三、九六六
綿縮子	—	—	二五、〇〇〇	—	—	四、二五〇
金巾	七五、五一九、八七三	六三、一三五、六三四	五四、三三四、一一五	一〇、四七四、〇五五	七、三三六、〇六三	五、三〇九、〇〇一
粗布	一、〇八六、三三〇	一四、〇〇九、五六〇	一一、三二五、二九〇	三三八、六二一	一、九四八、六二〇	一、三三三、六八〇
天竺木綿	七四、四〇〇	四〇六、八二一	四〇六、八二一	一〇、九一〇	四九、五六八	四九、五六八
綿小倉	四八、三六八、一七三	四〇、〇八五、〇三一	四〇、〇八五、〇三一	一二、六一八、五六〇	八、四三六、六三四	八、四三六、六三四
綿ネル（生地を含む）	一、二〇二、七八一	三七一、九八二	三七一、九八二	二八九、二六二	五四、三五〇	五四、三五〇
綿粗布（生地を含む）	一四、二九〇、四四五	一四、四六七、三五三	一四、四六七、三五三	四、二四五、四八六	二、九七二、五七三	二、九七二、五七三
綿ビロード（コール天を含む）	四、八〇〇	三五三、一四九	三五三、一四九	一、六三三	一三四、四九九	一三四、四九九
其ノ綿白及生平織布	六〇七、一五三	一六九、三六一	一六九、三六一	二〇、五三〇	三七、八八三	三七、八八三

種別	數量 昭和八年	數量 昭和七年	數量 昭和六年	價額 昭和八年	價額 昭和七年	價額 昭和六年
其他 縞木綿及織色	一、一九七、三〇三	—	—	二六八、七四七	—	—
其他 其他	—	—	—	三六二、三六四	—	—
計	—	—	—	三五、一六九、〇〇四	二〇、八二三、四七九	二〇、八二三、四七九

最近三ヶ年の小幅綿布の産額左の如し。

種別	數量 昭和八年	數量 昭和七年	數量 昭和六年	價額 昭和八年	價額 昭和七年	價額 昭和六年
白木綿	二九、〇五〇反	二三、六五八反	三六、一六六反	二〇、五七二円	一六、〇九〇円	一五、五九二円
縞木綿 袴地	一二九、八六〇	四一、一六〇	六九、二八六	一二五、四九四	三三、六四四	七一、〇四三
縞木綿 其他	三六二、五三一	三三一、四五三	三三一、四五四	三〇二、四〇四	二三〇、七四一	二三四、六四六
絣木綿	二三、六五九	二三、八〇六	二五、四五三	四九、〇三五	四三、九二四	六五、一八二
織物木綿	一四九、二八四	二五〇、四六九	二七三、六六三	一一三、六九三	一四五、四三六	一五七、九六五
雲齋	五八五、〇〇三	三六一、八〇三	六八八、三七二	一、〇三〇、一五九	四六七、七一八	八〇一、二五五
蚊帳地	二七、六〇〇	四五一、七四一本	五〇二、二一八本	一一五、九七一	一四八、四七七	一四八、九九四
帶地	二四一、〇〇〇	四七五、一五三	五九三、九四〇	一一六、五一〇	四二、七六四	八九、〇九〇
其他	—	—	—	八八、六六三	三〇三、二七八	六一、六四七
計	—	—	—	一、八六一、四九九	一、四二一、〇七三	一、六四五、四二三

最近三ヶ年特殊綿織物産額左の如し。

種別	數量 昭和八年	數量 昭和七年	數量 昭和六年	價額 昭和八年	價額 昭和七年	價額 昭和六年
腿帶子	五三五、一〇〇打	七八三、七一六打	一〇、四〇七打	二八三、二六三円	五五〇、六三一円	三、六四三円
タオル	八、五三九貫	一九、一一三貫	一〇八、九五八貫	七、八〇九	一五、九九九	五六、〇八一
洋燈芯	三、五九一	一七、一二〇碼	三〇、〇二六碼	一四四、〇三〇	六三、八九四	一〇七、四〇二
テープ類	五二、〇三五、一九五	一〇、三八一、一九〇	一六、五九八、三三八	三九二、六三五	八八、九七九	八二、〇〇三
其他	—	—	—	一、一〇五、〇九三	八五五、七四三	四三九、三五〇
計	—	—	—	一、九三三、八一〇	一、五七五、三〇六	六八八、四七八

絹織物

縣下の養蠶は年次加速度的發展を遂げつゝあるも絹織物の生産は遲々として進まず、現在製造工場の主なるものは津山市浮田商店織布部なりと雖も輓近副業的に絹織物の生産勃興するの傾向あり。

最近三ヶ年の産額を示せば左の如し。

種別	數量 昭和八年	數量 昭和七年	數量 昭和六年	價額 昭和八年	價額 昭和七年	價額 昭和六年
縮緬及壁 大巾	ヤル —	反 五四〇	ヤル —	円 —	円 四、七五三	円 —
縮緬及壁 小巾	一八六反		三二反	一、六七四		一、七三三
羽二重及平絹	三八五	四一九	六五三	三、一九八	三、一一七	四、七五九
銘仙及節着尺	三、三三三	四、一四七	三、三九七	三三、〇一〇	四一、七五五	二四、五〇八
其他着尺	九〇	一七四	二八五	五四〇	一、二二八	一、四四五
袴地	—	三	五	—	三三	五〇
帯地 男物	四五本	四〇〇本	九五本	一三五	一二〇	三五〇
帯地 女物	四〇	四〇〇	四一	一四〇	一六〇	一四四
生絹及白絹 大巾	ヤル —	一、一一五反	三五三ヤル	—	六、二四九	—
生絹及白絹 小巾	一〇、六三四反		—	二四、〇九〇		一、五七〇
其他	—	—	—	—	二四、七五八	三九、四四五
計	—	—	—	六一、五一三	—	九四、〇〇四

絹綿交織物

小幅物は後月郡高屋、出部、西江原地方を主とし帯地は兒島郡琴浦町地方に産するもの多く、最近三ヶ年の産額を擧ぐれば左の如し。

種別	數量 昭和八年	數量 昭和七年	數量 昭和六年	價額 昭和八年	價額 昭和七年	價額 昭和六年
廣幅物	—反	—反	—反	二六、二五六円	一、四八四円	四二六円
小幅物	一〇、九六五	一九、一七七	—	一九、〇八〇	二六、九八〇	一一、九七五
男帯	八七、二三〇本	四九、一三〇本	一〇、九三三本	四二、六〇五	三三、六三七	七、一三八
女帯	七七、四八六	五三、九三五	三三、八五〇	二〇四、七〇三	二〇、三六三	一一、六一八
其他	—	—	一一、一〇〇	五四、三三七	—	二、六五五
計	—	—	—	三四六、九七〇	八二、四六三	四六、六四七

織物の主なる會社工場左の如し。

會社工場名	工場所在地	主なる生産品
倉敷紡績株式會社岡山工場	岡山市北方	金巾、綿糸
鐘淵紡績株式會社岡山工場	同　花畑	廣巾綿布
岡山製織株式會社	同　新道	小倉服地
備前織物株式會社	同　上伊福	大巾、小巾綿布
島田織物株式會社	同　島田	洋燈芯、洋蠟芯
大日本織物株式會社	同　七日市	大巾綿布

惠藤織物工場	倉敷市濱	帆布
倉敷紡績株式會社萬壽工場	倉敷市	綿布
後藤織物工場	御津郡上建部村	雲齋
迫川工業株式會社	兒島郡灘崎村	廣巾綿布
丸高織布工場	同 同	小倉服地
山本織布工場	同 八濱町	廣巾、小巾綿布
日本殖産株式會社	同 同	同
南兒紋織株式會社	同 琴浦町	帶地
尾崎織物株式會社	同 同	小倉服地
清松社	同 同	洋燈芯、テープ
內藤織物株式會社	同 同	腿帶子、厚司
兒島織物株式會社	同 兒島町	小倉服地、學生服
㊄岡野織物工場	同 同	小倉服地
正織株式會社	都窪郡茶屋町	綾木綿、小倉
片山織物工場	淺口郡長尾町	小倉服地
合資會社大島織布工場	小田郡笠岡町	同
大塚織布株式會社	同 同	同

高屋織物株式會社	後月郡高屋町	小倉服地
中村織物工場	同 同	小巾綿布及絹綿交織布
後月織物合資會社	同 同	小倉服地
東森織物合資會社	同 木之子村	同
日本綿布株式會社	同 荏原村	同
中國織物株式會社	同 西江原町	小倉服地及小巾綿布
淺野織物合資會社	同 同	小巾綿布
山陽織物合資會社	同 同	小倉服地
株式會社井原織物所	同 井原町	小倉服地及天竺
井原興業株式會社	同 同	小倉服地
合名會社浮田商店機業部	津山市伏見町	節絹

染物

年次	製造戸數	職工數	染賃
昭和四年	一七三	三三六	絹 八、三三三円 綿 一五〇、九〇三 毛 二、〇三七 其他 一〇一、三五八

同五年	一五五	三五七	二三五、二七五
同六年	一四一	三四五	二七六、六六九
同七年	一三四	二九九	二三四、二八一
同八年	一三四	二七三	二六〇、六九三

晒

年次	製造戸數	職工	粗布 數量	粗布 晒賃	白木綿 數量	白木綿 晒賃	天竺 數量	天竺 晒賃	金巾 數量	金巾 晒賃	綾木綿 數量	綾木綿 晒賃	其他 晒賃
昭和四年	一三	七七	二、五〇〇貫	七五〇	一、三七三貫	三六二	九〇〇貫	二五〇	二五〇貫	七五	一八、〇〇〇貫	八、四〇〇	一五三、五六三
同五年	一三	六八	—	—	一、八八五	三三六	一、二〇〇	三〇〇	—	—	二七、八〇〇	一三、六一三	九七、八三六
同六年	一三	七三	—	—	一〇三	三二	—	—	—	—	一三、九四六	五、五七五	九五、九三三
同七年	一三	六八	—	—	九三	二五	四、一〇〇	五七三	—	—	一五、三六五	五、三七八	八五、六三六
同八年	一二	六八	—	—	六七	二七	三、七五〇	四五〇	—	—	八、一〇三	三、七二七	一〇四、〇四六

(ロ) 生糸

本縣に於ける工場的製糸業は明治七年京都府の島田某なるもの小田郡笠岡村に製糸場を設けたるを始めとす當時同地方の養蠶業不振の爲め廢絶に歸せしも同九年同地の森田佐平

等資本金壹萬圓を投じて同所に製工糸場を起し當時進歩せるケンネル式に倣ひ装置をなし海外輸出を試みたり、同人等は更に同十二年山陽製絲社を創立し地方製糸家を網羅し一手に海外輸出を試みたる爲め名聲内外に聞え近縣より傳習工女を送るに至れり。其後諸所に製糸工場を經營するもの續出し幾多の變遷と盛衰消長を經て今日に至れり。現今製糸工場の主なるものは郡是製糸津山工場（津山市二宮）郡是製糸久世工場（眞庭郡久世町）浮田製絲工場（津山市）三星館製糸工場（上道郡雄神村）鐘淵紡績株式會社勝間田製糸工場（勝田郡勝間田町）作備製絲株式會社岡山工場（岡山市上伊福）久米郡製絲販賣利用組合（久米郡三保村）勝田第一製絲販賣組合（勝田郡植月村）なりとす。

最近の産額を示せば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	一七七	五、一四九	一四六、八二七	一一、八二四、八四九
同五年	一九五	四、七八五	一五九、三三六	八、〇一〇、二三〇
同六年	二二一	五、二三五	一七八、七三三	六、七八三、九七七
同七年	一五九	五、一九八	一八八、八九三	八、一八〇、七三三
同八年	一四六	四、四九八	一八二、〇二九	八、三九一、六九六

前掲以外の主なる會社工場左の如し。

工場名	工場所在地	主なる生産品
萬富生絲販賣組合	赤磐郡萬富村	生絲
尾上製絲工場	小田郡川面村	同
金原製絲工場	後月郡井原町	同
久安製絲株式會社	同　同	同
池田製絲工場	同　同	同
合資會社原田生絲工場	上房郡高梁町	同
備作製絲株式會社作州工場	眞庭郡落合町	同
河内玉繭製絲株式會社	同　河内村	玉絲及眞綿
日東製絲株式會社江見工場	英田郡江見村	生絲

（八）撚糸及絹糸紡績

絹糸紡績は明治三十年三月の起業にして現在の鐘淵紡績株式會社岡山絹糸工場のみなり最近の撚糸及絹糸紡績産額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	一〇九	三、三三一	六〇九、四五九貫	五三四、九四四円
同　五年	五二九	二、二〇三	六二六、六〇六 三、八〇〇斤	四、二六三、五四七
同　六年	二三〇	二、三五七	三五九、九三三貫 三、四一三斤	三、七五四、七五九
同　七年	一六四	二、一二八	三〇一、二七二貫 九〇、八六七疋 三、七〇〇斤	三、九四一、〇八六
同　八年	—	—	四七六、八八九貫 五、三八三斤	五、四八一、四九九

主なる會社工場左の如し。

工場名	所在地	主なる生産品
鐘淵紡績株式會社岡山絹糸工場	岡山市門田	絹糸
片山撚糸合資會社	兒島郡兒島町	綿撚糸
福山撚糸紡績株式會社倉敷支店	倉敷市	同
シンガー製糸合資會社	小田郡笠岡町	カタン糸

(二) 綿糸紡績

明治十二年政府は士族授產金を以て二十錘の紡績機械を英國より購入し綿產地を選びて貸下を促せり、翌年本縣に於ては難波二郞三郞の出願に依り一基を淺口郡玉島町に渾大坊埃二の出願により一基を兒島郡琴浦町に拂下げられ前者を玉島紡績所、後者を下村紡績所と稱す又同年岡山舊藩士授產の爲め池田舊藩士の保護と政府貸付資金とに依り岡山市網ノ濱に二千錘の紡績所を設立せられたり、然れども事創業に屬し厚き政府の保護ありたるも經營困難に陷り輸入綿糸防遏の効を奏するに至らず、其の最大原因は動力に對し錘數少き爲め經費に比し利益少きと技術に不熟練なりしと十年戰役後紙幣の濫發及之が消却に伴ふ紙幣價額の變動並に原綿及糸價の變動甚敷等に起因せるものゝ如し、二十二年十月倉敷紡績の新設あり二十六年より二十八年の間に於て柏崎紡績、笠岡紡績、備前紡績、三十年西大寺紡績、大正四年倉敷紡績萬壽工場、大正五年倉敷紡績早島工場等設立せるものあり、爾後内外の事情變遷により盛衰を免れざりしが歐洲開戰に當り爲替の杜絕、船舶の不足、海上の不安、保險料高率を來したる等に依り對支貿易に一大打擊を與へたるが青島の開城當時より銀塊騰貴の爲め市況を恢復し歐米品の供給杜絕に伴ひ支那、印度方面の需要頓に增加し綿價の騰貴に共に好況を呈したりしが大正九年に至り財界の反動期に入り世界的不景氣の强襲を受け會社の合併等大に行はれたりしが爾後堅實なる發展を遂げつゝあり。

最近の生產額を示せば左の如し。

年次	製造工場數	職工數	數量	價額
昭和四年	二	九、一二〇	五、四一九、八七三貫	三三、三八八、四三四円
同五年	二	六、〇三〇	五、二三〇、三八四	一六、九一四、六七四
同六年	二	六、一八〇	五、〇一九、七九二	一四、九九六、〇八七
同七年	二	六、四八五	五、三六六、五七九	一六、九六八、四五七
同八年	二	六、九九九	五、九一七、〇八〇	二六、二七三、六四三

主なる會社工場左の如し。

工場名	工場所在地	主なる生產品
鐘淵紡績株式會社備前工場	岡山市下石井	綿糸
倉敷紡績株式會社岡山工場	同北方	綿糸並ニ綿布
鐘淵紡績株式會社西大寺工場	上道郡西大寺町	同

近江帆布株式會社味野工場	兒島郡味野町	綿糸並ニ綿布
琴浦紡績株式會社	同　琴浦町	同
倉敷紡績株式會社倉敷工場	倉敷市	綿糸
同　万壽第一工場	同	同
同　万壽第二工場	同	綿糸並ニ綿布
同　玉島工場	淺口郡玉島町	綿糸
株式會社半田綿行紡績部	同　同	同
福島紡績株式會社笠岡工場	小田郡笠岡町	同

（ホ）人造絹糸

本縣に於ける人造絹糸工場は都窪郡中洲村倉敷絹織株式會社工場一あるのみなれども其の規模大にして職工數約二千六百にて生産年次増加し又品質優良なるを以て好評を博せり

C　化學工業

（イ）肥料

輓近販賣肥料需要額は逐年増加したりしが歐洲戰亂中は硫酸安母尼亞、智利硝石等の輸入殆ど杜絶の狀態に在り從て價額騰貴の爲め戰前に比し聊か金肥需要額は減少せしものゝ如くなりしに戰後財界の好況は延て農家經濟を潤澤ならしめ之と同時に食糧充實問題の高唱せらるゝに當り多産多收を期せんとし頓に金肥需要額を増加し大正九年中に於ては二千萬三千八百九十七貫、價額壹千貳百五萬九百九拾八圓に達したり是等肥料の生産地は大阪兵庫、東京、廣島、北海道等大部分を占め全國大會社の製品にして本縣に輸入せざるはなし而して本縣内の製造肥料は兒島郡小串村在大日本人造肥料株式會社岡山工場及小田郡神島外村在神島人造肥料株式會社の二大會社に於ける過燐酸石灰、配合肥料及化成肥料を主とす。最近の取扱高左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	二三	二五	二九、五七一、〇六三貫	五、二〇二、五〇七円
同　五年	二三	―	二九、九三五、〇九三	四、一八四、六三四
同　六年	二六	―	二〇、七八五、一三八	二、六三三、四九七
同　七年	二四	―	二三、八三三、二八三	二、八九一、四五一
同　八年	―	―	二五、二七五、〇三八	三、七七一、七一四

主なる會社工場左の如し。

大日本人造肥料株式會社岡山工場	兒島郡小串村	肥料及硫酸
神島人造肥料株式會社神島工場	小田郡神島外村	同

(ロ) 和紙

本縣製紙の起源に關しては詳細なる記錄の存するものなく漠として詳ならざれども生産地方の古老の言に徵するに作州地方に於ては古く維新前月田(眞庭郡勝山町附近)山北(津山市)に於て津山藩の御用を承り官札紙を製造せしに端を發し其後津山半紙として名聲を得多量の生産を爲したるは明治二十年以後の事に屬せり。之勝田郡廣野村福井の住人小原森太郎なるもの土佐より職工を聘し懇親會なるものを組織し八枚取藁紙を製造するに至り廣く行はるゝに至れり。備中地方に於ける主産地は石蟹鄉、平川、湯野諸町村にして約百五六十年以前より製紙業盛にして地方產純楮皮を原料として優良紙を抄紙せり。備前地方の主產地は和氣郡藤野村及本莊村等にして和氣郡の如きは元祿の交より本縣特產の楮皮を以て製造し現在に至れり。

最近五ヶ年の生產額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價額
昭和四年	九五	三九七	九二一、七五〇円
同　五年	一〇〇	四二〇	八〇七、一八五
同　六年	八八	三九三	五九九、〇一八
同　七年	八八	三七〇	五三八、九九七
同　八年	一〇〇	四一八	六四七、〇九六

主なる會社工場左の如し。

勝山製紙合資會社	眞庭郡勝山町
津山和紙製造株式會社	津山市川崎町

(ハ) 板紙

板紙は岡山製紙、山陽板紙の二株式會社及天城板紙合資會社に依り生產せらる日露戰役後板紙の需要俄然增加し淸國及印度方面の貿易も亦發展を爲したる爲め會社の新設少からず山陽、岡山兩社の新設と共に全國幾多の工場は聯合以外に立ちて盛に市場に競爭を試みたるより市價暴落し危地に陷るものあるに至り四十三年更に販賣聯合を協約し四十四年之を改めて板紙共同販賣所を設け生產を制限し價格を協定し一面海外輸出品に對して奬勵金

を交付し外國品と海外市場に競争するに便せしめ以て生産の調節を保ちつゝあり偶々歐洲戰亂はウッドパルプの輸入杜絶と曹達灰の暴騰に依り多大の影響を受けたるも本縣は幸に曹達灰代用品の利用に依り生産家は少なからざる便益を得爾後益品質の改良販路の擴張をなし其産額全國第二位を占むるに至れり其産額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	三	二九九	一九、四四六	一、八九八、八一九円
同五年	三	二八六	一七、八七四	一、五一四、二五八
同六年	三	二六六	一五、七六六	一、〇〇九、二八〇
同七年	三	二七四	一七、七七五	一、二〇六、六七三
同八年	三	二九八	一七、八四一	一、四一三、三八五

主なる會社左の如し。

岡山製紙株式會社　岡山市福濱　山陽板紙株式會社　上道郡西大寺町
天城板紙合資會社　兒島郡藤戸町

（ニ）染料

本縣に於ける染料は兒島郡琴浦町尾崎染料製造工場の製造に係る硫化染料を主とす最近五ヶ年の産額を示せば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	一	六九	一、五三六、七三一斤	三六三、六八八円
同五年	二	六七	八〇〇、七八〇瓩	二〇八、九三三
同六年	一	六四	一、五一四、一〇〇	三一八、九四六
同七年	一	六七	二、二八二、七〇〇	六九二、六一〇
同八年	一	七四	二、二六二、五二七	六七七、四八八

（ホ）燐寸

燐寸は明治十二年始めて岡山市片瀬町に有恒社なるもの起り製造を開始せしに技術の未熟なると當時一般燧石を以て用を辨したるに依り需要甚だ少く事業萎微として振はざりしが明治十四年政府より參萬貳千九百圓を借受け技術者を雇聘し盛に製造を爲すに至りしが時運の進歩は漸次其の需要を喚起し供給漸く不足を告ぐるに際し兵庫燐寸の移入激増し其の壓迫を受け激甚なる競争を惹起し粗製濫造甚しく前途憂ふべき現象を呈せしかば明治四

十年同業組合を組織し之等の弊風を矯め新販路の開拓に努むるに至りしも現今に於ては豫期の發展を遂ぐるに至らず。

最近五ヶ年の産額を示せば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價格
昭和四年	二	一五四	三〇、七九三斛	二七三、八八七円
同五年	二	一一〇	八、〇〇七	二九二、七〇〇
同六年	二	一二六	八、二六〇	二三四、五〇〇
同七年	二	一六八	四、九七〇、七一八石	一五四、二六三
同八年	二	一七八	七、〇六三、二五三	二三三、二九八

主なる會社工場左の如し。

中外燐寸社　岡山市下石井　明正社　上道郡芳野村

(ヘ) 賣藥

本縣に於ける賣藥の主産地は都窪郡及吉備郡地方にして岡山縣賣藥同業組合事務所は吉備郡總社町に在り。

最近の産額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價格
昭和四年	二七四	四〇六	三一二、六五〇円
同五年	二五五	三九七	四二三、二三四
同六年	二六三	四一六	四〇四、四七〇
同七年	二五四	四一一	三四八、八九五
同八年	二五九	四二三	三四八、三九一

(ト) 護謨製品

本縣に於ける護謨製品の主なるものは運動靴、護謨靴、唐臼、タイヤー等にして岡山市大部分を占め、都窪、兒島郡等之に次ぎ昭和七年五月岡山縣護謨工業組合を組織し着々其の成績を擧げつゝあり。

最近四ヶ年の生産狀況を示せば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價額
昭和五年	三	二六四	一、〇六八、二七九円

同六年	一般製品	一三	四六七	九七、一六三
	運動靴	一〇	四九	一四七、六三五
同七年	一般製品	一四	八〇一	八三五、三二一
	運動靴	八	四七九	三四三、三五六
同八年	一般製品	一六	六二九	一、二九五、五五四
	運動靴	三	三六	四〇五、三八五

一般護謨製品中總ゴム靴約三十一萬足、三十萬七千圓あり。

主なる會社工場左の如し。

會社工場名	所在地	主なる生產品
山陽ゴム製作所	岡山市下石井	運動靴、地下足袋
高原ゴム合資會社	同　新西大寺町	運動靴、草履
釣鐘ゴム株式會社	同　大供	運動靴、地下足袋
昭和ゴム株式會社	同　同	運動靴、地下足袋
太陽足袋株式會社	同　同	運動靴、地下足袋
日進ゴム工業所	同　上石井	運動靴
渡邊穎次郞	同　大工町	ゴム敷物
千里足袋株式會社	兒島郡下津井町	運動靴、地下足袋
安產牌ゴム工業所	同　兒島町	運動靴、地下足袋、支那沓
丸五足袋株式會社	都窪郡茶屋町	運動靴、地下足袋
中國工業株式會社	同　同	ゴム靴、地下足袋

(チ) 陶　磁　器

伊　部　燒

伊部燒は實に我が國に於ける陶器の鼻祖にして備前燒と稱し和氣郡伊部町に產し製品は古雅を以て世に知らる伊部は忌部又は齋部と稱せしが後世伊部と改めたり。其の濫觴は遠く神代に發し終始一貫連綿として繼續し毫も支那朝鮮等の影響を受くることなく能く我が大和民族の氣象精神を顯はし自ら國粹の精華を發揚し我が國風の權化として尊重すべきものにして之を朝廷に奉りしは延喜式、日本紀等に載せられたり後應永年間に至り大窯を築きて盛に製出し天正文祿の頃に至り名工輩出せり、舊藩當時にありては其の保護を受け製造したるを以て優品自ら多く一個千金に値するもの鮮少ならざりしも廢藩後保護を失ひ一時製品著しく低下し舊時の雅趣を存せさるに至りしが其の後有志相謀り備前燒株式會社を組織して製品改善販賣の統一を圖り以て聲價の回復に努めし結果其の技術大に進み舊時の製品を凌駕するの優品を產出するに至り名聲嘖々として全國津々浦々に到る迄備前燒の名

を知らざるものなきに至れり。

畏くも昭和三年十一月御大禮を行はせらるゝや宮內省より大饗宴用瓶子並盃の製作を御下命ありたり、實に本燒の爲め光榮之に過ぎたるはなく爾來生產者は感激措く能はず一層奮勵努力以て此光輝ある歷史を穢さゞらんと日夜精進しつゝあり、現在全國的陶工として知られたるは置物、香爐等の拈物に於て西村春湖、轆轤物にては松田華山、金重陶陽にして本品の特徵は使用するに從ひ愈々益々其の眞價を顯はすものにて到底他品の追隨を許さざる處にして昭和八年中の生產額一五一、〇〇〇圓なり。

伊部土管は強度強く且、耐酸的なるを以て全國に其の名を博し鐵道、土木及下水工事に愛用せられ鐵道省、八幡製鐵所、各府縣市役所、硫酸會社等を始め各所に歡迎せられつゝあり。

酒津燒

酒津燒は都窪郡中洲村酒津に於て製出す明治九年の創業にして一名加武登燒と稱し雅品を製す。種類は花瓶、茶器、盃、湯呑、皿等なり。

大原燒

大原燒は淺口郡里庄村に產出する土器にして竈、茶釜、土鍋等を主とし燈籠等古雅なるものを製出す。

吉備燒

吉備燒は小田郡城見村茂平に產す由來茂平の地は陶土に適するもの多く其の質は備前燒の原土に類し極めて堅く擂鉢、植木鉢及花瓶類を主として產出す。

風月燒

淺口郡長尾町に產し素燒及樂燒の各種茶器、花瓶、菓子器等を主とす。

由來長尾町附近の陶は古來穗北の陶と稱し天智天皇の御宇に僧行基陶ものせしにより陶(スヘ)燒(ヤキ)と名付け製造せしも永祿の頃より杜絕せしが長尾町白神務なるもの之を慨き數年前より苦心の結果再興し風月燒と改稱す其の作品中涼爐の如きは耐火力最も強く素燒土瓶は其の品質硬く水の漏れざるは勿論湯の沸騰最も早く一回の使用にて粘土の臭味を感せず使用すれば赤色の光澤を生じ趣味あるものなり。

金光燒

金光燒は淺口郡金光町に產するものにて高熱度を以て燒成し淡靑色を帶ばしめ高麗燒に

類似せるものにて抹茶器、水指、煎茶器、花瓶、香爐、菓子器等を主とす。

南山燒

南山燒は津山市に產す、現主小池寅治郎氏三代の祖壽亭天保年間京洛より陶工を迎へ津山市の南部に聳ゆる神南備山の麓より陶土を採取し花器及茶器を燒きたるを以て濫觴とす現在生產の主なるものは花器にして頗る風雅に富み高尙にて時代附き易く使用するに從ひ大に雅味を顯はす特徵とす。

本縣陶磁器の產額左の如し。

年次	製造戶數	職工數	價額
昭和四年	八五	一七九	一六五、五六〇円
同五年	七七	一五八	二〇四、〇三三
同六年	七九	一七四	二三七、七四〇
同七年	八二	一七三	二三六、六九四
同八年	七九	二〇八	二七六、六四三

註　土管を除く

（リ）煉瓦

本縣下產出の耐火煉瓦原料たる蠟石は慶長年間の發見なるも其の當時は僅かに印材又は小細工物として製造販賣せられしが明治五年學制頒布後石筆として適當の原料なることを認められ爾來專ら之れに製造せられしが明治十八年巨知部博士地質調査の爲め出張の際當時輸入品に限られたる耐火煉瓦の原料として蠟石及粘土を使用することを語られたるに依り研究したる結果優良原料なることを確めたるに依り三石町加藤忍九郞、土肥恒次郞、武本高太郞等相謀り明治二十三年小規模の工場を設け耐火煉瓦の製造に着手したるを嚆矢とす。

明治二十六年農商務省臨時製鐵事業調査委員會開かるゝや試驗品として提出したるに外國製品に比し第一等の好成績を得當時の農商務省技師高山博士の稱讃を受け本邦工業の發達に伴ひ益々需要增大すべきを以て新式の設備を施し極力發展に努力すべく激勵せられ日淸、日露の兩戰役後我國工業の發達に伴ひ需要頓に增大し明治、大正時代に於ては關東以西の粘土質耐火煉瓦の需要は殆ど三石產原料を以て製造せられたる蠟石煉瓦を以て供給せられ其の品質優良と價格低廉なるに依り關西のみならず東北、北海道、九州、臺灣地方の

市場まで進出し確實なる販路を獲得せり。

昭和六、七年の不況時代に於ても船運賃安を利用し支那、比律賓、南洋方面に輸出せられたるもの相當の額に上り彼地に於て米國、英國產と優に競爭するに至れり。近時一般熱工業の急速なる發達に伴ひ耐火煉瓦の品質も躍進的向上を遂げ高級シャモット煉瓦原料として南滿洲、山東省方面より耐火粘土の輸入を觀るに至りしも尚三石產蠟石は縣下耐火煉瓦の主要原料にして產額實に全國第一位を占む。

普通煉瓦の製造は和氣及苫田郡を主とし岡山、英田、小田、邑久其他の諸郡より產出す。

最近五ヶ年の產額を示せば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	耐火 數量	耐火 價額	普通 數量	普通 價額	共地 數量	共地 價額
昭和四年	三四	五七三	箇 一八、〇六〇、九七八	円 九九一、五九九	箇 六三三、一〇〇	円 一七、四六九	箇 一五九、六〇〇	円 一八、〇七〇
同 五年	四〇	一、一八三	三四、一五三、〇〇九	一、四四四、四四五	一、〇一三、九〇〇	二六、三六〇	二、三三四、六七七	八七、三六一
同 六年	三一	九三七	二八、〇五四、九八〇	一、二六六、二八七	三三三、一〇〇	六、五四一	一、〇四三、四〇九	三三、六一八
同 七年	三六	一、〇八四	三三、四〇六、九二九	二、八六四、四六三	五〇三、四〇〇	九、八五七	一、三五〇、九九〇	四一、五九〇
同 八年	三五	一、三七〇	六一、二八四、八六三	三、三三七、六三四	一、二五九、四〇〇	一六、六三〇	—	—

主なる會社工場左の如し。

會社工場名	工場所在地	主なる生產品
品川白煉瓦株式會社岡山工場	和氣郡伊部町	硅石煉瓦、蠟石煉瓦、シャモット煉瓦、クローム煉瓦
九州耐火煉瓦株式會社伊部工場	同 同	シャモット煉瓦、蠟石煉瓦
帝國窯業株式會社	同 同	同
明治窯業所	同 片上町	蠟石煉瓦
三石耐火煉瓦株式會社	同 三石町	シャモット煉瓦、蠟石煉瓦
三石高級煉瓦會社	同 同	同
三石耐火工業所	同 同	耐火煉瓦
太田耐火煉瓦合資會社	同 同	同

(ヌ) 瓦

昭和二年中に於ける本縣瓦の產額は千二百九十九萬五千餘箇、八拾貳萬參千八百八拾參圓にして之が主產地は兒島、赤磐、和氣、岡山及御津の諸郡市にして川上、久米郡等之に次ぐ。最近五ヶ年の生產額を擧ぐれば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	金額
昭和四年	四〇八	一、三三八	屋根用平瓦 一一、八五七、一三七 其他 —	五三九、四四九円 二六〇、八五五
同五年	三九一	一、一四八	—	五六一、七九九
同六年	三八七	一、一八三	屋根用平瓦 一一、八七三、四四〇	五〇一、六六八
同七年	三六一	一、〇九七	屋根用平瓦 一一、一八三、七六八 其他 —	三九四、〇七四 九〇、九七〇
同八年	三五九	一、一五〇	屋根用 三、四〇四、八六三 其他 —	四二一、三四三 一〇三、九九七

主なる工場

宇野耐火煉瓦株式會社　兒島郡宇野町　硬質瓦

（ル）土管

土管は和氣郡全産額の八割以上を占め其の他郡部の數ヶ所に於て製造し鐵道、耕地整理用其の他建築材料として賞用せらる。

最近五ヶ年の生産額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	一一	五三	三七三、三七八	二二四、八三九円
同五年	一〇	五九	二七三、二二五	九八、〇五五
同六年	一〇	八〇	二四三、一二七	七七、五八〇
同七年	九	六三	六三二、〇四六	九四、九二七
同八年	—	—	三八七、五七二	二九〇、二三七

（オ）珪藻土

本縣に於ける珪藻土は眞庭郡八束村及川上村全般に亘り埋藏量無盡藏と稱せられ精糖濾過用として其の品質殊に良好にて昭和八年中の製造戸數二、職工數六三、年數額四九五、八〇三瓲、價額一九一、四六〇圓なり。

主なる工場左の如し。

眞庭郡八束村　喜田商店鑛業部

眞庭郡川上村　日本珪藻華株式會社

（ワ）其他

製氷　岡山、下津井、津山、井原等の諸市町にて昭和八年に於ける製造戸數二六

職工七六　産額五、二八二、一二三貫　二六六、八五一圓

セメント　阿哲郡美穀村に小野田セメント株式會社阿哲工場、岡山市平井に吉川セメント株式會社あり。昭和八年に於ける職工二六九　數量三八、〇〇〇樽七、二〇〇罐、七六、六九〇瓩　價額一、六三七、九六五圓なり。

石灰　和氣郡三石町に產し昭和八年度に於ける製造工場一三　職工五六　産額八九九、三五〇貫　四九、一二七圓

辨柄　川上郡吹屋町、赤磐郡及和氣郡の一部にして昭和八年度に於ける製造工場一〇　職工數六三　産額六二、〇七六貫　八一、九〇五圓

石粉　和氣郡三石町に產し昭和八年度の製造戸數一〇　職工八一　産額五、九四四、九〇六貫　一五五、三三七圓

クリンカー　和氣郡伊部町に產す現在其產額多からずと雖も將來に於ては益々增加するの見込あり。

クレー　蠟石クレーは本縣の特產にして昭和五年の生產三、三一三、〇〇〇貫　二三〇、三四〇圓

主なる會社工場左の如し。

岡山製氷株式會社	岡山市大供	製氷
旭製氷株式會社	同　天瀬	同
大日本製氷株式會社岡山工場	同　内山下	同
合資會社石井製氷所	同　大供	同
吉備工業株式會社	赤磐郡竹枝村	辨柄綠礬
田村辨柄工場	川上郡吹屋町	辨柄
野崎クレー工場	和氣郡英保村	クレー
室谷クレー第二工場	同　同	同
三石クレー製造所	同　三石町	同

D　機械器具工業

(イ)　造船

本縣下に於ける造船所は兒島郡日比町在三井物產株式會社造船部玉工場規模最も大きく其の他は邑久、兒島郡等に小規模のもの數多散在せり。

最近五ヶ年の產額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	汽船 數量	汽船 價額	發動機船 數量	發動機船 價額	其他船舶 數量	其他船舶 價額
昭和四年	七九	二、五八五	三三	三、七五三、一五三	一八	七六、五〇〇	三九一	一八一、七三〇
同五年	七八	二、四三一	三三	三、七三五、一五三	二五	四九、五〇〇	四三一	一三八、五四三
同六年	七七	二、九三五	一一	三、〇三七、八三四	三四	四九、一〇〇	四七七	一三五、三三〇
同七年	八〇	二、〇〇三	一六	二、八七〇、九九九	二六	四八、一五〇	四三五	一二六、四〇五
同八年	八六	二、五〇八	—	一、四八九、三二六	四三	一〇八、五七七	四一三	一三四、八七八

主なる會社左の如し。

岡山造船所	邑久郡牛窓町	造船並修理
三井物產株式會社造船部玉工場	兒島郡日比町	造船機械製造及修理

（ロ）車輪

最近五ヶ年の產額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	五五	一三四	一、五五七台	五〇、六〇六円
同五年	五四	一一五	一六、三七六	—
同六年	五五	九九	一、一四六	三一、〇五六
同七年	五五	一〇〇	一、八四三	二八、〇七一
同八年	五六	一〇〇	一、七九一	二七、三四九

（ハ）鐵工器具機械

最近五ヶ年の產額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價額
昭和四年	二七一	八六九	九九一、三八一円
同五年	二八四	二、九八三	三、四五六、八〇四
同六年	三三七	三、六八五	二、一九三、八六九
同七年	三三六	二、六四一	一、九九八、七八五
同八年	三六一	三、三三三	三、四四六、九三三

主なる會社工場左の如し。

會社工場名	工場所在地	主なる生產品
岡山喞筒合資會社	岡山市天瀬	ポンプ

關西自動車商會	岡山市上伊福	自動車々臺製造自動車修理
合資會社佐藤農具製作所	同　下石井	ゴム唐臼
岩下鐵工所	同　同	精米機、發動機
深井鐵工所	同　同	發動機
合資會社吉田鐵工所	同　同	同
松島鐵工所	同　大供	紡績機械
株式會社中田農具製作所	同　湊	改良農具及鑄物
日生造船所	和氣郡日生町	發動機
合資會社牛窓鐵工所	邑久郡牛窓町	發動機の製造並修理
吉備鑄物株式會社	吉備郡阿曾村	鍋、釜、風呂

(ニ)　内燃機關（石油發動機）

本縣に於ける發動機は農業用として既に大正九年より利用せられ爾來諸作業の機械化は急速の進展を遂げ昭和六年五月末に於ける農業用石油發動機使用數九、三〇三臺を示し全國に其の首位を占むるに至れり。工業組合の設立は昭和八年十二月なり。

最近五ヶ年間の産額を示せば左の如し。（昭和四、五、六、七年ハ岡山縣內燃機關工業組合昭和八年度ハ縣統計課調査）

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	—	—	一三、九九五台	二、九一九、八五〇円
同　五年	—	—	一三、一〇六	二、六九二、二八五
同　六年	—	—	一〇、三一四	二、〇八九、一三〇
同　七年	六三	—	一三、三七〇	二、四〇六、九〇〇
同　八年	三三	二八六	六、四〇〇	七七三、七〇五

主なる工場左の如し。

工場名	所在地	工場名	所在地
岩下岩太郎工場	岡山市下石井九	馬場常二工場	岡山市島田三四八
勝矢定工場	同　市下石井一四五	金光鐵工所	同　市内山下七〇
松本鶴造工場	同　市下石井二〇四	佐藤庄次郎	同　市内山下二四
金光誠一工場	同　市下石井二八六	掛新一郎工場	同　市大雲寺町五一

E　飲食工業

(イ)　清酒

往時に於ける本縣の清酒は色澤濃厚香味劣悪のもの多かりしが嗜好の向上に伴ひ灘酒の

移入を增加し日清戰後に於て殊に其の傾向甚しからんとするに至りたるを以て釀法改良の急を認め縣內各地に於て每年清酒品評會を催し酒造杜氏の淵叢地たる淺口郡に於ては岡山縣酒造組合聯合會主催を以て每年一回杜氏の爲に講習會を開き五ヶ年にして試驗檢定の上卒業證書を授與す。每年千名以上の受講者あり斯くして學理を授け之を實地に應用して品質の改良に努力せしに其の効果顯著にして明治四十年頃に至りては灘酒に比し遜色なきのみならず一日兵庫縣に移出せしもの灘酒として再び本縣に逆輸するの奇觀を呈するに至り、全國各地の品評會に於ては常に優等賞を獲得し現今に至りては全國中優位を占むるに至れり。

而して本縣清酒の主產地は淺口、兒島、赤磐、邑久、苫田、久米、岡山、吉備、都窪、眞庭等の諸郡市にして販路は阪神、九州、香川、愛媛、東京、廣島、名古屋、鳥取縣方面なりとす。

最近五ヶ年の產額左の如し。

年次	單位	數量	價額
昭和四年	石	一五九、六八四	一三、五九七、四七七円
同　五年	同	一四六、三九三	一二、一四九、六一五
同　六年	同	一三〇、〇六四	九、八九三、三七九
同　七年	同	一三〇、四八五	八、八三二、五二九
同　八年	同	一四〇、五三三	一〇、七三六、四四一

主なる會社工場

工場名	工場所在地	主なる生產品
岡山酒造株式會社	岡山市兒島町	清酒
福岡酒造場	同　弓之町	同
花房酒造場	赤磐郡西山村	同
白蘭酒造株式會社	和氣郡和氣町	同
若林酒造場	兒島郡灘崎村	同
神露酒造合資會社	淺口郡金光町	同
吉備酒造合名會社	後月郡木之子村	同
角野酒造工場	吉備郡池田村	同

(ロ)　醤油、酢、味醂、燒酎、味噌

由來本縣は麥、大豆の生產豐富なるを以て醬油釀造業は夙に盛にして其の質亦優良にして備前醬油の名の下に古來京阪地方に歡迎せられ販賣額も年々數萬樽に上りしが近時販路の益々擴張するに伴ひ品質に於ても亦大に改良の必要を認め大正元年九月同業組合を組織し又釀造試驗場を附設し一面種麴の頒布を行ひ技師を置きて實地指導の任に當らしむる等極力發達に努めつゝあり而して之れが主要產地は兒島、淺口、後月、岡山、邑久、上道、都窪の諸郡にして最近五ヶ年の產額左の如し。

醬油

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	五一九	九四一	八八、三四三石	三、三三四、七二九円
同五年	五〇三	一、二五四	一一八、三九二	三、六二九、一〇九
同六年	五一〇	一、二五三	一一三、八二四	三、〇六〇、七六二
同七年	五〇〇	一、二五四	一〇九、三〇〇	三、〇七六、六〇七
同八年	五〇一	一、二八九	一〇五、八二五	二、七七九、〇三九

主なる會社工場

九十醬油株式會社	邑久郡鶴山村	近藤醬油釀造場	兒島郡鋒立村
合資會社藤澤商店	兒島郡甲浦村	三宅醬油株式會社	都窪郡中洲村
瀧本本店	後月郡井原町	渡邊醬油株式會社	後月郡井原町

酢

本縣下各郡市之を製造せざる處なきも其の過半は岡山市にして邑久、淺口、兒島、上房吉備郡等之に次ぐ。

大正十四年四月縣下一圓を區域とする同業組合準則に據る岡山縣造酢組合を設立し品質の向上商取引の弊害除去に努めつゝあり。

最近五ヶ年の生產額を示せば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	七七	一六九	一六、六一七石	三八二、六七七円
同五年	七六	一六八	一七、四三三	三四二、六七一
同六年	七八	一八三	一六、一二八	三〇〇、五一九
同七年	八三	一七九	一四、四九九	二八二、〇四七
同八年	八四	二三五	一四、五七六	二八三、〇三〇

味醂

年次	數量	價額
昭和四年	一、八九三石	三一、五九〇円
同五年	二、〇六四	一七九、五七〇
同六年	一、七七〇	一八〇、〇〇一
同七年	一、七五五	一五六、三三九
同八年	二、五九六	二三五、七八〇

燒酎

上道郡及岡山市に於て全生產の約半を產出す。

年次	數量	價額
昭和四年	三、四三六石	三三八、三四一円
同五年	二、一五〇	一九九、三九七
同六年	二、一八六	二〇九、四八一
同七年	二、四五四	二四一、五四〇
同八年	二、八二一	二九〇、五七六

味噌

主なる味噌製造者は岡山市兒島町鳥山丈太郎、淺口郡玉島町玉島味噌醬油會社、津山市今町青野京太郎なりとす。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	九五	一九四	三三七、一三八石	二〇四、八六三円
同五年	一二九	二四五	三二一、六五五	一八〇、一五七
同六年	一二八	二二一	二九五、五〇七	一四七、五七九
同七年	一三九	二四五	三二六、九三〇	一五八、四三三
同八年	一三九	二四六	二七七、一一九	一六三、〇三〇

(ハ) 機械製麥粉

本縣下に於ける機械製麥粉工場の大なるものは日清製粉株式會社岡山工場にして其の他淺口、小田、吉備郡地方の素麪、饂飩の生產地々方に於て小規模に製造せるもの數多あり。

最近五ヶ年の產額を示せば左の如し。

年次	製造戸數	數量	價額
昭和四年	二七	四三、五八三、八四三瓩	四、二九八、九二四円
同五年	—	二九、六五七、五一六斤	二、四二三、九二一
同六年	二四八	四一、八九三、一〇五	二、五五七、三六〇
同七年	二四七	三八、三七八、八五一	二、八九三、九七四
同八年	二五三	三七、四九八、三一六	三、五二八、七二四

主なる會社工場

日清製粉株式會社岡山工場　岡山市下石井

(二) 菓子類

本縣に於ける菓子中最も人口に膾炙せるものは吉備團子、調布、初雪、鶴の玉子、米の成木、柚餅子、朝日羊羹、初音羊羹、養老糖等にして就中吉備團子は滋味佳香貯藏久しきに耐へ年産額貳拾萬圓に達し、初雪は甘味淡白にして上品なるを以て土産品として普く天下に知らる。近時菓子同業者間に岡山市を區域とする同業組合準則岡山菓子業組合を組織し嗜好の變遷、衛生上に關する事項を探究し專ら時代の進運に適應する樣努め居れり。

最近の産額左の如し。

菓子類

年次	製造戸數	職工數	價額
昭和四年	八二一	一、六九三	二、三三一、四九〇円
同五年	八五六	一、七五三	二、〇七六、八五七
同六年	八八五	一、八八二	二、〇〇三、一六四
同七年	八七六	一、八六九	一、八〇六、〇五三
同八年	九〇五	一、九二三	二、〇一四、四六〇

飴

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	二四	七六	八五七、九三三貫	五六一、〇五〇円
同五年	三三	六四	七二六、七五四	四一四、五三三
同六年	四一	八二	七三〇、〇〇五	三〇〇、二四五
同七年	四六	一〇三	一、一〇一、四七〇	六一一、五六九
同八年	四七	九六	七〇三、七〇七	四一〇、五三〇

岡山市の生産其半を占め淺口、兒島、都窪の諸郡之に次ぐ。最近五ヶ年の産額左の如し

年次	製造戸數	職工數	價額
昭和四年	一三五	二七五	三三〇、九九二円
同五年	一三五	二七四	二六八、八七一
同六年	一六〇	三三四	二二六、四四〇
同七年	一四四	三一八	二三一、〇一九
同八年	一四〇	三一四	二七六、六八八

（ホ）素麵及乾饂飩

素麵、乾饂飩は縣内各地に於て產出するも其の最も生産額の多きものは素麵に在りては淺口郡にして之に亞ぐものを小田郡とす、乾饂飩に在りては淺口、吉備兩郡を最とし小田、後月、川上、勝田、苫田の諸郡之に亞ぐ其の種類は器械製手延製の二種にして其の産額は本邦第二位を占むる狀態にあり明治三十二年備中國を地區とせる同業組合を設置し品質の改良販路の擴張に努め著しく進歩發展を遂げ需要も年次增加し生産力に於ても手延製なりしを機械の發明に依り製造能力を倍徙し却て生産費を減せるに至れり然れども優良品は依然手延に依らざるべからざるが如し、昭和八年八月中備素麵工業組合を設立し一層製品の改善と販路擴張に力を盡し其の需要漸次增加せり之が販路の主たるものは關西、九州、四國、山陰、北陸、北海道地方にして最近五ヶ年の產額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	單位	素麵 數量	素麵 價額	干饂飩 數量	干饂飩 價額
昭和四年	五六五	一、九五三	貫	一、〇〇〇、五三八	八四五、五一三円	七六八、九一三	五三三、一六五円
同五年	五四四	一、六三五	同	八四七、五〇一	五四三、四七四	七九四、三三三	四一〇、五〇七
同六年	五七五	一、四四〇	同	一、〇〇一、七一一	五五四、〇三九	七六三、六二四	三三九、一四三
同七年	五四四	一、四一三	同	九六九、六一八	五七四、八〇七	六八六、七〇七	三四三、六四〇
同八年	五〇〇	一、三四九	同	七六八、五九二	五三三、三一五	六九六、一九九	四〇六、三三三

（ヘ）清涼飲料水

本縣に於ける清涼飲料水としてはラムネ、サイダー、蜜柑水等にして岡山市及び和氣郡を主産地とし其の他各郡に生産せらる。昭和八年工業組合を組織し品質の改善需給の調節を圖り居れり。

最近五ヶ年の生産額を示せば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	サイダー 數量	サイダー 價額	ラムネ 數量	ラムネ 價額	蜜柑水 數量	蜜柑水 價額	其他 數量	其他 價額
昭和四年	一四六	六二三	一三四、五〇〇打	一四三、〇五三円	一、一一三、六四〇打	三六九、八五三円	一九三、四九四打	四三、五八三円	四三七、六四七打	一六〇、二〇六円
同五年	一四一	五三六	一〇一、〇四〇	一一九、八六五	九〇八、五五〇	二八九、三四三	一八七、六〇〇	四一、五八二	三六八、七九二	一二九、〇五七
同六年	一三五	四八三	九一、三六三	八〇、四五八	七七六、八三三	二三三、八五〇	一五六、〇三三	三三、一五六	四一六、三三七	一〇五、三七二
同七年	一三五	四二一	七七、七四六	七五、九七八	六一九、三七〇	一八六、七五三	一三四、七三〇	二五、五〇七	二六八、一七五打 四三、八六五立	八一、三三七
同八年	一二四	四一〇	一〇一、二六六	一三一、〇四三	六五三、〇三〇	二二七、四八七	一二七、三三五	二六、六二四	四五三、〇三〇打 三七、五七〇立	一五三、七九〇

主なる會社工場左の如し。

山陽ラムネ合資會社　岡山市天瀬　ラムネ及サイダー

（ト）果物

本縣の果樹園藝は兩備の南部に發達せり其の起原は備中足守藩主にして文久年間上州前橋地方に人を派し梨樹栽培方法を傳習せしめ吉備郡大井村外數ヶ村へ六町歩の梨園を創設せり偶々維新の變革に遭遇し廢園に歸したるも其の梨樹を領內希望者へ分與せしを以て其の遺傳せる赤龍種漸次傳播せり明治十一年小田郡今井村渡邊淳一郎、山腹丘陵の荒蕪地利用の目的にて桃李の栽培に着手し御津郡野谷村に於ては大森熊太郎、山内善男等葡萄栽培を創むるあり當時に在りては果樹栽培業は冒險を以て目せられたりしも世運の推移は漸く果物の需要を促し赤磐郡可眞村小山益太、小田郡新山村長尾圓澄等亦熱心に肥培の方法を研究し販路の開拓に力を致し年と共に長足の進歩を遂ぐ明治四十四年果物同業組合を設立し栽培の指導、種類の改良、販路の擴張を圖り漸次堅實の發達を來し現今に於ては全國中本縣を以て果樹園藝地として推稱せられ販路は遠く臺灣、北海道に至る迄最近は南洋群島と取引するに至れり而して其の年産額は六百萬貫に垂とす。

其の種類左の如し。

桃

桃は品質産額共に全國に於て第一位を占め品種は魁、アムスデンジユン、天津、東雲、離核、土用、上海、白桃三號十一號等にして時に新種を出せり。

梨

梨の栽培は一時長足の進歩を見たるも明治三十年前後に於て赤星病の被害劇甚の爲め一

大頓挫を來たせしが豫防法の研究に依り復活の機運に會せり品種は獨乙、長十郎、二十世紀早生赤、晩三吉、赤龍等なり殊に晩三吉、赤龍は貯藏に堪へ二十世紀は原産地たる千葉を淩駕せり特に近時西洋梨の栽培著しく增加し優品を出すこと亦少からず現今に於て全國中第一位を占むるに至る品種はダンクレーム、ハードレツト、オリエンタルキーハー等とす。

葡萄

葡萄は最初釀酒の目的を以て歐洲種を栽培せしも殆んど失敗に終れり然れ共一方生果の需要多きを致せるを以て栽培漸く增加し明治三十年前後より栽培容易にして而も品質優良なる米國種の輸入により益々之れを栽培するもの多きに至る又明治二十年頃御津郡野谷村山内善男等葡萄玻璃室栽培を試み其の結果良好にして需要亦多きを加へたるを以て之に倣ふて栽培するもの多く目下露地栽培の主なる品種はカトーバ、キヤンベルスアリー、ナイヤガラ、甲州種等にして玻璃室栽培の品種はブラツクハンブルク、マスカツト、オブアレキサンドリヤ等なり。

柿

柿は古來より邸內又は田畑の畦畔等に自然の生育に委せられたるもの多く西條柿は到る所良品を產す新品種富有柿、御所柿、横野柿は最も阪神地方に歡迎せらる最近東京方面にては本場の岐阜を壓倒するに至れり。

苹果

苹果は一時栽培者多かりしも綿虫猖獗にして之が驅除に要する藥品、勞銀等騰貴の爲め著しく栽培を減せりと雖も最近植込をなすもの尠からず。

柑橘

柑橘は南部沿海地方に栽培せらる種類は温州、ネーブル等なり。

無花果、枇杷

無花果、枇杷は共に產額多からざるも年を逐ふて增加の傾向を呈せり而して無花果の如きは乾果加工をなし販路亦有望視せり。

昭和八年中の產額左の如し。

品種名	數量	價格	主產地	販路
桃	一、三四一、九九九貫	三八一、八二四円	御津、赤磐、小田、淺口、後月、吉備郡	東京、京都、大阪、神戸、姫路、名古屋、北陸、山陰地方

和梨	一、二四三、八七六	四二八、九八四	赤磐、上道、小田、淺口、兒島、邑久、和氣郡	東京、大阪、神戶、姬路、明石廣島、山口、福岡縣、南洋方面
洋梨	三六、九二九	一六、一五三	赤磐、上道郡	東京、橫濱、大阪、神戶地方
葡萄	×一、四〇九、〇一〇 二六、一七四	×四三七、八一八 八七、〇二六	御津、赤磐、上道、淺口、邑久郡	神戶、姬路、明石、下關、九州地方
蜜柑	二三三、八六五	六三、九六八	淺口、兒島郡	神戶、姬路地方
苹果	一五、三四五	一一、六七八	赤磐、兒島郡	東京、大阪、神戶地方
枇杷	一〇三、二九七	三六、一九四	淺口、兒島郡	大阪、神戶、北陸、山陰地方
生柿	二、四六五、四六三	六〇三、〇六五	御津、赤磐、淺口、小田、久米苫田、勝田、英田、眞庭郡	京都、大阪、神戶、姬路地方
無花果	二〇三、四六三	四九、九四三	御津郡	大阪、神戶、下關地方
合計	六、九五七、四一〇	二、一一六、六五一		

註 ×印は玻璃室栽培のもの

（チ） 其の他生産額左の如し

罐詰

蔬菜類及果實を主とし岡山市大部分を占め其の産額二十二萬四千餘貫に達し逐年發展しつゝあり。

年次	製造戶數	數量	價額
昭和四年	二〇	三二四、四五八貫	二八五、八八三円
同五年	一四	一三七、四一五	一八三、九〇九
同六年	一四	九〇、八〇九	一五六、〇四五
同七年	一三	一七六、八八一	二九一、四九六
同八年	一三	二二四、九七三	三三八、七八九

主なる會社工場

大黑屋罐詰所	岡山市上伊福	渡邊罐詰工場	小田郡矢掛町
岡本罐詰製造所	同　森下町	松森罐詰工場	同　同
下芳賀農家組合	御津郡馬屋下村芳賀（桃罐詰）		

乳製品

昭和四年に於ては煉乳殆ど九割を占め四二三、二四〇斤、一四五、八五六圓其の他はバターにして小田郡今井村なる山陽煉乳株式會社工場の生産にかゝるものを主とす。

年次	數量		價額
昭和四年		四三五、〇二九斤	一六一、九九〇円
同五年	煉乳	六七三、七六八	一七二、二〇一
	バター	四三、一四三	四六、二九九
	其他	三、五四一	三九五
同六年	煉乳	三五七、一四〇	五四、〇四三
	バター	一三、八八三	八、四九四
同七年	煉乳	二四七、一七〇	八四、二〇〇
	バター	二、九五五	二、六〇九
	其他	—	—
同八年	煉乳	六五六、一三三	二三五、六四六
	バター	六、三三九	五、八八四
	其他	—	—

F　雜工業

（イ）小倉學生服

本縣に於ける學生服製造は兒島郡琴浦町角南周一を以て嚆矢とす、由來兒島、都窪郡地方は足袋の製造盛なりしが今や漸く衰勢を辿らんとする時に當り之に代つて本品の製造隆

昌を極むるに至れり角南氏の創始したるものは稍高等服なりしが昭和元年頃同町松原愼一簡單服と稱し現在の型を考案してより生產額頓に增加せり。本縣は往時より綿小倉の生產額全國第一位を占め殊に品質優良にして名實共に全國に冠たり故に本品製造上多大の便益あり、時代の推移に伴ひ需要著增するに至りしかば昭和七年十月兒島郡內學生服製造業者は備前織物同業組合に加入し使用生地及び規格の標準を定め檢査員をして嚴格なる檢査を斷行し品質の向上と販路擴張に努めつゝありて今や本品の販路は內地は勿論朝鮮、滿洲、支那に及び斷然全國の首位を占め居れり。

最近五ヶ年の生產額を示せば左の如し。（商工課調查）

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和五年	—	—	三、三四八、三八二着	二、八八〇、六一三円
同六年	—	—	四、〇三六、六七九	三、一三四、五六三
同七年	—	—	六、三六一、六九七	五、一九三、八〇九
同八年	二八	五二〇	三、五〇〇、〇〇〇	一、八八五、〇〇〇
同九年	—	—	一〇、九〇五、〇〇〇	九、八〇七、〇〇〇

主なる會社工場左の如し。

備前小倉織株式會社	岡山市桶屋町	兒島織物株式會社	兒島郡兒島町
西原本店	兒島郡兒島町	日本被服株式會社	同 郡琴浦町
尾崎商事株式會社	同 郡琴浦町	尾崎織物株式會社	同 郡同 町
山本藤四郎工場	同 郡八濱町	帝國足袋株式會社	同 郡八濱町
備前物產株式會社	同 郡莊内村		

(ロ) 足袋

本縣足袋の起源は約三百年の昔に在りて品質の堅牢と價額の低廉なるとを以て其の名聞わしが之が原因を窺ふに本縣には其の原料たる雲齋の製織多かりしに起因せり而して生產品の販路擴張に關しては孜々として怠ることなく交通未だ開けざりし時代より西は九州、東は關東方面に至る迄進展せしが交通の便開くるや彌々其の販路を擴張し從つて其の生產額も益々增加し本縣重要物產の一に列するに至れり。茲に於てか明治四十一年八月岡山市及兒島、上道、邑久、御津、都窪、淺口、吉備諸郡を區域とせる岡山縣足袋同業組合を組織し製品の檢査を勵行し本縣足袋をして一層其の聲價を博するに至れるが之が徹底を期する爲め地下足袋は昭和七年岡山縣護謨工業組合を普通足袋は昭和九年三月岡山縣足袋工業組合を組織するに至れり。

地下足袋は最初雲齋の厚底を付し又は糸を三組にして麻裏の如きものとなしたりしが大正六、七年頃より一般に護謨底を使用するに至り其の需要逐年增加するに至れり、昭和八年中地下足袋の生產高二百八十萬足、百六拾參萬圓に達す。

而して本縣足袋の主なる產地は兒島、都窪、岡山、淺口、吉備の諸郡市なりとす。

最近五ヶ年間の產額左の如し。(普通足袋、地下足袋を含む)

年次	製造戶數	職工數	數量(足)	價額(円)
昭和四年	二〇〇	一、八〇四	一七、一二四、六八〇	六、六八四、二〇六
同 五年	一三九	一、八一九	一〇、六五七、八六〇	三、六一〇、八一五
同 六年	一二五	一、三三二	一〇、三七九、五六三	二、六三八、六八八
同 七年	一一三	二、一三八	一〇、二四七、一〇一	二、九五三、九八九
同 八年	一〇五	一、九九八	一一、七九三、三〇四	三、四八七、二七四

主なる會社工場

工場名	工場所在地	主製品	工場名	工場所在地	主製品
太陽足袋株式會社	岡山市大供	運動靴地下足袋	釣鐘ゴム株式會社	岡山市大供	運動靴地下足袋
千里足袋株式會社	兒島郡下津井町	同	帝國足袋株式會社	兒島郡八濱町	普通足袋

山高足袋株式會社	同	同	普通足袋
木村株式會社	都窪郡茶屋町	同	
いしや足袋株式會社	淺口郡船穗村	同	
丸五足袋株式會社	都窪郡茶屋町	地下足袋運動靴	
小野足袋工場	淺口郡船穗村	普通足袋	

(ハ) 紙布及同製品

大正四年四月梶並良次津山市上之町に於て美作特産三椏和紙を使用して紙布原料たる線條製造に着手し爾來水糊引同原料よりコロヂオム塗料引原料へと進み工場をも擴張し製品の改良に盡しつゝありし折柄大正十一年頃より右原料を經緯として紙布を製織し見本を歐米に送付せしに毎年海外よりの注文數を増し同十五年頃より旺盛となりたれば更に改善を加へ紋織ジャカード機を据付け多數の紋織高級品を輸出するに及び此の紙布を昭美織と稱し津山特産品の一となるに至れり、又都窪郡早島町地方に於ては大正十三四年頃見本的に三四反宛の注文ありしかば津山市より原料を購入製造したりしが昭和二年六月突如として米國より婦人靴、手提鞄、帽子用等として大量註文あり引續き需要多かりしかば昭和三年紙布原料生産を目的として中國線條株式會社を設立し盛に製出しつゝあり。

紙布製品としては帽子、手提鞄、婦人用草履、煙草入等として年次需要増加せり。

最近の紙布生産高を示せば左の如し。（商工水産課調）

年次	數量	價額
昭和五年	八、三八八貫 三九、一〇〇打 二、五三五反	二三〇、〇三一円
同六年	五、〇三五貫 四三、八九三打 三、三三三反	一八〇、七〇三
同七年	五、三七三貫 六四、一四〇打 三、三九〇反	二〇三、二〇四
同八年	—貫 —打 —反	—

主なる製造者左の如し。

梶村良次	津山市上之町	太田廣吉	都窪郡早島町
溝手正夫	都窪郡早島町	三谷博保	同郡同町
栗坂實二	同郡同町	山崎信太郎	同郡同町

縄、叺、蓆は農家に於て自家用又は販賣用として農閑期を利用し製造するものにして兒島及上道郡最も盛なり而して之が原料たる藁は米作の副産物なるが故に牛馬の飼料及肥料に使用したる餘剰は全部藁工品の原料に用ひらるゝを以て製造上至大の便利あり現今盛に製造せらるゝ之等のものは農家婦女子の手に依るもの相當あり、最近の産額左の如し。

(ニ) 藁製品

年次	製造戸數	價額
昭和四年	二、一六〇	七三三、一六二円
同五年	三、三二五	五四七、五三二
同六年	二、一九九	四五一、〇九九
同七年	二、五〇七	四五〇、六一七
同八年	—	五〇九、一一六

(ホ) 竹製品（傘を含む）

竹製品の主なるものは花生籠、玩具、マフゴ、飯籠其の他の竹細工品にして津山、赤磐、御津、吉備の市郡を其の主産地とす。就中玩具は最近津山市、赤磐郡鳥取上村、淺口郡玉島町等に著しく發達し海外に輸出せらるゝ額少からざるに至れり。

最近の産額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價額
昭和四年	六四七	八九〇	一五五、八〇四円
同五年	六五三	九〇三	一三〇、九九九
同六年	六七三	九四三	一三三、一四六
同七年	六七一	九三三	一三一、九一七
同八年	七一三	九八四	一三〇、九二三

本縣に於ける傘の生産は津山市を主とし上房郡有漢村之に次ぐ其の産額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價額
昭和四年	四八七	六四三	一七、八七三円
同五年	四六八	六〇六	一七、二〇五
同六年	四五〇	五九三	一八、八八四
同七年	四五三	六〇〇	一三、九六六

同　八年	四五	五三	一〇五、一八七

(ヘ) 杞柳製品

杞柳製品の主なるものは柳織鞄にして津山市日本柳織株式會社に於て製造せる亞鉛椽柳織旅行鞄は構造堅牢携帶に便なるを以て使用者の好評を博するに至れり。最近の產額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價格
昭和四年	三	一七	二〇、六一七円
同　五年	二	一四	八、三〇三
同　六年	三	一三	四、一九四
同　七年	二	一五	一一、〇〇三
同　八年	二	一七	一〇、三九三

主なる工場

日本柳織株式會社　津山市

(ト) 木製品

本縣に於ける木製品は洋家具、茶器類を主とし其の額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價格
昭和四年	一、六九五	二、七七五	一、九三四、六一九円
同　五年	一、七三一	二、七四三	一、四四一、九三三
同　六年	一、七四四	二、八二一	一、三三三、〇一八
同　七年	一、六七九	二、七七六	一、三六〇、七六七
同　八年	一、七九三	二、八六七	一、四四五、三三八

(チ) 漆器

本縣漆器の主產地は岡山市及眞庭郡川上村字郷原にして郷原は今より約百五十年前に創始せられしものにして當時は生地のまゝ移出したるも其の後二三十年にして之を仕上げて販賣するに至れり。其の製品は飲食器中の丸物を主とし家具裝飾品之に亞ぎ其の材料の大部分は栗にして其の他欅、栃、ブナを使用するを以て其の質極めて堅牢にして價額低廉な

るを以て賞用せらる、其の販路は島根、鳥取及本縣下とし輪島塗として賣買せらるゝものあり、近時産業組合による購買販賣組合を組織し販路の擴張を圖りつゝあり、尚近時岡山市其の他にて製造を開始せるものあり。

最近五ヶ年の産額を示せば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價額
昭和四年	五二	八七	三四、七六五円
同五年	三七	七四	三五、四六〇
同六年	三三	六三	一七、三三七
同七年	三〇	五三	一七、四三一
同八年	三一	五四	二三、九八八

（リ）帽子

羅紗其の他帛布製のものは岡山市にて麥稈帽は和氣、岡山、小田の諸郡市にて生産せらるゝもの多く而して本縣産麥稈は其の品質優良なり近時バンコック帽体の製造漸次隆盛となり全國總生産の七割に及べり。

最近の産額を示せば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	種類	數量	價額
昭和四年	五八六	三、三八四	麥稈製	一四五、七七五打	一三七、八九七円
			模造パナマ製	一九、四八七	二五四、一七四
			フエルト製	三五〇	四、二〇〇
			ラシヤ、セルヂ製	三、五二六	二九、一三〇
			其の他の布帛		
			其の他	三九、六一四	三五、六六六
同五年	四二	三、二八六	麥稈製	三二七、一五六	一二四、九〇二
			模造パナマ製	二四、五二三	一五一、五八九
			フエルト製	三〇〇	三、〇〇〇
			ラシヤ、セルヂ製	三、三四〇	二三、二〇〇
			其の他	四四、四三八	一五三、〇四三
同六年	四四二	三、二四三	麥稈製	四六、五三九	二一九、七七三
			模造パナマ製	三三、八九八	一七三、三一〇
			フエルト製	二、〇〇二	一四、二一七
			ラシヤ、セルヂ製	五、五五一	二九、三三三
			其の他	八七、九九〇	二三六、六三三
同七年	四二四	二、五六三	麥稈製	二、八四二	四二、九六三
			模造パナマ製	二、四八七	九、三四三
			フエルト製	—	—
			ラシヤ、セルヂ製	一、四〇一	六、五三一
			其の他	三五、一五八	五七、九九七

同八年	四六	四、〇五二	麥稈製	二一、三〇三	四〇、二八八
			模造パナマ製	四、六五三	三、五六九
			フェルト製	—	—
			ラシヤ、セルヂ	一、六八〇	七、九三三
			其の他布帛		
			其他	四八、六八〇	一〇五、五七二
			パンコツク帽体	二三〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇

主なる會社工場

ヤヨイ製帽株式會社　淺口郡六條院町

（ヌ）木　炭

木炭は本縣中部以北の各郡より産出す縣下の産額は年により消長あるも一千萬貫に垂〻とし一郡を以て地區とせる同業組合の設置六ヶ所、準則組合一ヶ所に及びしが更に之等組合を以て岡山縣木炭同業組合聯合會を組織し製炭法の改良に努力せると昭和六年縣營檢査の實施とにより愈々優品を産出するに至り阪神其の他に販路を擴張するに至れり。

最近の産額左の如し。

年次	白炭 數量	白炭 價額	黑炭 數量	黑炭 價額	計 數量	計 價額
昭和四年	四、六九三、四〇六貫	一、〇六九、一七五円	三、九七七、二〇五貫	七二七、四五七円	八、六七〇、六一一貫	一、七九六、六三二円
同五年	四、〇三三、九六七	七〇四、五六〇	三、五〇四、五七〇	四八七、九四三	七、五三八、五三七	一、一九二、五〇三
同六年	四、二四四、四一九	六九一、六七〇	三、六〇八、一六五	四九五、九四三	七、八五三、五八四	一、一八七、六一三
同七年	四、八六九、六八三	七八三、九二九	三、九四七、二七〇	五四八、〇三六	八、八一六、九五三	一、三三一、九六五
同八年	四、九一五、八三六	九一四、四七三	四、八三六、五五〇	八〇九、八八五	—	—

C 特産品

（イ）花　莚

本縣の花莚は明治十年頃時の縣令高崎五六氏支那花莚を縣人に示して製織を奬勵したるに始まり明治十一年都窪郡茶屋町磯崎眠龜を以て花莚發明の鼻祖とす錦莞莚と稱するもの是なり後同町の藤原丈七綾莚機を發明し又吉備郡庭瀬町高塚常吉花莚織機を完成し紋花莚飛込莚織機耳組機の發明あり明治十三年磯崎眠龜始めて神戸商人の手を經て英米二國に販路を求め多少の注文を受けたり後明治十七年岡山市今谷直平は獨逸商人に同十八年米國商人と賣買の契約を爲せり是れ本邦花莚輸出の端緒なりとす當時の製品は二間物なりしを二十間の長物となせり明治二十三年の頃製造會社起り二十六年紋花莚の發明あり製造家續出

し粗製濫造の結果と需要不振の爲め盛衰ありしも蓋し明治四十年前後は本業の最盛期と謂ふべし其の後歐洲戰爭、各國の關稅戰、粗製濫造の影響を受け現今に於ては印度支那、南洋方面に六、七拾萬圓の輸出あるに止まるも內地需要の如きは疊代用上敷として又は切斷して疊表として需要逐年增加を示し其の生產額は全國中常に第一位を占め居れり、本業は往年工場工業として發達せしもの現今に於ては家庭工業となれり、最近動力織機の發明により再び工場經營を爲す者もあり家庭に簡單なる動力設備を爲すに至る時期もあれば足踏織機は遂に影を沒するに至るべきか。

販賣に就ては問屋、仲立業者等あれども近時時代の趨勢に伴ひ產業組合其の他の方法により共同販賣をなすもの漸次增加せり。

最近五ヶ年の產額左の如し。

年次	製造戶數	職工數	四十碼物		其他	
			數量	價額	數量	價額
昭和四年	六、七七六	一〇、四五〇	七〇九、六七四本	五、六五三、一八三円	三、〇三一、九六六枚	一、〇八二、九三〇円
同五年	七、二一一	一〇、九六六	六二八、三三三	三、四五三、七四六	二、四五五、〇〇〇	五九〇、三一七
同六年	七、七七六	一一、二九六	五七七、五一九	二、八五八、一〇一	二、三三五、八七三	五七一、二七六
同七年	七、五六六	一〇、六八二	五二四、七七二	二、八〇四、〇八三	一、七三五、一六五	五六一、八〇四
同八年	七、八八九	一〇、八〇三	六四八、四七五	三、八五四、三四一	二、一五八、九一六	七五八、〇〇六

主なる工場左の如し。

淺越花莚工場	都窪郡妹尾町	大日本莚業株式會社　倉敷市
綱島花莚工場	都窪郡早島町	三・宅花莚工場　淺口郡西阿知町

(ロ) 野草莚

野草莚は大正二年の頃製造を開始したるものにして本業の勃興は米國に於て歐洲戰爭の際本品の工場及職工を徵發せられ殆ど休業狀態に陷りしが爲め本邦の生產品を代用するに至りたるに起因せり、原料として藁繭等を使用するものにして之等原料の生產は豊富にして不足を告ぐることなし。生產額六割五分は米國に三割を英國に輸出せり。

大正十五年岡山縣野草莚工業組合を設立し一層の改良發達を期し全國生產額の八割五分は本縣の生產する所となれども近時嗜好の變遷に伴ひ生產減少の傾向あり。

最近五ヶ年の產額を擧ぐれば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	七六	三二一	九四、二八〇枚	二〇〇、六八五円
同五年	五三	二一三	一二六、七五五	二六三、七四〇
同六年	四八	二〇六	六九六、〇二八	三五四、一八一
同七年	四一	一六〇	九五、二六〇	一八六、一一四
同八年	五九	三三九	一四九、八二三	六〇四、六五五

主なる工場左の如し。

合資會社藤原製莚工場　赤磐郡瀨戸町　山上商事株式會社　上道郡西大寺町
植木野草莚工場　兒島郡粒江村

(八) 疊表

本縣の藺草は其の質柔靭にして備後藺の如く剛硬ならざるを以て之を花莚に製するときは錦莞莚の如き緻密なるものを得之を疊表に織るときは足觸り良く耐久力に富み而も其の價額は頗る低廉なるを以て備中表の名全國に普く販路甚だ廣し往昔より備後表と相拮抗し一籌を輸する所ありしが機械の改良と技術の進歩とに依り生産を增加し需要も亦倍加し遂に相讓らざるに至る明治三十三年同業組合設立以來品質著しく改善せられ販路益々擴張し近時東北、北海道地方生活程度の向上に伴ひ此地方への販路大に開拓せられ今や全國到らざるの地なく又最近植民地への輸出逐年增加し益隆盛の域に進めり製品を分ちて引通表及中繼表とす引通表は長藺を用ひて繼合せなく引通し織るものにして中繼表は六藺、トボ藺を用ひ中央にて繼ぎ織れるものにして本縣内にて生産せる主なる種類尺寸等左の如し。

種類	縱寸	橫寸	竪目	量目
長髭	六尺六寸	三尺二寸五分	六十七目	七百匁
中髭	六尺六寸	三尺二寸五分	六十七目	五百匁
小髭	六尺六寸	三尺二寸五分	六十七目	三百五十匁
改良引通	六尺六寸	三尺二寸五分	六十九目 内小目四目	三百五十匁
引通	六尺六寸	三尺一寸五分	六十七目 同四目	三百匁
三六引通	六尺四寸	三尺五分	六十五目 同四目	二百八十匁
五八引通	六尺三寸	二尺九寸五分	六十四目 同四目	二百五十匁

最近五ヶ年の產額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	八、三七五	九、七八五	三、六八九、一六〇枚	二、九八六、一三八円
同五年	八、一〇三	九、五八九	三、二六三、三五三	一、七二六、八五七
同六年	八、八三五	一〇、四一二	三、六五八、三五一	一、八七八、五六三
同七年	八、六五〇	一〇、一一六	三、七七二、五七二	二、〇七六、〇五九
同八年	八、〇七七	九、八二三	三、六〇七、九二三	二、〇八三、〇〇〇

(ニ) 藺　草

藺草は疊表、花莚、茣蓙、圓蓙其の他各種藺製品の原料として需要甚廣く作付反別も年により增減あるも二千町歩を下らず明治三十五年三月同業組合を設置し藺草栽培の指導檢査の施行染土の改良販路擴張等に關し努力せし結果益盛況を來し全國中に於て第一位を占むるに至れり。販路は加工品としては海外及縣外に輸移出し未製品は關東、北陸、近畿、臺灣地方に移出せり。藺草の儘移出せらるゝものは生產額の二割なり。

藺草は往古に在りては江頭水涯の野生のものなるを疊表、茣蓙の製作に用ひらるゝに依り初めて水田に栽培するに至りたるものなるを疑はず祁寒に水田に移植し酷暑に苅取を爲す其の生產の勞苦は想像の外に在り而して之れが主產地は都窪、御津、吉備、兒島、上道の諸郡にして上道郡、兒島郡等には僅少の七島藺を栽培せり、最近五ヶ年間の藺草生產高左の如し。

年次	作付反別	收穫高	價額
昭和四年	二、四六五、〇町反	七、三五五、五四一貫	四、四三五、七九三円
同五年	二、三四六、九	六、六三一、二〇九	二、二七三、六三一
同六年	一、九二三、〇	五、四〇九、一九〇	二、一七七、八五一
同七年	二、四七九、二	六、八二一、一三八	三、三五三、〇七五
同八年	三、〇一八、〇	七、九三一、六八四	四、六三一、二〇八

(ホ) 麥稈眞田

本縣に於ける細眞田製造は上房郡高梁町を中心とし太眞田は小田郡及淺口郡を中心とし其の附近に於ける製造盛なり。

細眞田は明治十五年上房郡長時任義當淸國駐在本邦領事の報告中支那麥稈眞田輸出の狀況を見て謂らく之れ農家の副業として製造するを以て多額の資金を要することなく生產す

ることを得る有利なる事業なりと即ち時の勸業主任書記板倉信古と謀り郡中の有志に說き金貳百圓を醵出し高梁町中村三平を東京府下大森地方に派し組紐製造方法を傳習せしめしが三年七ヶ月にして歸鄕し同郡の富豪中村源藏の援助を得て高梁町に於てこれが製造を開始し、九五平、丸七平眞田を編成せり之れ本縣細眞田製造の起源なり其の後漸次改良を加へ五角七角其の他の變製品を產するに至れり。

太眞田は明治十六年の交淺口郡寄島町頃末勝吉大阪の商人岸上紋藏同地方に來り眞田原料として麥稈の買入をなしたることあるにより其の業の有利なることを察し同十七年遂に串田佐市、蔦川喜市、頃末久吉等と共同して麥稈原料の賣買を開始し備後の人由良長藏の勸誘により組紐製造の敎師を雇ひ入れ九五平、丸七平、眞田約五十反を製造し同十八年自ら携帶して神戶に至り外商十七番館「アメリカン・ツレーディング」に始めて之を賣却せり然るに當時同地方にては細莖稈の產出殆ど無く愛媛縣及香川縣より移入したるを以て運賃を要すること頗る多く爲めに生產者に不利を釀すこと尠少ならざりしかば頃末勝吉等寄島町附近に產する「扞得」「白頭」「梅」「小鬚傾」等を以て製造せり之を以て太眞田の起源とす。爾來時代の推移により其の形狀品質をも之に順應せしめつゝあるも價格低廉なるを以て生產減少の傾向あり、而して主なる產地は淺口、小田、吉備、後月の諸郡にして佛米、伊、英等に產額の九割迄は輸出せらる。

最近五ヶ年間の產額左の如し。

年次	製造戶數	數量	價額
昭和四年	四〇、五九六	三、一九〇、四四一反	一、三六六、三八〇円
同五年	四〇、八一九	二、九二一、七五三	七七〇、六三四
同六年	四〇、〇二四	一、九六八、二三三	四〇七、四二七
同七年	四〇、〇三七	二、八一三、六九〇	五六四、四二七
同八年	四〇、〇八四	三、三五四、七六三	九九〇、五三九

（ヘ）薄荷取卸油

本縣に於ける薄荷栽培は文化十四年の頃備中國後月郡門田村秋山熊太郎なるもの江戶より僅少の種根を持歸り試植せしを濫觴とす爾來繁殖して取卸油を製し菓子商及賣藥店に鬻けり而して其の栽培及製油の方法は秘して他人に傳へず然るに明治十九年九月都窪郡の別府伊太郎外二人に若干の種苗を賣却せしを初とし同年初冬より翌二十年一月の頃迄に邑久

上道郡地方へ賣却せしもの主として小田、後月、邑久郡地方へ栽培せらるゝに至り現今に於ては全國第二位を占め本縣主要產物に算せらるゝに至れり而して之か主產地邑久、小田後月、淺口、都窪、吉備、兒島、和氣の諸郡にして同業組合三ヶ所ありて製油の濃度を檢查し容量の統一、販路の擴張等に努め居れり。最近五ヶ年の產額左の如し。

年次	製造戶數	職工數	數量	價額
昭和四年	一、五三七	二、四〇一	三〇一、七〇七斤	一、一四六、三二九円
同五年	一、八六九	二、二二四	二三八、三二四	六二七、二五三
同六年	一、九五六	二、三一七	二一八、八八〇	四八六、二九九
同七年	一、四〇一	三、五三七	二二七、〇二〇	八〇六、六三四
同八年	一、四一四	一、六七二	二三六、四一三	一、四七七、八八二

薄荷

年次	作付反別	收穫高	價額
昭和四年	一、五五六、五町反	一、六一八、二二三貫	七七三、九七〇円
同五年	一、一五五、三	一、二四三、三四六	四二九、〇二七
同六年	一、〇二二、五	一、一八〇、三五九	三四七、五〇〇
同七年	九四五、七	一、一七四、九一五	六三五、五八〇
同八年	一、三八三、三	一、八二八、三六八	八二三、四七八

(ト) 除虫菊

除虫菊の栽培は明治二十二年小田郡笠岡町渡邊小平太なるもの紀州有田郡より種苗を購入栽培せしに始まり其の後約二十年間は一局部に試作的に栽培せらるゝに過ぎざりしが海外輸出の途開けたると內地需要增加とに依り漸次栽培反別を增加し大正六年に至りては其の反別千四百餘町歩を算するに至り同年五月同業組合を設置し俵裝及品質の改良、販路の擴張を圖り益發達を來せり特に歐洲戰亂の影響を受け西歐の產出減少せる爲め好況を呈し其の生產額は全國中第四位を占め大部分は北米に輸出せられ之れが製品は除虫菊、蚊遣線香の二種なり。最近の產額左の如し。

年次	作付反別	收穫高	價額
昭和四年	五四一、〇町反	二六、八八七貫	三五五、一七七円
同五年	五六九、三	一三、六六七	二六一、二七〇

同六年	五五一、一	一二七、五九六	一二八、五五三
同七年	五八三、三	一一三、一七五	三三七、五五六
同八年	六三九、〇	一三五、四二八	六三九、七〇四

（チ）蒟蒻粉

蒟蒻の栽培は古來川上郡及後月郡の一部にて行はれ玉芋の儘にて移出せしが明治十三、四年の頃水戸蒟蒻製粉の狀況を視察し歸り同十六、七年の頃精米水車を利用し製造に着手したるを濫觴とし爾來製粉の研究をなし製粉工場を起すものありしも意の如くならざりしが明治三十四、五年の頃に至り漸く斯業發展の曙光を認むるを得、大正二年同業組合を組織し製品の改善販路の擴張に努めたる結果今日に於ては全國第四位を占むるの盛況を呈するに至れり。

最近五ヶ年間の生産額を示せば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
昭和四年	五九	一〇四	一三六、五七二貫	六二五、四七〇円
同五年	五八	一六七	一三六、二六八	四一八、七〇五
同六年	五三	八三	一四一、九七四	四四七、七八四
同七年	一三五	三七五	一六四、七六四	五三四、四五一
同八年	四三	七九	一七九、七七三	六七〇、七二五

蒟蒻芋

年次	作付反別	收穫高	價額
昭和四年	七二六、七町反	一、三六七、二六六貫	五五〇、六〇六円
同五年	七三七、四	一、六一三、五三五	三六八、三三七
同六年	七八九、一	一、八七五、五六八	五〇三、一一七
同七年	八〇八、二	一、八一六、七五六	五五四、一八六
同八年	八五〇、五	一、八九三、六一三	五六三、九四九

（リ）三椏皮

三椏は明治十五年頃迄は僅に耕地の畦畔等に栽植せらるゝに過ぎず其の産額極めて僅少なりしが爾後漸次增加し畑林野に植付くる外造林地前作又は間作事業として栽植するもの多く爲めに多額の生産を見るに至れり殊に眞庭郡に於ては大正二年高知縣より大葉種子を

購入し苗木を仕立希望者に配付する等之が改良増殖を圖りたる結果大に發達せしが其の後財界不況に伴ひ市價低落せしかば之が挽回策を講じ從來の粗製なる灰汁物を一新し優秀なる特灰汁物及本晒を製造するに及び大に其の聲價を博するに至れり、目下之が生産地は作州五郡、阿哲、御津にして年々數萬キロを印刷局に納入せり。

最近五ヶ年の産額左の如し。

年次	作付反別	收穫高	價額
昭和四年	八六九、七町反	二〇三、三九七貫	二七七、五八三円
同五年	八六八、五	一九七、七四五	一九〇、一一七
同六年	八〇八、六	一六四、三三三	一三五、二九七
同七年	八〇一、四	一七四、七八九	一三〇、九〇五
同八年	八〇三、九	一九一、〇五四	一四四、二〇三

(ヌ) 楮皮

本縣に於ける楮皮の生産地は眞庭、苫田、阿哲、勝田、英田、久米の諸郡を主とし眞庭郡に於ては本晒として岐阜地方に販賣するものあり漸次之に改良せられつゝあり。

最近五ヶ年の生産高を示せば左の如し。

年次	作付反別	收穫高	價額
昭和四年	三八、九町反	六六、一七四貫	七四、四二一円
同五年	四九、五	六九、三三四	三五、三四四
同六年	三六、二	五五、九二三	三五、四六六
同七年	三三、一	五九、〇三三	三五、一三八
同八年	三三、六	五八、九二一	三五、〇〇三

六 商工關係豫算

歳出經常部

科目	本年度豫算高	前年度豫算高	比較 増	比較 減	備考
商工奬勵館費	二四、一四九円	二三、三五五円	七九四円	円	

第一目 雜給	三、六五〇	三、五八六	六四	
				雇員給一人月俸平均金參拾六圓二人分 八六四
				看守給一人月俸平均貳拾貳圓餘六人分 一、六〇八
				諸傭給 九五〇
				內
				小使二人一日金九拾錢 六五九
				給仕一人一日金四拾五錢 一六五
				大工其他臨時傭夫延百四十日一日金九拾錢 一二六
				惠與 雇以下勉勵手當給與年額百分ノ三 給料 九九
				賄料 一二九
				內
				主事補看守宿直一夜金貳拾 七四
				小使一人同上一夜金拾五錢 五五

第二目 所費	三、四一三	三、一二六	二八七	
				備品費 七四五
				被服費 五〇
				消耗品費 三六〇
				圖書印刷費 一四三
				宣傳費 九〇
				參考品費 二〇〇
				陳列裝飾費 一〇〇
				通信運搬費 三一〇
				事業費 八五〇
				內
				公立商品陳列所聯合會參加費 二五〇
				輸出向工藝展覽會參加及縣物產宣傳卽賣會費 六〇〇
				雜費 五六五

大阪販賣斡旋所費	八、〇〇五			
內				
俸給	三、一四〇			
雜給	九八四			
旅費	七〇〇			
備品費	二〇〇			
消耗品費	一三一			
圖書印刷費	一五〇			
通信運搬費	五〇〇			
電話費	二三〇			
事務所借料	一、八六〇			
事業費	七八〇			
雜費	二五〇			
修繕費	一〇〇			
神戸販賣斡旋所費	一、八〇六			
內				
雜給	六一五			

第三目 販路擴張費		一六、七七一	一六、二七四	四九七
旅費	二〇〇			
消耗品費	三六			
圖書印刷費	三〇			
通信運搬費	一三〇			
電話費	二九五			
事業費	一〇〇			
事務所借料	三六〇			
雜費	五〇			
滿洲商況通信所費	六、九六〇			
內				
俸給	一、九〇〇			
雜給	七七五			
旅費	一、〇〇〇			
備品費	二〇〇			
消耗品費	二一〇			
圖書印刷費	一〇〇			
通信運搬費	八〇〇			

款	目	本年度	前年度	増	減	説明	金額
						電話費	四七五
						事務所借料	一、二〇〇
						雜費	三〇〇
	第四目 修繕費	三二五	三六九		四四	修繕費	三二五
						内	
						本館及倉庫屋根修繕	一四五
						小破修繕	一七〇
工業試驗場費		三六、三三〇	三五、二七八	九四三		諸傭給	九、九五〇
						内	
						小使二人一日金九拾錢	六五九
						給仕一人一日金五拾錢	一八三
						臨時傭夫延百七十五日一日金九拾錢	一五八

款	目	本年度	前年度	増	減	説明	金額
	第一目 雜給	一〇、三七三	九、九〇四	四六九		火夫月俸六拾貳圓一人	七四四
						職工平均一日金壹圓拾八錢十八人分	八、二〇六
						惠與 小使以下勉勵手當俸給給料年額百分ノ三	二九四
						賄料	一二九
						内	
						場員宿直一夜金貳拾錢	七四
						小使宿直一夜金拾五錢	五五
						備品費	一、八〇一
						消耗品費	一、七三六
						化學試驗費	八〇二
						染織試驗費	一、八二五
						釀造試驗費	一、六〇五
						製紙試驗費	三三〇

	第二目 場費	一五、七四七	一五、〇七四	六七三		工藝試驗費	一、〇〇〇
						圖案試驗費	五五
						絹織物試驗費	一、五四〇
						電力燃料費	三、三一七
						標本費	五〇
						被服費	一〇八
						圖書印刷費	六九四
						通信運搬費	二五三
						雜費	六四一
	第三目 修繕費	一〇〇	三〇〇		二〇〇	小破修繕	
勸業諸費		五、〇〇一	六、〇七七		一、〇七六		
	第一目 勵獎費	一、九三五	二、四三五		五〇〇	共進會品評會獎勵費	一九五
						商工獎勵費	一、七四〇
						內 藺草改良獎勵費	八〇〇
						商工會獎勵費	二五〇
						發明獎勵費	一九〇
						共同施設獎勵費	五〇〇
	第八目 度量衡統一促進費	二一〇	五一〇		三〇〇		
	第十目 花莚検査監督費	二、八五六	三、一二三		二六七	勸業技手俸給一人平均月俸五拾九圓强四人分	二、八五六
經常部計		五五、三七〇	五四、七一〇	六六〇			

歲出臨時部

科目		本年度豫算高	前年度豫算高	比較 增	比較 減	備考	
工業試驗場費		九〇〇円	九〇〇円	円	円		
	第一目 試驗費	九〇〇	九〇〇			三椏皮改良試驗費	九〇〇円

勸業補助費	八、一〇〇	九、一〇〇		一、〇〇〇	
酒造杜氏講習會補助	二五〇	二五〇			
第一目 酒造杜氏講習會補助	二五〇	二五〇			
航路費補助	五、三五〇	五、三五〇			
第一目 航路補助	五、三五〇	五、三五〇			
博覽會參加費補助	二、五〇〇	三、五〇〇		一、〇〇〇	
第一目 博覽會參加補助	二、五〇〇	三、五〇〇		一、〇〇〇	見本市參加補助
歲出臨時部計	九、〇〇〇	一〇、〇〇〇		一、〇〇〇	
歲出合計	六四、三七〇	五四、七一〇		三四〇	

附錄

岡山縣名勝案內

岡山縣名勝案内

目次

各郡市別名勝及名產

一 岡山市及其附近……五
概觀―巡路案內―蓮昌寺―岡山神社―岡山縣廳―岡山縣會議事堂―水產試驗場―地方裁判所―後樂園―岡山城―工業試驗場―商工獎勵館―岡山藩校跡―岡山商工會議所―日本銀行岡山支店―刑務所―國淸寺―東山公園―第六高等學校―五百羅漢―岡山醫科大學―第三十三旅團―農事試驗場―種畜場―宗忠神社―篠ケ瀨城址―上水道水源地―名產

二 倉敷市……一〇
倉敷紡績株式會社―倉敷絹織株式會社―大原奬農會―勞働化學硏究所―足高神社―名產

三 津山市……一一
鶴山公園―德守神社―總社―二宮松原―院庄―名產

四 御津郡……一四
玉柏の桃花―金山―金川及其の城址―吉備津彥神社―名產

五 赤磐郡……一五
瀨戶―和氣淸麿墓―名產

六 和氣郡……一六
臥龍松―伊部燒―閑谷黌―閑谷神社―熊山―和氣―天神山城址―芳嵐園―和意谷―八塔寺―三石町―名產

七　邑久郡……二〇
乙子城址―安仁神社―牛窓町―砥石城址―福岡城址―長船と福岡―虫明の瀬戸―犬島―名產

八　上道郡……二三
圓山曹源寺―三蟠及九蟠―西大寺町―金陵山西大寺―關白屋敷址―龍口城址―藤本鉄石生誕地―名產

九　兒島郡……二五
藤戸渡―常山城址―八濱―高島―小串―宇野港―熊野神社―覺仁法親王の御陵―賴仁親王御陵―瑜珈山―田ノ口―味野―下津井―鷲羽山―鯛網―兒島灣開墾地―名產

十　都窪郡……二九
坪井梅林―妹尾、早島、茶屋町―帶江觀音―日間山―足高神社―福山城址―安養寺―國分寺―名產

十一　淺口郡……三一
玉島―篦取神社―金光教本部―鴨方―寄島港―沙美海水浴―水島―名產

十二　小田郡……三四
笠岡町―神島―高島―白石島―陶山岡城址―矢掛町―國勝寺―洞松寺―名產

十三　後月郡……三七
與讓館―永祥寺―鳴瀧―天神溪―蛇穴―井原―名產

十四　吉備郡……三八
吉備津神社―藤原成親墓―高松城址―高松稻荷―足守町―服部山城址―總社町―豪溪―吉備眞備の墳墓―猿掛山城址―名產

十五　上房郡……四二
高梁町―鐘乳窨―方谷園―名產

十六　川上郡……四四
山中鹿之助墓―成羽町―吉岡鑛山―穴門山神社―國吉城址―名產

十七　阿哲郡……四五
新見町―阿哲峽―羅生門―絹掛の瀧―萬才井―撞山城址―名產

十八　眞庭郡……四八
勝山町―神庭瀧―不斷櫻―久世町―眞賀溫泉―湯原溫泉―木山神社―いぶきひば樹―美甘大欅―舊道の詠跡―名產

十九　苫田郡……五二
中山神社―圓通寺―泉ケ山―白金山石灰洞―奧津溫泉―名產

二十　勝田郡……五三
勝間田―那岐山―銀杏樹―風ノ宮―三星城址―湯郷溫泉―名產

廿一　英田郡……五五
林野町―二子山及後山―眞野ケ原―杉坂峠―天石門別神社―鞍懸城址―名產

廿二　久米郡……五七
天護の瀧―佛敎寺―本山寺―誕生寺―荒神山―佐良山―八出天神社―岩屋城址―三村家親ノ墓―名產

各郡市別名勝及名産

一　岡山市及其ノ附近

▲概　觀　山陽線を西下し三石隧道に入れば即ち岡山縣にして數驛を過ぐるや展望開闊沃野の連れる中に左方に巍然として中空に聳ゆる烏城（岡山城）を中心に黒煙の漲れるを見る之岡山市の在る所とす岡山市は戸數二萬五千九百餘、人口十四萬を有し山陽屈指の都會岡山縣廳の所在地なり岡山の地たる往昔吉備内海中の一孤島にして之を大島と稱す繞らすに渺茫たる蒼海を以てし一に吉備の穴海と唱へたりしが世代の變遷に從ひ海面も漸次泥砂を堆積し遂に大島原となり三個の岡阜を遺し沖積地となる往昔天文元龜の頃迄は蘆葦叢生の地なりしが正平年中名和氏の一族上神高直の茲に築城し我岡山の城下町たるの運命を拓く永祿年中金光宗高居城し後天正年間宇喜多家之に代り現在の位置に移築し城市の繁榮を加ふ慶長五年小早川秀秋代つて兩備を治む卒するに及び嗣なく池田氏其後を承くるに至れり爾來池田氏累葉子孫相續き二百七十年以て明治維新廢藩置縣の時に及ぶ爾後年月の經閲と共に愈繁華を加へ明治三十八年水道の布設成り仝四十一年第十七師團（大正十

四年廢止）を設置せられ宇野線成りて四國の連絡完成し伯備線貫通して陰陽の連絡成り商工業益殷賑を致し内外人の往復は彌〻頻繁を加ふるに至れり。

▲**巡路案内**　先岡山驛下車直ちに電車にて東すれば柳川停留所より右側に高厦あり岡山劇場とす南數町にして蓮昌寺あり日蓮宗の巨刹にして後村上天皇の興國三年松田左近將監元賢（金川の城主）の創建に係る、中山下停留所より上之町停留所に至る間においで右側に安田銀行支店、左側に三和銀行支店、十五、不動の各銀行支店あり、之より南上之町、中之町、下之町、榮町、紙屋町、西大寺町、橋本町の殷賑を極むる地あり城下交叉點より左すれば右に岡山神社あり縣社にして正殿に倭迹々日百襲姫命相殿に吉備津彦命倭迹々稚屋姫命を祭る左に岡山縣廳あり此地を天神山と稱し元支封池田氏の邸宅のありし所門前に岡山東警察署、岡山縣會議事堂西方底地に水產試驗場あり、更に門前を西下せば岡山地方裁判所、區裁判所、岡山縣農會、岡山縣信用組合聯合會あり、後樂園停留場より東旭川の清流に架せる鶴見橋を渡れば即ち日本三公園の一たる後樂園なり園は貞享年中池田綱政の時其の臣津田左源太永忠其の工事を督して成る門を入れば鶴鳴館あり大集會の會場に充てらる之に次ぐを延養亭とす明治十八年及び同四十三年に於て　明治天皇の岡山に行幸あらせ給ふや行在所として玉座を置かせ給ひ又明治三十六年及同四十四年　大正天皇皇太子殿下にましませし際御駐輦あらせられ大正十五年五月　今上天皇皇太子殿下として本縣に行啓の際も亦同亭を以て御泊所となし給ひ、次で昭和五年大演習の際も大本營に充てさせらるゝ所續いて榮唱、能舞台、竹ノ間、墨流し、和榮、茂松庵の建物あり其前に花葉の池あり園內最も幽雅の所とす正面に峙てる唯心山は躑躅と杜鵑花とを以て掩はれ初夏の美言ふべからず其下なる池を鏡澤とし中に島嶼三個あり內「島の茶屋」は最も雅致に富む唯心山の裏に櫻樹多く又梅林あり其の他廉池軒、二段の藤、八ッ橋、流店、花交瀧、利休堂、千入の森、慈眼堂、烏帽子岩等泉石の布置花卉の栽植共に宜しきを得仙鶴悠々池畔に逍遙し景致頗る愛すべく園內の「ちさの木」は天下に名木として知らるゝ所なり。

園の南旭川を隔てゝ岡山城の天主閣中天に聳ゆ城址に第一岡山中學校あり附近一帶の地を內山下と稱す山陽線旭川鐵橋南に岡山縣工業試驗場、岡山縣綿織物工業組合あり後樂園より鶴見橋を渡れば西に大厦の聳ゆるを見る之を岡山縣立商工奬勵館とす其の南に隣し岡山縣穀物檢查所あり其の南は寛文九年に成る岡山藩校ありし所今は女子師範學校を置く更に電車東山行にて南すれば左側に岡山商工會議所、日本銀行岡山支店、中國銀行あり尙南し

て西大寺町、橋本町に出で東すれば有名なる京橋あり延長七十五間橋幅四十尺大正三年縣會の議決を得拾貳萬七千六百餘圓を投じ二ヶ年を經て最新式の橋梁となる車馬絡繹として最も雜沓を極め北岡山城を望み南は兒島灣より入る船舶輻輳し殊に秋冬に於ける紀州の密柑船名高し下流二日市に岡山刑務所其の對岸に岡山瓦斯株式會社工場、鐘淵紡績會社岡山工場あり。京橋を渡り中橋を過ぎ小橋より南すれば暫くにして國淸寺あり臨濟宗妙心寺派に屬する巨刹にして後陽成天皇の慶長九年池田光政播州姫路にありたるものを此地に移轉せり寺寶として平景淸の守本尊たりしと稱せらるる所の一寸八分の觀世音の像及び後醍醐天皇後水尾天皇の御宸筆の和歌、池田光政の手寫になれる法華經等あり堂後に池田氏累世の靈屋あり之より東して門田に出づれば右側に鐘淵紡績絹糸工場、岡山縣師範學校、岡山縣第一岡山商業學校、第二岡山商業學校、第二岡山中學校あり電車は東山公園迄通ず。國淸寺の南花畑に岡山博愛會あり明治三十八年米國人アリスペテーアダムス孃の創立に係る專ら窮民の病苦を救濟しかねて道義信念の向上を計るを以て目的とし施療院、保育園、小學校及裁縫所より成る東山公園は操山の西麓にあり地位高燥山上より瞰下すれば全市を一眸の裡に集め尙雲烟模糊の裡に瀨戶內海を望み風光甚だ佳なり園內に招魂社、三勳神社、

玉井宮、東照宮あり。

東山公園を降り右すること數町にして第六高等學校其の裏なる曹洞宗の寺院少林寺境內に五百羅漢の佛像を安置せり本堂は光格天皇の天明年間京都名匠の彫刻したるものに係り意匠の巧妙なる關西有名の大佛像たり岡山醫科大學及附屬病院は市の南方大供にあり之にて岡山有名の名勝地視察を終ることを得べし。

第三十三旅團　岡山市の西北隅に在り中國鐵道法界院驛を西に距る數町に位す步兵、工兵の兵舍其南に數十萬坪の練兵場あり。

岡山縣農事試驗場　岡山市の西北方中國鐵道法界院驛を距る西數町の所にあり。

岡山縣立種畜場　岡山驛より西北約十五町市內上伊福に在り。

宗忠神社　宇野線大元驛の附近にて敎祖黑住宗忠を祀り黑住敎の本社たり、光格天皇安永九年黑住敎基を確立し宗忠氏日夜道を說き敎を弘めたり爾後信徒多く今や全國百萬に及び每年三月二十四、二十五日の兩日七月三十一日、八月一日の兩日及び十二月二十二日（冬至）の大祭日には其の信徒の參拜するもの數十萬を算す。

篠瀨城址　市內に在り安德天皇壽永二年妹尾太郎兼康の築城せしもの其の後後醍

醐天皇の建武年間田中新左衛門尉信高の居りし所なりと云ふ。

關西中學校 市内巖井中國線三門驛より二町。

岡山の上水道水源地 市内北方中國線法界院驛より北五町。

名産 **錦莞莚**、**平和敷**明治十六年、磯崎眠龜の發明以來重要なる輸出品たりしが輓近米國の嗜好變遷の爲代用品たる平和敷を多く製す一般の花莚は淺口、都窪、兒島等各郡を主產地とし縣下を通し六百餘萬圓を產す**備前燒**和氣郡伊部町を窰元とし備前燒株式會社は市内富田町にあり、窰元出張店は各町に在り茶器其の他置物等は雅致に富む、**後樂園の御庭燒**亦名あり、**吉備團子**、米の成木、大手饅頭、鶴の玉子、調布等は共に名菓にして旅客の珍とする所、**丁子香**は頭髮調和に妙を得て名あり、**万成山**附近の石材は產額特に多く建築裝飾として用ひらる。**舊宇野村の出石大根**は漬物用とし**薤**は早春に於ける軟化蔬菜として珍味あり。

二 倉敷市

倉敷市 備中南部屈指の商業地にして人口約三萬餘山陽線倉敷驛の在る所にして伯備線は此處より分岐して北上す高等女學校、商業學校、**倉敷紡績株式會社**等あり、**德川幕政の頃**此地に代官所を置き備中、備前、讃岐三ヶ國幕領の管治をなさしめたり、**鶴形公園**は其の中央に位す有名なる財團法人**大原奬農會**、**農業研究所**、勞働科學研究所、**倉敷中央病院**、**大原美術館**等あり、附近中洲村に**倉敷絹織株式會社**あり。

足高神社 倉敷市大字笹沖にあり大山祇命を祭る縣社なり。

名產 本市は蓮根の生產多く阪神、廣島、下關等へ販賣し四十瀨西瓜。白瓜の生產亦多く、むらすゞめ、小町餅等は下戶黨の大に賞味する所なり。附近中洲村の酒津燒は近年頗る名聲を博するに至れり。

三 津山市

津山市 岡山に亞ぎ人烟最も繁盛なるの地、戶數七千餘、人口三萬四千を越ね津山川其の南を遶流せり、岡山より中國線の開通あり且因備、作備線に依り鳥取及備中新見に通ず、美作に於ける貨物殊に製紙、製絲の一大集散地にして山陰街道の要衝として東西運輸の中繼點をなし其の商勢益振興の域に達す。縣立津山中學校、仝商業學校、仝高等

女學校其の他製紙、製絲、肥料、電氣、ラムネ、織物等の諸會社並に數個の銀行あり、藩政時代に於ける松平伯十萬石の城下にして之か城跡は市街の北部に在り室町將軍治世の末葉に當り山名忠政の築きし所に係る其の後慶長年間森忠政東照宮の命に依り封を此の地に受け山名氏の舊壘に據り更に修覆を加へ傳へて其の孫長氏に至り繼嗣なく元祿十一年松平宣福之れに代り城主となり廢藩のときに及ぶ今は町の所有として鶴山公園たり土地高燥にして平地を拔く百五十尺舊時の建物を除き明治十年舊藩臣の數氏發起となり碑石を建つ、園内に公會堂を設く鶴山舘と號す尚老樹古木鬱蒼として繁茂し全市街を一目に瞰下し北方の山麓は竹林濠を蔽ひ東は懸崕高く峙ち宮川其の下を流れ眺望甚だ佳なり、徳守神社は字宮脇町に在り縣社にして天平五年の創建にして天照大神を祭祀す其の後廢頽せしを慶長九年森氏の城主たるや之を再營して津山の鎭守神とす毎年九月二十三日を以て大祭を執行す其の他佛閣の大なるものには本源寺、妙法寺、泰安寺、妙願寺等あり本源寺境内には美作大守たりし森忠政の墓あり。

總　社　津山市西北二十餘町のところに在り縣社にして大己貴命を祭り社殿は後西院天皇の明暦二年津山藩主森長繼の造營せるものなり此地は元備前六郡（英田、苫田久米、大庭、眞島）の國司廳のありし所なりと。

二宮松原　市の西部にあり街路十八町の間青松亭々翠色掬すべし縣立蠶業試驗場は此處にあり、更に西すれば縣社高野神社あり鸕鷀草葺不合尊を祀る人皇第二十七代安閑天皇の二年創祀せるもの現存の社殿は寛文三年津山藩主森長繼の造營せるものなりと其の東に宇那堤森あり森の側に老大の椋樹あり。

院　庄　市の西北部院庄驛の所在地にして此の地は元弘三年北條高時の後醍醐天皇を隱岐に遷し奉るや忠臣兒島高徳龍駕に尾して行在所の庭に忍び入り櫻樹を削り「天莫空勾踐時非無范蠡」の詩を題し以て其赤誠を表白し其の忠膽の存する所を奏せし地にして史乘に有名なる地たり、東山天皇の貞享五年長尾勝明此の地に石碑を立て其の跡を不朽に傳ふ又作樂神社は後醍醐天皇、兒島高徳公を祀れる縣社なり、本社に兒島高徳の塑像あり足利時代の作ならんと云へり又銅碑あり、後醍醐天皇の御製にて有栖川宮熾仁親王の染毫に係れるものを鐫せり。

名　産　津山名産初雪は茶菓として美味にして全國に知らる、津山竹器なる玩具は最近の生産にかゝり美術品及實用品として各地に歡迎せられ柳織鞄、紙布等實用向と

して名あり。

四　御津郡

本郡は岡山市の西に位し南は兒島灣に瀕し北は山丘を以て美作に接し延長十八里に亘る。

玉柏の桃花　中國線玉柏驛附近一帶の地は桃の栽培に富み春花の頃岡山地方より觀客夥し、殊に龍口の翠巒巍然として屛風を繞らしたる如く其の前に聳え眞に桃花源の趣あり。

金山　玉柏より上ることを得、高さ一千六百四十八尺山嶺に金山寺あり天臺宗の巨刹にして天平勝寶元年報恩大師の創建したるもの山頂に上れば南兒島灣及び讃岐の翠巒を見下し眺望頗る秀麗なり。

金川及其の城址　中國線金川驛に下車すれば卽ち金川町にして人口二千餘金川中學校の在る所緣深く繁れる松林は所謂臥龍山にして金川城址の在りし所、文明十二年松田元成以後十三世の居城たりしが元勝に至り日蓮宗を信ずること甚しく日夜誦經梵唄を事とし領內の人心をして漸く離反せしむ爲に永祿十一年宇喜多直家に滅ぼされ春家の居城たりしが後

池田忠繼の老臣日置忠俊之に居り德川に至り幕命に依り廢城となる其の南麓に日蓮宗不受不施派本山妙覺寺あり尙金川より西二里宇甘西村に虎倉城址あり永祿年中伊賀久隆の居城たりし所なり。

吉備津彥神社　岡山を距ること約二里、吉備線一宮驛より數百歩にして廟階の前麓に達す國幣小社にして吉備津彥命を祀る社は推古天皇の創建にして高倉天皇の嘉慶二年及元祿十年池田綱政侯社殿の改築ありしが昭和五年十二月十四日火災に罹り目下改築中に屬す境內約一萬坪にして老樹鬱々として茂生し淸風颯々として鳥聲自ら閑なり祭式は御田植と稱し八月二三日に行はれ當社の神秘として有名なり。

本郡の特產は南部に於ける藺草中部に於ける桃にして桃は縣下總生產の三割八分に當り馬屋下、牧石等特に有名なり、野谷に於ける歐洲葡萄は山內善男外數名の經營にして玻璃室栽培をなし頗る珍品として阪神に名聲を博す尙篠瀬川の蜆新山の茶牧石村の胡蘿蔔、甘藷宇甘西の五倍子等名あり。

五　赤磐郡

瀬戸附近 瀬戸は山陽線瀬戸驛に在る所南東十數町潟瀬村は松茸の產地として名あり北高陽村に千光寺あり天平勝寶年中報恩大師の創造なりと云ふ此附近より東可眞、太田（萬富驛附近）吉岡等の數村は縣下著名の果樹園藝地にして洋梨、梨、葡萄等の栽培盛なり、和氣清麿の墓は、山陽線萬富驛より東北約一里豊田村大字松木に在り高さ五尺餘の五輪塔古へより公家塚又は清麿塚と稱す。

名產 桃、洋梨、梨、葡萄、松茸あり。

六　和氣郡

臥龍松 山陽線萬富驛東南一里二十町香登町大字大內津田謹吾氏の庭園に在り目下町の保護に係れり元中九年（北朝明德三年）同地の一井克明の栽植したるもの千枝蟠蔓枝狀恰も虬龍の蟠臥せるに髣髴たり幹の周圍壹丈五尺枝朶の蟠伸東西二百五十尺南北六十尺實に海內に比を見ざるの奇松とす。

伊部燒（備前燒竃元）和氣驛の南二里臥龍松の東一里伊部町にあり其の濫觴遠く神代に始まり應永年間始めて此地に大竈を築き盛に製出し天正年間より抹茶壺、點茶碗を製出するに至り後世之を古備前と稱す其の良工を三日月六兵衞と云ひ其の陶器に缺月の記號を印す其の後播鉢、酒壜を製するを以て聞ゆ爾後彌々精功を加へ偶像あり動物像あり茶壺、食器等に至る迄頗る奇形にして雅致のものを出す維新と同時に一時大に衰頽したるも明治十一年伊部陶器會社二十九年備前陶器株式會社の起るあり、巨大なる瓦斯輪層竃を新築盛に土管製造をなすに至れり。春湖、陶陽、陶古、華山、仁堂等陶工として有名なり。

閑谷黌 山陽線吉永驛の南約二十町伊里村に在り曾て藩臣にして而も碩儒たる熊澤蕃山が子弟を薫育せし所寛文十年の建設にして其の後諸般の設備完備し爾後沿襲して廢藩に至る迄全く教導に當る明治維新後教育制度の變革せるが爲め一時之を閉ぢたりしも國內の有志者名黌の荒廢を惜しみ明治十七年保黌會を起し義捐金を募りて之か維持を計り名儒碩學を聘して再び校門を開き三十六年中學校令に依り其の組織を改むるに至れり。

閑谷神社 黌の傍に在り縣社に列す明治八年池田氏の舊臣等相謀りて芳烈祠を修補し輝政、利隆、光政の三人を合祀し閑谷神社と改む。

熊山 郡の西南熊山驛の所在村にて高さ一千六百七十八尺山勢高峻にして山頂よりは四國一帶から播磨灘を隔てゝ大阪市を一眸に容るを得更に目を轉すれば因伯三但

の山脈を指顧の中に展望し得又茸の產出多し山頂に城跡あり元弘の亂伊東氏爰に據り建武二年に兒島高德の松田盛朝と戰ひし處現在は熊野神社あり大國主命を祭り每年五月二十四日の大祭には附近は素より作州、播州方面よりの參詣者多く滿山人を以て埋むと云ふ。

和氣町　和氣町は吉井川に沿へる小市街美作街道の衝に當る東約十町藤野村に安養寺あり孝謙天皇の勅願に依り報恩大師の創建に係り村上天皇の康保年間重興せられし天台宗山門派の古刹にして寺に二十餘通の古文書を藏す。

天神山城跡　和氣町より北一里吉井川の東岸に聳ね奇巖怪石峨然として一大峰巒を爲し青松綠樹岩石の間に雜生し風致佳麗なる所享祿三年浦上宗景此山に城を築き天正六年其の臣宇喜多直家の爲に陷れらる今尙山巓に城樓の礎石を存し古を偲ばしむるものあり。

芳嵐園　和氣驛の東二十町藤野村に在り日笠川に沿ひ園內三千株の櫻樹あり陽春其の梢頭笑ひを放ち綻蕾爛漫を競ひ恍惚花の世界の仙鄕に化せしむかの想あらしむ淸流を隔てゝ和氣神社の社頭の蓊鬱たる松樹の森と相對し芳野及嵐山の兩山を合せたるに髣髴たるものあり依て芳嵐園の稱呼ある所なりとす。

和意谷池田家廟墓　吉永驛の西北二里半神根村和意谷に在り池田氏累世墳墓の地寬永の昔池田光政の此地を相して千歲の佳域と爲し祖輝政、父利政の兩遺骸を京都妙心寺の墓地より移し改葬以來池田家歷代の墳墓とす其の塋域數郭を成し周圍に石壁を繞らし頗る壯麗を極む。

八塔寺　神根村の奧三國村に在り寺傳に依れば弓削道鏡の創建せる所に係ると往昔は右大將源賴朝卿の建立せし十三層の多寶塔ありしと云ふ今の堂宇は舊池田侯の建造せし所其の鐘樓は芳烈公の造營と稱す。

三石町附近　山陽線三石驛附近は蠟石坑あり之により耐火煉瓦、石筆、蠟石細工を產するを以て名あり、舟坂山は東二十町の國境に在り、元弘二年北條高時後醍醐天皇を隱岐の國に遷し奉るや兒島高德義兵を率ゐ車駕を奪ひ奉らんことを謀りし所、往昔山陽道中第一の天險と稱し攻守必爭の要害たりし所なり。

名產　米雄町は品質佳良造酒米として最も好適す縣下に於て尤も良品を產し北海道、東北、關東等一道一府十五縣に輸出す、福河村の寒河柿は乾柿と爲し肉厚く風味佳良なり、熊山千瓢亦特に名あり、三石、伊部、片上附近は耐火煉瓦の製產盛にして年產額百五拾萬圓以上に達し又蠟石クレーの產額全國第一位を示し石筆も稀に見る優品にして

現今にては輸出するもの多し、茶菓として有名の初音羊羹は和氣の産なり、伊部燒の竈元は伊部町に在り、福河の藻貝、伊里村穗浪の海鼠腸、片上の飯蛸、熊山松茸等共に名産の一たり。

七　邑　久　郡

乙子城址　太伯村に在り天文中浦上宗景の築城せし所後宇喜多直家の弟忠家の居城たりしが直家岡山に轉ずるや毀城となる。

安仁神社　國幣中社、大宮村に在り仁明天皇承和八年の創建に係り神武天皇の皇兄五瀨命を祭神とすと然れども一說には參議從三位秋篠安仁卿（人皇五十一代嵯峨天皇弘化三年備前守に任ぜられし卿）の靈を祀りたりと往時は社殿頗る宏壯なるものたりしも應永三年火災に罹り爾後久しく舊觀を失ひ凄然慘愴の姿態に在り然るに明治維新百度張興の運に會し再び社殿を修築し規模壯麗となる社に浦上則宗の下知狀を藏す。

牛窓町　郡の東南端瀨戸內海に瀕し往時は備前海上の一水驛として繁昌を極めたりしも前面牛窓、瀨戸の幅員狹く且西側急に淺きを以て大船舶の寄港に便ならず現今漸く衰へたりと雖も最近海水浴場として其の名顯はれ夏期は浴客群集す、地に材木商、船大工多く附近漁業盛なり。

砥石城址　豐原村に在り後柏原天皇の大永年中宇喜多能家の居城地たり後島村豐後城主となる豐後は宇喜多直家の爲に滅され宇喜多氏の麾下の有となりしが德川氏の治世に至り遂に廢城となれり。

福岡城址　行幸村福岡にあり、永享年間赤松滿弘の居城たりしが其の後山名赤松（政則）浦上氏を經て松田元成（金川城主）の爲に燒かる。

長船と福岡　共に古來有名の劍工を出せし地にして行幸村に在り劍士の福岡に居りし者は之を一文字流と云ひ長船なるを長船流と稱す福岡に於ける名工は正恒、則宗、安則助宗、成宗、末則、助則、盛宗、久宗とあ長船流の元祖を近忠と云ふ光忠、長光等何れも良匠たるを以て名あり尚一條天皇の頃友成あり特に備前の劍工史上に光輝を放てり其の盛時の極点に達せしは實に鎌倉幕府の中葉より天正年間の祐定に至る三百餘年間にして最近迄祐定と名乘る劍工ありしも其の死亡と共に遂に廢絕するに至れり。

虫明の瀨戸　裳掛村虫明の海上にあり長島横はり海峽をなし潮流甚だ急なり早晨虫

明の海濱に出でゝ旭日登天の曙光を望まば誠に朱輪十丈徐ろに滄溟より起り紫線萬條急流の潮波に映じて以て金龍を躍らし光景甚だ佳なり。

犬島　牛窓港より西南三里の内海中にあり、島中花崗岩を產す其の質純良にして建築用に適せり依て舊藩主池田氏累代の墳塋に此良材を用ひ又往年皇居御造營、大阪築港の石材皆此地より斫出せりと。島中に藤田氏の經營に係る犬島製煉所あり銅鑛を鎔化するの設備をなせしも現今休業せり

名產　虫明の海鼠膓は最も漁獲多く一ヶ年二百石を產し含味佳良に滋養豊富なり長船刀劍は行幸村長船に在り（長船と福岡參照）南部數ヶ村に於ける馬鈴薯（長濱最も多し）の生產額甚だ多く現今神戶を經て海外に輸出せらる南瓜も亦附近名產にして岡山地方は勿論阪神及四國に移送せらる。

八上道郡

圓山曹源寺　岡山市を距る東一里餘富山村に在り臨濟宗に屬し兒島郡郡村（今は甲浦村の一大字）に在りしを元祿十一年池田綱政公の此處に移したるものなり舊藩主池田侯累世の菩提所たり境內約三千坪規模頗る宏壯後に松樹鬱蒼たる岡陵を負ひ景色佳にして殊に其の庭園は意匠の妙布置の宜しき岡山附近に於ける庭園中有名なるものとす。

三蟠及九蟠港　三蟠は旭川の河口九蟠港は吉井川の河口何れも兒島灣中の樞要地にして船舶常に輻輳せり殊に三蟠港は岡山市の南方一里三十町岡山市より四國及內海沿岸各地に至る舟船多く岡山市の前港として水運の門戶をなす。

西大寺町　西大寺驛より東南一里岡山市より輕便鐵道の便あり吉井川の西岸海陸の運輸便にして商業頗る盛なり高等女學校、鐘淵紡績西大寺工場、山陽板紙株式會社あり

金陵山西大寺　西大寺町驛より東三丁に在り、此寺は天平勝寶年間の創造に係り吉井川の清流に臨みて堂塔伽藍の構造頗る壯大を極む本尊千手觀音は今より一千五百七十餘年の昔周防國玖珂の庄藤原恭明の女皆足姬の祈願によりて造り奉りし處由緒の古く靈驗の顯著なること世に隱れなく國の遠近を問はず來り賽するもの甚だ多し殊に每年舊正月十四日夜執行せらるゝ修正會は世に**西大寺の會陽**と稱し數萬の歸依者裸體となりて本堂に集り院主の投與する寶木を授からんとして相爭ふの狀誠に天下絕無の壯觀なりとす此日參詣するもの近きは中國四國遠きは京阪九州の各地より群り來るもの數萬と註せらる國寶の鐘は其

の昔龍宮より上りしものと傳ふ。

巨勢金岡の墓　西大寺町驛より北一丁金山の麓數幹の老松亭々たる下に斷碑あり里俗巨勢金岡の墓なりと傳ふ北すること僅かにして筆洗の井といふあり。

岩間の櫻　長利驛より西四丁、岩間山最明寺境內にあり岩間山の淺黃櫻と云ふ寺傳に曰く「正嘉年間一旅僧此寺に淹留すること日あり一櫻樹を植ゑて去る二ヶ年の後佛像と金若干を寄附することに依つて始めて前の執權最明寺時賴公なることを知る」と尚庭前數百株の櫻樹あり陽春開花の節は吟筇を曳くもの甚だ多し。

關白屋敷址　高島村大字湯迫に在り治承の頃關白基房の配流せられし遺跡なり明和年間池田繼政公其の趾に松樹を植ゑ碑石を立て記念とせり其の西南梅林の傍らに北條時賴諸國巡遊の際寺刹を創建せしと稱する最明寺舊跡あり今僅に礎石を存す。

龍口城址　湯迫の東北龍口山に在り要害にして穝所元常の居城たりしが永祿四年宇喜多直家の爲陷れらる。

藤本鐵石生誕地　維新の際勤王の大義を唱へ大和の十津川に兵を擧げたる藤本鐵石は宇野村東川原に生る、鄕人相謀り大正五年同地に記念碑を建設し名蹟を不朽たらしめんとせ

り。

名產　縣に分布廣き水稻雄町種は本郡高島村の原產にして芹も全村の名產たり尚幡多村澤田の筍新田の西瓜海產に平井、三蟠の白魚、海苔山陽板紙株式會社の板紙等共に名あり。

九　兒　島　郡

藤戸渡　宇野線彥崎驛を北に距る約十町下津井輕便鐵道天城驛の在る地方の稱にして往昔一海峽をなし瀨戸內海の航路なりしと元曆元年平行盛の城郭を備前兒島に構へたるや源範賴之を攻めんとし部將佐々木盛綱騎渡せし所今は陸地と化し麥圃稻田と變せるも尚其の西方粒江村に盛綱の遺址と稱せらるゝ鞭木、浮洲岩、淵ヶ馬等を存せり藤戸町藤戸寺に至れば藤戸浦合戰、盛綱藤戸海先陣の圖、盛綱肖像、盛綱使用の轡等あり當時を偲ばしむ。

常山城址　宇野線八濱驛附近莊內村の常山に在り三村上野介高德の居城地たり小早川隆景の爲に敗れ宇喜多直家の家臣戸川秀安をして守らしめたるが其の子逵安に及び撫

川に移封せられ廢城となる。

八濱　宇野線八濱驛より東三十町にして八濱町に至る兒島灣の沿岸に在り白魚、米鰕、鰻、灰介、藻貝、牡蠣等の名產あり尚海濱に宇喜多基家の墓あり基家は毛利輝元の將穂井田元清と戰ひ戰死し基家の臣七氏よく力戰功あり世に八濱の七本槍と云ふ。

高島　周圍十一町二十三間の小島にして一に竹島と稱す兒島灣口に在り神武天皇行在所の一と稱せらる。

小串　兒島灣口に在り九蟠港と相對し大日本人造肥料株式會社の工場あり。

宇野港　宇野線の盡くる所開港場にして四國連絡の要港なり。

熊野神社　郷內村大字林にあり元紀州熊野大權現の神靈を分迎して祀れるもの現在は伊弉諾、伊弉冊の兩尊を祭る、境內に後鳥羽天皇の第四皇子櫻井宮覺仁法親王の御陵あり承久の亂に賴仁親王の此地に遷せられ給ひたるを慕ひ下向せられ龜山天皇長弘三年崩じ給ひたり尚後鳥羽天皇の御影塔あり。

賴仁親王の御陵　林より近く木見に五輪塔あり之親王の御陵たり、承久の亂此地に遷せられ薨じ給ひぬ。

瑜珈山蓮臺寺、由加神社　郷內村大字木見に在り山上眺望に宜しく瀬戶內海を隔てゝ遠く阿波讃岐の翠黛を望見し、蓮臺寺は聖武天皇天平五年行基僧正の創建に係る、後坂上田村麿大に修繕を加へ應永年中增吽僧正の七堂伽藍を再興し神社は縣社にして手置帆負命と彥峽知命とを合祀す、火災、盜難其の他の災厄を退除するの神にして每月二十三日殊に六月の大祭は賽人最も多し。

田ノ口　宇野港より味野に至る海岸に日比、澁川、田ノ口、下村等あり、日比には鈴木製錬所あり食鹽の產地として名あり、三井の船渠及造船所は大字玉に在り宇野港に接し著しく發展を來さんとす、澁川は近來開けたる海水浴場にして水色清澄遠淺となり沿岸は雅趣ある老松蓊鬱とし兒島舞子の稱あり、夏季浴客盛なり、田ノ口、下村共に良港にして田ノ口は小倉織、眞田織の製織甚だ盛なり、田ノ口の東引網は、風光明媚、唐琴浦と稱し延喜の昔菅公左遷の砌始めて琴の音を聞き喜びの餘り、命名せられたる所なりと云ふ尚茲に天滿宮あり道眞公を祀る境內に八重梅あり一花に八個の結實ありと云ふ。

味野町　下津井輕鐵味野驛のある所、數百町步の鹽田あり、其の他諸官衙、縣立商船學校、近江帆布會社味野工場等あり。

下津井町　宇野線茶屋町驛より通ずる下津井輕鐵の終點とす、四國航路要津に當り船舶常に輻輳せり。

鷲羽山　日本百景の一であり文部省指定の名勝地たる鷲羽山は下津井町市街の東北に蟠り下津井鐵道鷲羽山驛に下車すれば容易に登攀することを得、此偉觀に對して脇水博士は次の樣に述べられて居る「由來瀬戸内海の美は高所より眺めて始めて其の眞價を發揮するものである、備前兒島半島の南端なる下津井の海岸は對岸は四國に近く且つ海面は島嶼の最も多い部分に屬し鷲羽山をして内海第一の展望臺たらしめて居る、此鷲羽山は海拔二〇〇メートル餘の花崗岩の一丘であるが其の山上の眺望は實に雄大快濶で東は播州灘より西は水島灘に至る間の海面を一眸の裡に收め直前には松島、櫃石島、六口島を始めとして鹽飽群島大小數百の島嶼更に神島、廣島、大槌、小槌等の諸島から彼方讃岐富士、白峰等を始め四國の山々翠を湛へ或は近く或は遠く高く低くパノラマ式に展開して覺わず快哉を叫ばしめる」以て如何に絶好の佳景であるかを窺知することが出來る。

鯛網　宇野、日比、下津井の沖合香川縣直島より大槌島附近は金山鯛の名産地にして毎年四月二十日頃より五月下旬に至る間鯛網を卸し毎日二回一網數百尾を獲光景實に内海の壯觀たり之が爲季節には觀覽者夥しく宇野、下津井には數十艘の遊覽船を備付け觀客に便せり。

兒島灣開墾地　宇野線妹尾驛より南二十町一望の間に田區整然其間に点々人家の見ゆるを兒島開墾地とす明治三十二年第一區の起工以來現今の成功面積千五百六十二町大阪藤田家の經營にして四十五年より藤田村を形成す。

名産　本郡は織物の生産最も盛んにして綿小倉服地、腿帶子、アート帶等は琴浦、迫川兩地方に於て盛に製織せられ殊に近時非常の好況を呈し内地は勿論支那方面の輸出盛なるを以て名あり兒島灣内の**灰貝**、**蟶**は水產物中最も有名にして其の他各種海產物豐富なり亦足袋、醬油等も名産の一たり。

十　都窪郡

坪井梅林　庭瀬驛より南二十町福田村に在り老梅數百株山に倚りて梅林をなす頂上に亭廬あり放矚亦甚だ佳なり。

妹尾、早島、茶屋町　何れも宇野線の驛所たり且花莚製織業盛に其の產出縣下に冠たり

妹尾は牡蠣、灰貝、鰻の名産地とす尚早島には倉敷紡績早島工場あり茶屋町は足袋の生産盛なり。

帶江觀音　一に不洗觀音と稱し倉敷驛東一里豊洲村大字中帶江に在り、天正年中増慶上人の開基せるもの安産の冥護ありとて遠近來賽の子女多し。

日間山　倉敷驛より東南二十町帶江村大字羽島山に在り山甚だ高峻ならざるも四望遮蔽なく頗る眺望に富めり山腹に眞言宗の法輪寺あり寺域の西邊に小野小町の姿見の井と稱する古井あり。

福山城址　山手村大字西郡に在り城は建武三年官軍新田氏の將大江田式部大輔氏經の拒守せし所足利直義に攻められ開城す。

安養寺　菅生村大字河原に在り空海の開基にして頼朝公の再興と傳ふ榮西十一才の時安養寺靜心に學ぶと云ひ又藤原成親の出家受戒せしと云ふ由緒古き精舍なり。

國分寺及附近　三須村大字上林に在り、行基僧正の創設往昔七堂伽藍巍然として聳ゆ規模頗る宏壯を極めたり後貞治年間僧蝟蚌之を再興す、寺寶として聖武天皇宸筆の經偈、弘法大師筆、五大尊像、智證大師筆の虛空藏畫像等を秘藏せり、又仝村大字赤濱は僧雪舟の出生地にして其の東南日差は天正の頃小早川隆景、吉川元春の秀吉と對陣せし所なりと尚仝村の造山及隣村山手村角力塚、黒姫塚、皇塚等あり何れも古墳にして古を偲ばしむるに足る所多し。

名産　藺草、疊表、花莚、野草莚は縣下主要の生産地にして殊に早島は藺草の品質特に良好、茶屋町と共に疊表、花莚、野草莚の製織郡中最も盛なり、中洲村の酒津燒は品質堅牢雅致に富み價格比較的安價なり。

十一　淺口郡

玉島　備中第一の要港にして山陽線玉島驛より約二十五町、高等女學校、商業學校、倉敷紡績玉島工場、半田綿行玉島工場等あり貨物の集散盛にして殊に肥料の輸入多し維新前丹波龜山藩の所轄なりし所西南海頭に曹洞宗の圓通寺あり聖觀世音を本尊とす風光絶佳寺寶として弘法大師の作たる辨財天の像其の他數點の佛器を秘藏せり尚郷社羽黒神社あり。玉依姫命、素盞嗚命、大國主命を祀る、後西院天皇萬治元年水谷勝宗の創建に係ると云ふ。

篦取神社　玉島町の東約一里連島町大字西の浦に在り、豊玉姫命、大綿津見命を祀る社殿丘上にあり海望を以て名あり神社は海上守護の神靈なりとて蒿師等の參拜するもの多し。

金光敎本部　金光町大字大谷、山陽線金光驛より數町の所に在り金光敎は嘉永年間金光大陣の創設したるもの其の後其の敎義を信ずるの徒漸く多く今日全國を通じ敎會の支部五十箇を有し信徒數百萬を以て稱するに及べり社殿は丘岡の中腹に巍然とし其の建築の宏壯なる全國稀に見るものなりしが大正十四年四月火災に罹り今尚再建工事中に在り大祭は春秋二季即ち二月と十月に行ひ九、十の兩日を以て執行す祭日參詣者の夥しき實に雜沓名狀すべからず明治三十八年より私立金光中學校を設立し一般の子弟を敎育せり。

鴨方　鴨方驛より北二十町を距つ素麵、麥稈眞田、備中蓙の産地として名あり碩儒西山拙齋の出身地碑を鴨山の麓に建つ、鴨山城址は細川通董の築きたるもの子元通は秀吉に從ひ朝鮮に建勳ありたるも關ヶ原後命に依り長州萩の城に移さる。

寄島港　鴨方驛の南一里中國航海の汽船便あるも水淺し附近食鹽を産す其の沖に三郎島あり島中三崎並峙し滿潮には三峰三島となり潮退けば一島となる峰上に富士明神

を祀る眺望頗る佳なり。

沙美海水浴場　黒崎村に在り金光驛を距る南一里半にして自動車の便あり海濱院は優に浴客五百名を收容するに足る風景の美なるを以て沙美の名あり縣下の浴場中推して以て白眉とすべし。

水島　玉島港沖一体を水島灘と稱し其東部に上下の水島あり壽永の昔源平二氏の雌雄を爭ひし古戰場にして水島の名夙に世に知らる、亦水島製煉所は此處に在り。

名産　本郡の特産は除虫菊麥稈眞田及淸酒とし六月除虫菊開花の頃山陽線を通過せば滿開恰も雪の如く小田郡と共に縣下生産の約八割を占め麥稈又良品を産し農閑婦女子の家內副業として盛に製せられ縣下生産の六割を産す岡山縣眞田同業組合は金光驛より數町に置かる鴨方の素麵は品質頗る佳良特に大和櫻、吉備の譽、松の雪等名あり一ヶ年の生産百五十萬貫に達す線香は長尾町に産し縣下著名の産地たり、備中蓙は産業組合を組織し粗製を矯正せるを以て製品統一し年産額百萬本にして各地に輸送す、玉島饅頭は餡の堪久に於て鴨方フジノヤ煎餅、金光の日乃出羊羹は共に味の佳美に於て其の他水島灘の鯛里庄村の大原燒金光の金光燒等を其の名産とす。

十二　小田郡

笠岡町　本縣西南の名港、人口一萬四千餘を有し元代官出張所あり維新の初め小田縣廳を置き備中及備後東六郡を管せしが八年に至り廢せらる、商業學校、高等女學校實科高等女學校、福島紡績株式會社笠岡工場等あり、山陽線笠岡驛、井笠鐵道會社あり、港頭の舟船常に輻輳するも灣内遠淺にして百五十噸内外の汽船を容るゝに過ぎず對岸四國に至る内海の群島は風光の明麗と史蹟名所の豐富を以て著はれ、東南端の城山は正親町天皇の御宇永祿年間村上高重の據守せし所其の後村上景廣、池田長幸を經て代官出張所を置くに及び小野氏の居る所となりたり、現に笠岡公園として老松蜿蜒山上の矚望最も佳なり山麓を繞るの海灣は碧瑠璃の如く西潮の稱あり、東北に聳ゆるを應神山と云ひ、往昔應神天皇の行幸ありし所なりと、貧孤兒の收容救濟を以て知らるゝ甘露育兒院は明治三十三年一月津田明導の設立に係る。

遍照寺、**海藏寺**等は眞言宗に屬し共に有名なり。

井戸正明の墓　笠岡町にあり芋代官として有名なり。

神島　笠岡町の南に横はり長さ一里四町幅員十二町周廻四里四町あり、住民多く漁業を營む、淺口郡と一葦を隔つる海峽を天神瀬戸と云ふ風景絶佳にして海水浴場あり垂綸に宜し外浦には神島人造肥料株式會社神島工場あり規模尤も大なり外浦にも海水浴に適せる所少なからず。

高島　神島の南十二町にありて神島外浦に屬す民家約四十戸島の東端一角に王泊と號する所あり、上古神武天皇東征の途次蹕を駐め大に舟楫を備へ兵食を作り給ひし行宮の跡址なりと稱す。

白石島　高島の南十八町周廻二里二十町東北二町餘の海中に巨巖兀立す其の色白くして頗る奇觀なり、此の附近は産魚多く春季の大鯛網殊に盛なり。

陶山岡城址　金浦町字西濱に在り陶山義高（鎌倉時代北條高時に屬し元弘の亂笠置山の行在所を犯す）三代の居城なりしが後柏原天皇の永正年間其嗣絶ゆ以て廢城となる。

矢掛町　玉島驛より北三里笠岡より井笠輕鐵及自動車の便あり、山陽街道に沿ひ往昔有名の驛路たり人口五千餘、柚餅子は往昔より名産として海内に知らる、其の他清酒、醬油、罐詰、木綿等の産あり、矢掛中學校、高等女學校あり、鵜江神社は川面村（矢

掛町西方十餘町）の所に在り榮彥命を祀る。

鬼ヶ嶽溫泉　昭和四年美川、宇戸兩村の發起に依つて設けたものにて泉質は硫化水素泉で多量のラヂウムを含有し神經痛、皮膚病、婦人病等に特効ありといふ。

國勝寺　三谷村に在り、十一面觀音を本尊とし元祿十二年村民吉備眞備公祖母の骨藏器を發掘新に槨を造り之を此の寺に安置し更に祠廟を建て之に骨藏器を奉齋し號して光助靈神と云へり。

洞松寺　仝村大字横谷に在り曹洞宗に屬し後小松天皇應永十九年仲恕大和尙の創建せしもの寺域內の莊元祐及元淸の墓あり。

名産　御津郡と共に桃の名産地にして殊に新山村には長尾圓澄、土倉克己等有名の園藝家あり、年六十萬貫を産し全國各地に搬出せらる。除虫菊は淺口郡に亞ぎ其の栽培尤も古く一ヶ年六萬貫を産す、岡山縣除虫菊同業組合及中備素麵同業組合は笠岡町に在り宇戸の牛蒡は古來より優品を以て有名なり小田地方の薄荷は邑久郡と共に有名にして小田、後月薄荷同業組合は小田町に在り、瀨戸內海中の各島嶼附近よりは煮干鰛乾鰕等の生産あり副食物として賞せらる其の他笠岡の饅頭神島の甘藷等を有名とす。

十三　後月郡

興讓館　西江原町に在り嘉永六年一橋侯の僚屬角田米三郎の創設に係る當時吉井村に閑居せる碩儒阪谷朗廬を禮聘し子弟の敎育を囑託せり、安政元年幕府の儒者古賀謹一郎の鴐を之の館に枉げ興讓館の扁額を留められ興讓館の名則ちこの時に起る其の後負笈の徒漸く多く慶應の頃は水戶の弘道館、萩の明倫館と共に海內の三學館の稱ありき明治元年朗廬氏の其の職を去るや坂田警軒、奥田氏等を經て山下氏に至り後明治四十一年設備を變更し私立興讓館中學校と稱する現在生徒六百餘名あり。

永祥寺　仝村井笠輕鐵七日市驛より東北一里の所に在り曹洞宗に屬し寺記によれば開基を那須與市宗高とす一時頽廢に歸せしを宗高の裔藏人長隆の再興せしもの聖觀世音の像を安置す寺後に東瀧と稱す飛泉あり奇觀を呈す寺域松柏多く甚だ幽淸なり。

鳴瀧　明治村大字花瀧にあり高さ十丈八尺幅四間山高く溪深く奇石桎巖雜樹蓊鬱の間に懸り一層奇觀を添ゆ鄕人この瀧の水聲の高低によりて晴雨をトす故に鳴瀧と名づく。

天神溪　小田川の上流芳井町に在り古松老杉蓊鬱として頗る幽邃の趣あり菅公の靈を祀れる祠あり溪畔亦楓樹多く晩秋の景殊に賞すべし。

蛇穴　共和村大字鴫上の西方鴫川の傍に奇竇あり其の口小なりと雖入るに從ひ漸く廣く深さ六百尺竇内數多の房室をなす。

井原町　井笠輕鐵の便あり、小田川の清流其の北東を遶る人口五千八百、井原高等女學校、中備製糸株式會社等あり。井原の南約九町を隔てゝ字七日市あり小市街をなす井原の北に不言溪と稱する一溪水あり往時家々多く桃樹を植ゑ小桃源の感ありしも今は其の名を留むるに過ぎず。

名産　井原に集散多き宇戸川牛蒡は明治村に尤も多く芳香強く優大にして殊に貯藏に堪ふ。一ヶ年十五萬貫を産す百合は一時郡内三十町歩の作付あり備中本場百合として阪神に名ありしが病害多く最近衰微の狀態にあり朝日羊羹は井原の名産長日月の保存に堪へ且美味たり出部の饂飩は德川幕府に獻納したるの歴史を有し品質優良なり。

十四　吉備郡

吉備津神社　眞金町大字宮内、中國線吉備津驛より數町官幣中社にして吉備津彥命を祀る、命は崇神帝の朝に四道將軍の一に任ぜられ山陽道の醜賊を平げ國民慰撫の任に當らせ給ふ壽二百八十一才を以て薨ぜらる御陵墓は吉備の中山（鯉山）の頂嶺に在り仁德天皇の御宇其の西北の山麓を卜して祠殿を設け以て神社に齋がれたるものなり祠殿は後冷泉天皇康平二年及後村上天皇の正平六年の二回火災に罹り足利義滿勅を奉じ社殿の造營を圖り後小松天皇の應永三十二年全く成る現在のもの卽ち之なり構造最も古雅なり大祭日は五月十二、十三の兩日及び十月の十八、十九の兩日を以て執行し尙每月一日、十三日の月並祭あり。

藤原成親の墓　仝村有木山上に在り平清盛の成親卿を備前の兒島より此地に轉謫し更に難波經遠をして殺さしむ墓は翠松の間に在り地域高燥登臨の佳境たり亦妹尾兼康の墓は吉備津驛の西三丁の路傍に在る小堂宇内に在り兼康は安德天皇の壽永二年木曾義仲の部將今井兼平と戰ひ戰歿せしを後其の臣陶山道勝の遺骸を求めて葬りしものなりと稱す。

高松城址　高松町に在り正親町天皇の天正十年夏羽柴秀吉毛利氏の軍と戰ひし時其の屬將清水長左衞門尉宗治が據れる城をせめ足守川を灌ぎ以て遂に之を陷落せしめたる

史上有名の備中高松の水攻めありしは即ち此城なりとす今は其の城址に石碑を建て傍らに宗治の首塚を存す。

高松稲荷　高松町に在り吉備線備中高松驛より稲荷山支線に依らば寺域外約二町の所にて妙教寺に達す、最上稲荷と稱へ古來より賽者の多き中國に於ける其の比類稀なる所とす、寺は龍王山の南麓にあり後陽成天皇の慶長六年日圓上人の開基に依り日蓮宗の名刹にして其の本堂には宗祖日蓮及一塔兩尊四菩薩の本尊の像を安置す、最上位經王大菩薩の祠堂より背後に登蹐すれば眺望頗る可なり、初午及每月廿五日の緣日には賽客殊に夥し

備中高松驛附近には**縣立農學校**あり。

足守町　吉備線足守驛の北方三十町もと木下氏二萬五千石の治所にして牛蒡を產す**葦守宮舊跡**は大字大神谷に在り應神天皇御巡幸の折の行在所と云ふ**藥師寺久持の墓**は足守驛附近生石村下土田に在り今は開墾して畑となし妙蓮寺畑と云ふ久持は毛利氏に屬し備前の龍の口を攻むるや戰勳ありしと。

服部山城址　服部村に在り後醍醐天皇の延元元年大江田光俊の築城に係る足利軍の爲に陷られ細川氏の臣上野盛行之を守る後光俊四世の孫爾屋康光再び之を奪ひ六世の孫親光の時に至り冠山の城に移る後宇喜多氏の有に歸し其の將戶川秀安の暫く居城せし所なり

總社町　總社驛の所在地人口約七千二百この地に**總社明神**と稱する縣社あり孝德天皇の大化年間に於て奉祀せるもの其の後一時廢社に歸せしが元弘年中足利氏の再興せしものなり**寶福寺**は同驛を去る北方約一里の所にあり臨濟宗に屬し堀河天皇貞永元年鈍庵和尚の創建せしものなり境內風光佳にして十景の勝を有す。

豪溪　伯備線豪溪驛より槇谷川の流れに沿ふて溯ること約二里池田村大字槇谷に在り溪は槇谷川の流に枕み巉巖磐頭より碧溪を壓して老松は此の罅隙を縫ひ溪水は此の石根を洗ひ水亂れて其奇殆んど名狀す可からず前面の巨岩に「天柱」の二字を鐫す之備前の碩儒武元登々庵が文政年中此の地に遊び其の絕景を賞せる餘り自ら書せし所なり、小豆島寒霞溪と共に奇勝を以て鳴る。

吉備眞備の墳墓　箭田村は吉備眞備の生誕地にして其の墳墓の地は天神山の頂嶺に位せり仁孝天皇の弘化四年此の地の領主伊藤長寬碑石を此の所に建つ。

猿掛山城址　矢掛町の東方吳妹村大字妹に在り正親町天皇永祿年間莊爲資の居城なりしか毛利氏の爲に滅さる斯くて元就の子穗井田元淸の居城地となり其の子秀元に至り防

長に移りたるを以てこの城は廢毀せらる。

名産　璸の柚及養老糖は共に總社の名産滋養に富み風味良し新本村には砂糖（白下）の生産あり一ヶ年産額三千四百貫とす、岡田に產する味噌は百數十年來の繼續にして京阪迄も販出せられ一ヶ年三千五百貫を製す、赤瓦は寒氣に堪へ大和村に產す。足守牛蒡、阿曾鑄物、箭田の箸等亦名あり。

十五　上房郡

高梁町　高梁川の左岸に位し戶數二千百四十五、人口九千八百餘（昭和五年國勢調査に依る）を有す、伯備線高梁驛の所在地にして備中北部の商業中心地たり、縣立高梁中學校、順正高等女學校、岡山專賣支局高梁出張所等あり、煙草、麥稈眞田、麥稈帽等を產す、元此地は松山と稱し板倉氏五萬石の城下にして臥牛山上に城址あり、往昔南北朝の頃高橋英光の居城たり、足利氏の時高師秀代り秋庭重明と戰ひ敗れ重明之に代り其の後上野信孝、莊爲資、三村氏、毛利、宇喜多、小早川、小堀、池田、水谷、安藤、石川の諸氏を經て櫻町天皇の延享元年板倉勝澄氏の居城となり其の後子孫相承け明治維新に至る今は老樹の森々たる間に其の外壁を存するのみ。

賴久寺　臨濟宗に屬し延元四年足利尊氏の創建に係る、境內に僧西念の寄進せる石燈籠あり、亦圓應禪師の影像あり、共に創立當時に於ける遺物として珍稱せらる、後後柏原天皇永正二年松山城主上野兵部少輔大修築を行ひ規模の美を添ふ其の門に揭げし扁額の天柱山と揮毫せるは黃檗高泉の書にして氣韻頗る高し、庭裡の假山は小堀遠州侯の寄進にして光景尤も佳境を得たりと稱す、安正寺（曹洞寺板倉勝職の建築）巨福寺（日蓮宗慶長年間、日源の開基せるもの）藥師院（眞言宗弘仁年中空海の草創）等あり。

鐘乳竇　上水田村字井殿に在り方谷驛東方約三里、總て石灰岩より成り竇口三丈幅二丈、口より約一町にして狹く之を匍匐して天然の隧道を過ぐれば再び濶く高さ丈餘に及ぶ、竇內悉く鐘乳石を以て充たされ、松明を燃して入れば白く光を生じ頗る美觀なり形狀の奇なるは五重塔、天の岩戶、鬼の豆石、天柱等其の主なるものなり。

方谷園　方谷驛を距る東方約五十町中井村大字西方に在り、中備の偉人山田方谷の墓畔に設く明治四十三年の開園に係り、泉石を布置し碑を建て亭を設け梅林、楓林、櫻林を造り春風駘蕩の候は芳香馥郁として仙境に遊ぶの感あらしむ。

名産　高梁の餅柚餅子は舊藩時代より茶菓用として貯藏に堪ふるを以て有名なり方谷煎餅は最近の創始に係り碩儒山田方谷翁の記念として製作せるものなり。

十六　川上郡

山中鹿之助（幸盛）の墓　落合村の入口高梁川の沿岸に位す尼子十勇士の一人たり其の主勝久を奉じ毛利氏に抗し雌雄を爭ひたるも敵せず幸盛毛利氏に降り其の隙を窺ひ以て吉川元春を刺さんとして果さず小早川隆景遂に之を縛し安藝に護送の途中この地に於て殺さしむ、淺尾藩主蒔田時棟墓側に碑石を立て以て其の英魂を吊ふ。

成羽町　高梁町の西方約二里とす成羽川に據り人口六千五百あり、**鶴首城址**は大字下原の鶴首山に位す後鳥羽天皇の文治五年河村四郎秋清始めて築城す、三村氏の修復後之に居りしが毛利氏の爲に奪はれ關ヶ原役後明暦三年初山崎主税助居城し五千石を領す之より其の子孫世襲し以て明治維新廢藩のときに至る。

吉岡鑛山　成羽の北三里吹屋町に在り開坑は人皇第五十一代平城天皇の大同二年實に一千餘年の星霜を經たり縣下第一の富坑にして採掘面積百三萬三千餘坪一ヶ年製銅十萬貫に達す設備完備し鑛毒蔓延の防禦に努め三菱合資會社の經營に屬したりしが今は休止せり。

穴門山神社　高山村大字高山に在り鄉社にして天照大神、倉稻魂命、足仲彥命、穴門武姬命の四座を合祀す此傍に石灰岩よりなる**一大洞窟**あり每年二月、六月、十月の巳の日を以て大祭日とす近鄉より參拜者多し**高山牛**を以て名ある高山市は此處に在り。

國吉城址　手莊村國吉山の巓に在り元弘年間安藤元理の築城し三村、日羽、糟谷池田の諸氏を經て寬永十九年德川氏の直轄となり代官を置くこと五十有七年元祿七年水谷勝時の治處となり後七代百七十餘年を經て明治維新に至る。

名産　本郡の**蒟蒻**は手莊大賀の兩村を中心とし縣下全生產の大部分を占め其の他松茸、五倍子、銅は本郡の特產なり、成羽に於ては最近紬織を始めたるが成績良好なり。

十七　阿哲郡

新見町　備中北部に於ける交通の要衝に當り伯備、作備の兩線交叉して交通極

めて便なり岡山を距ること二十里二十七町、人口約六千を有す元祿十年以降關氏一萬八千石の城下たり、此地より高梁川に舟楫の便あり東方に海拔二千餘尺の黑髮山あり。

阿哲峽　伯備線井倉、神代驛間高梁川に沿ふ蜿蜒數里の地域を總稱せるものにして至る處高梁川の清水岩を洗ひ屈曲して淵となり直流して瀨となる、奇巖聳ゑ怪樹影を壓す勝景獨逸のライン河峽に髣髴たり春は躑躅岩に咲き夏は河鹿清凉の咽喉を濡はし秋楓葉の頃は怪柏蟠松を點綴するに紅の錦を以てし四季夫れ〴〵の眺望絕佳にして宛然一幅の畵圖の中にありて曳笻疲勞を覺ゑず眞に天下の奇勝として誇るに足る。

羅生門　井倉驛東約一里十町草間村大字土橋にあり石灰岩の洞貫したる三個の大石門十餘間を距てゝ山間に直立す而して溪流相集りて鐘乳竇内に入り其末狹りて深淵をなす東豊永村の橫の穴あり之亦鐘乳竇にして內竇頗る廣く而も奇觀をなす。

絹掛の瀧　草間村御山國有林北方にあり井倉驛を距る南約一里、直下百五十尺の絕壁の頂上より直下する壯觀水量多からずと雖も眞白の練絹を掛けたるが如く深き瀧壺畔には瀧見茶屋、瀧見堂あり。

萬歲井　新見町より吹屋町に至る萬歲村縣道の沿道に位す傳へ曰ふ此の湧泉は昔宇多天皇此地に巡幸し給ひし時命名あらせられしものなりき。

鹽山城址　熊谷村に在り西南の二方は數十丈の斷崖北西の通路は何れも險難にして要害極めてよし後鳥羽天皇の文治年間田治部雅樂頭元春の築城し其の後戰國の世尼子軍に陷らる迄子孫累世の居りし所、今僅に其の城壁礎石を殘存せり。

大佐山スキー場　刑部驛より北約十町、每年降雪期には數尺の積雪あり緩急申分なきスロープあり作備線唯一のスキー場なり。

刑部峽　刑部驛より北約十町小坂部川沿岸の老藤枝葉垂下し水に映ゐ一大絕景にして特に辨天の老藤名高し。

岩山神社　岩山驛より南十町上古石山宮と稱し八幡太郎義家の家人大宅太夫光住の家祖歷代の鎭守にして靈驗顯著にて每年大祭日には參拜者五千を算すといふ。

西山城址　野馳村大字八鳥市場の背後に聳ゐ俗に要塞山といふ、山上は西山城址展望頗る廣く眞に要害の地にして本丸、出丸九箇所の遺跡あり搦手に堀切ありて古井筒存在す當城開基は源賴朝の臣山川別當行房にて文治二年鶴が岡參拜の節隨兵十人の列に加はる天正年中毛利氏の臣久代彈正當城の主として野馳鄕を領し南北朝のころ宮下野守兼信入

道の子息次郎氏信備後宮内龜壽山城主となり八世相繼ぎたりき。

名産　郡の特産は千屋を中心とし附近數ヶ村に於ける和牛にして役用として特に體格強壯性質溫順肉亦美にして全國著名の産地たり楮三椏は眞庭、苫田、英田等の諸郡と共に良品を産す香茸は神代村に産しひらめは小坂部川に繁殖し鮪に似て美味なり、又大井野の蕨は豊大にして「あく」なきを特徴とす。榧油は新見の名産にして芳香あり普通揚物用又はバタの代用とす木通蔓細工バスケットは新見町特産精巧且つ强靭にして旅行用に適し價格低廉なり、正田柿は果形大に甘味强し尙高梁川の本支流は鮎豊産にして鮎すし鮎吉野漬等あり其の他地勢上郡內一般に木炭煙草の産出夥し。

十八　眞庭郡

勝山町　旭川の上流岡山より十八里三十四町の所作備線中國勝山驛の所在地にして後櫻町天皇の明和三年三浦氏二萬三千石の領主として築城以來維新迄九世の城下たり高田硯、煙草、晒葛等を産す、神代竇（一名鬼の窟）は大字神代に在り竇口高さ二丈七尺深さ二十二間頗る奇觀を呈す、尙不斷櫻は後醍醐帝の駐蹕舊跡にして四季花斷わず高さ五十尺に及ぶ。

神庭の瀧　高さ三十六丈、幅八間瀑聲雷の如く噴沫飛散して近くべからず、此の地危峰屹立して樹木幽邃常に群猿の林中に遊ぶを見るべく眞に縣下第一の名瀑たり、瀑南二町の處に巖窟あり更に東一間を隔てゝ滴雨泉あり高さ一間徐徐に岩面を走りて水晶簾の如し。

神代の鬼窟　月田驛より北約一里半勝山町字神代にあり一大洞窟なり。

不斷櫻　月田驛より北一里半後醍醐天皇御製の傳說の櫻にして有名なり。

久世町　津山より勝山に至る途中にして作備線久世驛あり、元德川幕府の代官所のありし所、此地の牛馬市は慶長九年の創設に係り寬政年中最も盛なりしと、寺畑と稱する壘跡は天文年間牧兵庫之に據り三浦氏の爲に毛利軍と戰ひ屢々戰功を立てし所たり大字神なる神林寺境內に梶原景時の墓地あり。

眞賀溫泉　湯原村中間に在り中國勝山驛より約三里人家山腹に倚り清流に枕み一幅の活畫を成す無色透明の炭酸泉にして溫度華氏百四度腸胃衰弱及び僂麻質斯の病症に奇効あり、又避暑地として知らる。

湯原の温泉　眞賀温泉より更に高田川に沿ひて溯ること二里にして達す鹽類泉にして硫化水素の微臭を帶ぶる山峽の温泉にして温度百七度より百廿二度、皮膚病、僂麻質斯神經病に効能あり、又砂湯は野趣に富み杜鵑、河鹿の聲に接する絶好の避暑地にして此附近に山椒魚を産す。

木山神社　木山村に在り縣社にてし素盞嗚尊を祀る、嵯峨天皇の弘仁年中の創祀にして祠運繁昌京阪よりの賽者多し社殿の傍に普善寺と稱する眞言宗の寺院あり。

イブキヒバ樹　落合町大字垂水に在り今より千五百十餘年前文德天皇天安二年菅原道眞齡十四才のとき此地に來り晝餐の折箸より生長したるものなりと云ふ村民菅公の靈を其の傍側に奉祀せり。

美甘の大欅　**美甘神社**の境内に在り安德天皇壽永元年三浦美濃守正治の封を美作に得るや自ら之を手植すと云ふ幹莖周圍三十六尺高さ四十二尺枯朶の蟠伸すること東西百三十尺南北七十尺餘に及ぶ。

舊道の詠跡　新庄村に在り後鳥羽天皇の隱岐に還幸せさせ給ひ鳳輦の此の地を通過し給ふや。

みやこ人誰ふみそめて通ひけん
　向ひのみちのなつかしきかな

との御製ありしと云ふ即ち村民其の**跡址**に碑石を立つ。

名産　久世町に産する**虎斑竹**は世界に稀なる特産物にして裝飾用として優美なり爲に亂伐行はれ一時根絶せんとしたるも最近保護を加へ漸次恢舊の緒に就けり**尙津田村**に産する**且土竹**は質柔軟にして寬桶類の輪用に適す美川の**松茸**は鑵詰用に適し**鄕原漆器**は堅牢なるを特徴とし一ヶ年貳萬圓の生産あり、**晒葛**は片栗粉に壓倒せられ年々生産を減じ現在にては僅に六千斤を産するのみなるも往昔より美作名産の一として一ヶ年二十萬斤を産し吉野に亞くの盛況を呈したるもの現在久世、勝山に四戸の製造家を有するのみ**山芋羊羹**は久世の名産にして**落合羊羹**は暑中腐敗の虞なきを以て販路廣く勝山町には**高田硯**を産し古き歷史を有す世界の珍魚**山椒魚**は本郡旭川上流の特産にして他に其の類を見ず鮎の豊且美大亦夏秋の頃旅客の珍とする所なり、火力乾燥を以て名ある**山中刻煙草**は本郡中北部の山地に産す**尙吉念寺の蒟蒻**（美川村）川東村古見の梨、桃等著名なり。

十九　苫田郡

中山神社　津山市を北に距る一里一宮村に國幣中社たる本社あり鏡作尊、瓊々杵尊、大己貴命の三座を合祀す本社の祠殿に文武天皇の慶雲三年の創建にして其の後屢々變遷あり現今の社殿は永祿年間の造營に係る每歲牛馬市を行ひ今尚益盛なり、北に華山天皇の遊幸ありしと傳ふる舊跡あり。

圓通寺　津山より北二里半香々美南村に在り眞言宗の伽藍にして弘仁八年弘法大師の開基なり其本堂に安置せる觀世音菩薩の像は即ち大師の自作に係るものなりと稱す

泉ヶ山　一に井水ヶ嶽と稱し高さ三千九百九十尺郡の中央泉村の東に屹立して峭崒天を磨す山腹に射水權現社あり絶頂に登臨すれば因伯、雲讃の翠巒指顧の間に在りて風景頗る明媚なり。

白金山石灰洞　上加茂村に在り登ること十三町南面して全山巖石高く峙ち頗る奇觀を呈す山上に一大洞穴あり深さ測るべからず。

藤原藤房卿の墓　中谷村の弘秀寺境內に在り後醍醐帝の隱岐に遷せさせ給ふや卿は此の地に來り聖運の隆泰を祈誓す然るに皇運益否塞し楠正成、名和長年等の相接踵して戰歿せしを聞き慷慨寢食を絶つこと三日終に近衞經忠卿（卿及花山院師賢、德大寺爲忠の二卿も此の寺に於て賊徒の襲撃に遇ひ自裁し給へり）の廟前に至り屠腹して薨ず村民等乃ち寺僧と相謀り其の遺骸を爰に葬ると云ふ明治二十四年茲に碑石を建つ。

奥津温泉　院庄驛より北方約六里大釣、鍵の二泉あり大釣温泉は鹽類泉やゝ溷濁し温度百二度、鍵温泉は前者より常に七八度高く透明硫化水素を含有し共に僂麻質斯、胃腸に効あり、風光絶佳にして夏の浴客多し。

名産　芳野の西瓜、白瓜は共に品質佳良、加茂の鳳尾竹は丸材の儘彎曲自在にして材又は洋傘の柄に最も適す、鎌は耐久力に富むを以て名聲を博せり、加茂の東雲漬は山獨活及びすゞの子（筍）等を以て製し粕漬となし鑵入なるを以て持久力に富む、羽出の盆は柿及欅より製し優美にして木理の珍奇なるもの多しと。

二十　勝田郡

勝間田町　勝田郡の中央、山陰國道に沿ひ戶數六百四十人口三千餘、農林學校等

あり、赤穂四十七士中有名なる神崎與五郎は此の地の出身にして其の墓は今尚田圃中に存す本町は元後櫻町天皇の明和三年久世氏の治所ありし所なりと云ふ、大字岡に藷無山あり昔後鳥羽上皇及後醍醐帝の共に隱岐遷幸の際御休蹕あらせられ給ひし所なりと傳ふ。

那岐山　本郡の最北豐並村の北端に聳ゆ作州第一の高山にして海拔四千九十三尺あり、山に登れば杳靄の中に南は遙かに瀨戸内海の潮波を望み北は遠く日本海の渺焉を觀取することを得、吹下す風を廣戸風と稱し年々農作の害甚し其の西嶺瀧山の山中に廣戸瀧あり傍に岩屋權現あり、堤内幽雅にして夏時避暑の適地とす、其の南北吉野、新野に跨る曠野を日本原野と稱し面積三萬三千四百餘坪縣下第一の高原にして近時陸軍演習地たり此附近は製紙及び養蠶盛に行はる尚其の東豐並村大字高圓の菩提寺境内に僧源空幼時手植の銀杏樹あり高さ十三丈三尺餘幹の周圍三丈二尺其の枝幹より垂下する乳房は其の數百五十餘本ありと全村大字西原の安祥寺境内には王子權現と稱し後醍醐帝の典侍廣橋の局主上の御跡を逐ふて此の地に來り皇子を生めり、皇子七才にして痘瘡にて薨し給ふを葬る所なりと云ふ。

風の宮　廣戸村に在り一大叢林中に洞穴あり相傳ふ之日本原野の烈風は此の洞穴より吹き出すと志那都比古命、志那斗辨命を祭り風の宮と云ふ往時幕府神饌料を獻供し毎年三月三日祭典を行ひたるも維新後無格社となり現今は陸軍演習地の地域内に入れり。

三星城址　豐國村に在り、此の地の豪族渡邊進兵衛長寛の二條天皇應保年中城を爰に構へて後醍醐天皇の延元四年後藤康基より累世此處に居を占め其の間戰亂相續き去就定まりなかりしも正親町天皇の天正五年終に宇喜多直家の爲に滅さる。

湯郷温泉　林野驛より西南約三粁吉野川の西畔に在り鷺の湯の名あり泉質は透明無色著しく硫化水素臭を含有し鹹味を帶ぶ温度は華氏九十六度皮膚病僂麻質斯に奇効あり舊記によるに太古少彥名尊鷺を浴せしめて温泉のあることを知らしめ後埋沒せしを清和天皇の貞觀二年叡山の僧圓仁法師の再興し今日に至ると夏期浴客殊に多し。

八幡神社　大崎驛西約一粁勝田郡高取村字黒坂にあり延暦三年和氣淸麿、石野國持に命じ宇佐八幡宮の分靈を祀らしめしものといふ、貞觀三年大宅鷹守神功皇后征韓の時の御腹帶を請ひ之を納む。

光白地藏　大崎驛東南約四五〇米正德年間出羽湯殿山の僧光白行脚の砌り足を病みて此地に死す後世身體下部を病むものに奇効ありと傳へ遠近賽客多し。

王渡の橋　大崎驛西約四〇〇米後醍醐天皇隱岐へ御遷幸の砌この橋を渡り給ひてこの名がある。

横手城趾　大崎驛南約二粁永久元年横川重敏の築城と稱す。

姿見橋　勝間田驛より西約一粁勝間田町大字岡蟲池にあり、後醍醐天皇隱岐へ御遷幸の際此の橋上に御駐輦の砌龍顏を池水に寫させ給ひ御詠ありしとて姿見橋と稱す。

御湯の跡　勝田間驛西約五〇〇米往昔温泉湧出し元弘二年後醍醐天皇隱岐へ御遷幸の砌此所に浴し給ひしと傳へられてゐる。

露無山　勝間田驛より西約一粁後醍醐天皇御行在の砌夜露降りず、後世露無山といふ。

天皇森　勝間田驛西約一粁後醍醐天皇隱岐へ御遷幸の途次御駐輦ありしと傳へらる。

兼政磧　勝田間驛西北三〇〇米現在の中島公園なり。

戸倉城趾　勝間田驛東南約二粁南北朝時代赤松家の臣戸倉氏最初の城主として此の地に據り戸倉城と稱し次で後山名氏の臣鹽見氏入城して小矢田城と改稱した。

名産　湯郷の紬織、廣野の和紙、生絲、五倍子等共に名あり。

二十一　英田郡

林野町　舊名を倉敷と云ひ林野驛の所在地にして吉井川の上流江見川（吉野川とも云ふ）と梶並川の相合する所に位し津山より東四里半を隔つ津山以東に於ける交通運輸の要地たり倉敷城址は南北分朝の頃山名時氏爰に築城更に永祿年間尼子氏の臣河副久盛の之を守る後宇喜多直家の占領するや其の臣江見久資居城し關ヶ原役後は小早川秀秋の部將稻葉通政之に居り森氏の美作守となるや廢毀せらる。

安養寺　林野驛南約一粁本尊十一面觀音菩薩（丈三尺五寸）は國寶に編入されてゐる。

京山に後山　京山は粟井村に至り頂上二つに分岐し何れより望むも共に二面し奇態をなす後山は東粟倉村の國境に在り高さ四千二百九十二尺嶺上に道仙寺あり昔山伏の靈域たりし所毎年四月八日より九月七日迄に參詣者多し。

眞野ヶ原　土居村にあり播磨との國境風景甚だ佳なる所日野大納言資枝卿の詠せ

しことあるを以て名あり。

杉坂峠　江見驛東約五粁土居の北江見村大字田原に於ける國境にして國道の險要地たり元弘年間後醍醐帝の隱岐御遷幸の際兒島高德舟坂山より更に御跡を慕ひて此地に來り鳳輦を奪ひ奉らんとして事成らず更に院庄に向ひしと後建武三年新田義貞の臣江田行義兵二千餘騎の將となり美作の賊軍をこの峠に討たんとせしこと太平記に載せらる。

毘沙門天　江見驛西北約三粁餘長城寺內にあり聖武天皇の御代僧行基の開基により大伽藍を建設し其後戰國の兵燹に罹り燒失したるが豐臣秀吉再建後三百有餘年其儘現存す。

天石門別神社　林野町を距る三里河會村に在り縣社にして手力雄命を祀る舊記に依れば吉備津彥命吉備國平定の時此神靈驗を現し給ひしに依りて社を草創せらる社後の懸崖に**早瀧**あり其の下流瀧川は社域を繞流して華表の前に至り急湍をなす茲を**琴曳の瀬**と云ふ此社は每歲陰曆九月八、九の兩日大祭を執行し神輿の壯嚴有名なり。

鞍懸城址　粟廣村大字田殿に在り南北分朝の頃赤松氏の一族佐用貞久の居城たりし所、山名氏の爲に亡され其の後間もなく廢城となる。

名産　**製茶**は著名產地にして縣下生產の約四割を產し林野に岡山縣茶業組合あり、**生糸**、**河會の大栗**等亦名あり。

二十二　久米郡

天魔の瀧　中國線弓削驛より約二十町松部落より溪流に沿ひ樵路を攀つれば數町にして素練の絕壁に懸れるを見る之即ち天魔瀧とす高さ約十間、幅五間、眺觀殊に奇なり。

佛教寺　仝驛より西二十五町龍川村に在り和銅三年喜惠上人の開山し肩野部長者乙丸の建立せしもの後弘法大師歸朝に際し錫を此地に留め特に四天王の像を安置し元慶年中陽成天皇勅して四十九の僧舍を建立せしめられし等を以て名あり。

本山寺　仝驛より東二里二十五町吉岡村に在り、鐘樓の傍にある逆木の櫻は僧源空の母、子なきを憂ひ此の寺の觀音に祈る源空即ち生ると一日參籠のとき携へし杖を挿ししに枝葉を生し花を着くるに至ると傳ふ、寺は文武天皇の御宇賴觀上人の草創し後天平寶字の頃唐の鑑眞和尚來朝して伽藍を再興す。斯く由緒正しき故にや明治二十一年內務省より特に保存費壹百圓を賜はる。

誕生寺 中國線誕生寺驛より僅に五町稻岡南村に在り、淨土宗の開祖僧源空の生誕地、後鳥羽天皇の建久四年其の弟子熊谷入道（次郎直實のこと）に命じて創建せしめし所本堂に源空自作の影像を安置す每歲四月七日圓光大師（源空のこと）の誕生會を執行す寺域を流るゝ**清流**に住める魚は悉く隻眼にして其の川を片目川と稱すと、附近松茸の產夥し、境內に赤松義則の墓あり義則は北朝に屬し足利氏の命を受け山名氏清を討ちて功あり美作守護に補せらる。

荒神山 津山市の南一里山中に宇喜多直家の臣花房職房の嘗て城砦を置きし所あり其の北に孤松を存す之職秀の建立せし跡なりと云ふ。

佐良山 佐良山村にあり高さ僅に百二十尺麓より北五町にして祠宇あり和歌神社とす、往昔六條修理太夫顯季朝臣の美作の守たりしとき柿本人麿を崇尊し其の像を安置せしものなり、古人の此山を詠するの歌尠からず。

八出天神社 津山市福岡に在り鄉社にして菅原道眞を祀り菅公自作の塑像を神體とす口碑に傳ふる所に據れば菅公の筑紫に左遷せられし時此の地に留まることゝ八日、故に後ち八日出を略して八出と云ふと現在の社殿は慶長十八年津山藩主森忠政の造營せしもの西南に冬梅壇の小墩あり古へ冬梅のありし所寬永年中枯れたるものなりと稱す。

岩屋城址 大井西村に在り嘉吉元年赤松氏に代り山名氏の守護たるや茲に築城し後中村則久代り更に尼子氏、宇喜多氏を經て毛利の屬將、中村賴宗居城す後再び宇喜多氏に歸し小早川氏を經て森氏の來るに及び廢城となる。

三村家親の墓 龍山村に在り、家親は元防州大內家に屬せし勇將なり大內氏亡ぶるや毛利氏に屬し備中淺羽城に居る元龜の初め毛利氏の先鋒として美作に入り興善寺に居る宇喜多直家即ち遠藤河內守をして銃殺せしむ仍つて其の遺骸を爰に葬れるものなりと。

名產 **弓削の燒酎**は強度なると芳味の宜敷を以て名あるも產額僅少にして普通**飲料**に適せず、**山芋羊羹**は大倭村に產し滋養に富み頗る美味たり一ヶ年八萬圓を產す、**大鼓饅頭**は弓削に產し永く腐敗せざるを特徵とし一ヶ年拾萬圓を產す。弓削誕生寺の**松茸**は極めて豐產にして白雲紅葉の節筇を曳くもの頗る多し。

昭和十年三月廿五日印刷
昭和十年三月三十日發行

岡山縣經濟部
商工水產課

岡山市富田町四七番地
印刷者 內田鶴松

岡山市西中山下一五四番地
印刷所 山陽新報社印刷部

岡山県総合文化センター
0137245
昭10 日
K670.3 1 0-35

岡山県総合文化センター
0000785055